

会 議 開 催 結 果 概 要 書

1 審 議 会 等 の 名 称	岸和田市生涯学習審議会
2 開 催 日 時	令和 8 年 7 月 10 日(金) 10 時～12 時 30 分
3 開 催 場 所	岸和田市立公民館・中央地区公民館 4階 多目的ホール
4 公 開・非 公 開 の 別	(公 開) ・ 非 公 開)
5 非 公 開 理 由 (非公開の場合のみ)	
6 出 席 者	委員 15 名、事務局 12 名
7 傍 聴 人 数 (公開の場合のみ)	2名
8 議 題 及 び 審 議 概 要	1. 開 会 2. 委嘱状の交付 3. 会長及び副会長の選任について 4. 案 件 (1)社会教育関係団体補助金について (2)岸和田市生涯学習実施計画の進捗状況(令和7年度分)について (3)生涯学習施策に関するアンケート結果について (4)次期生涯学習計画策定ロードマップについて 5. 閉 会
9 そ の 他	

生涯学習審議会 会議録

内容承認	佐藤会長：承認 中村副会長：承認
会 議 名	令和８年度 第１回生涯学習審議会
日 時	令和８年７月１０日（金）１０時～１２時３０分
場 所	岸和田市立公民館・中央地区公民館 ４階 多目的ホール
出席委員	佐藤会長、中村副会長、〆野委員、山本委員、池内委員、松端委員、西村委員、吉田委員、実森委員、池田委員、杉原委員、楠本委員、上月委員、里見委員、兵埜委員、以上１５名
欠席委員	新田委員、藤原委員 以上２名
事 務 局	池内生涯学習部長 【生涯学習課】長谷川課長、加柴参事、西川担当主幹、畑部担当長、竹川主任、山本会計年度任用職員 【スポーツ振興課】仲村課長 【郷土文化課】井上課長、瀬尾担当主幹 【岸和田市立図書館】宇野館長、藤田担当主幹、以上１２名
傍聴人数	２人
次 第	１．開 会 ２．委嘱状の交付 ３．会長及び副会長の選任について ４．案 件 （１）社会教育関係団体事業補助金について （２）岸和田市生涯学習実施計画の進捗状況（令和７年度分）について （３）生涯学習施策に関するアンケート結果について （４）次期生涯学習計画策定ロードマップについて ５．閉 会
資 料	資料１ 岸和田市社会教育関係団体一覧（補助金申請団体） 資料２ 補助金対象事業予算内訳書【各団体別】 資料３ 岸和田市生涯学習実施計画 令和７年度 振り返りシート【各課別】 資料４－１ 生涯学習施策に関するアンケート調査報告書 資料４－２ 生涯学習施策に関するアンケート調査 自由意見欄取りまとめ 資料５ 次期生涯学習計画策定ロードマップ 別紙１ 岸和田市生涯学習審議会委員名簿 別紙２ 岸和田市附属機関条例 別紙３ 岸和田市生涯学習審議会規則 別紙４ 社会教育法（抜粋） 【参考資料】 （１）「岸和田市生涯学習基本方針」 （２）「岸和田市生涯学習実施計画」 （３）「第６８回全国社会教育研究大会大阪大会のご案内」

１．開会

２．委嘱状の交付

3. 会長及び副会長の選任について

＊会長に佐藤委員、副会長に中村委員を選任。

4. 案件

(1) 社会教育関係団体事業補助金について

＊事務局より資料1, 資料2について説明。

【委員】親の都合等でこども会に加入できない子どもたちもいると聞いている。同じ地域の中で同じ学校に通っているのに、こども会に加入しているかどうかで分断ができてしまうことにつながると思われるが、そのような状況の中でこの予算をどういう形で使っていくのが良いと考えているかを聞かせてほしい。

【事務局】事務局としても難しい問題であると考えている。岸和田市こども会育成連絡協議会（以下「市こ連」という。）の財源は、もちろん本補助金もあるが、そもそもの基盤としては、各単位こども会の会費がベースになっていると考えている。親の都合で加入していない、加入できないということを耳にすることもあるが、市こ連からはこども会の活動内容を周知し、魅力を伝えることで加入を促していくことから始めたいと聞いている。

【委員】生活困窮者やひとり親家庭等で、こども会に加入できない方もいると思う。この問題はこの審議会だけで解決する問題ではないと思うが、今後も一緒に考えたいと思う。

【委員】金額については審議の対象外ということで理解しているが、資料2において、比較的金額の大きい区分（需用費）については明細がわかるようにしたほうが、一般的に理解しやすいのではないかな。

【事務局】今後の参考にさせていただく。

【委員】これまで補助金を申請したことのある、ガールスカウト大阪府第78団、岸和田市PTA協議会、岸和田市青年団協議会が今回申請されていない。現在の状況となぜ申請されなくなったかを教えていただきたい。

【事務局】団体によって会計の状況は異なるが、補助金の申請をしなくても団体の運営が可能な場合もあれば、活動が縮小し、補助金の申請をする会計規模で無くなっているという場合もあると考えている。

【委員】どの団体も活動を維持するのが大変になっているので、補助金のあり方も考えていく必要があると思う。行政がすべてを担うという時代ではなくなっているなかで、先進的な取組を頑張っている団体にインセンティブとなる仕組みを作るなど、いろんな方策を試行していく必要がある。補助金を申請しないということは、時代の変化の現れでもある。各団体の参加者が減少傾向にあると聞いているが、例えば社会教育における野外活動などは全国的にも厳しい中で、市としては今後どのようにサポートしていく方向なのか伺いたい。

【事務局】難しい問題であるが、まず、各団体の運営方針は各団体が自主的に決めるものであると考えている。今提示しているものは補助金という形で活動をサポートする方式であるが、他には生涯学習課や自治振興課において、団体から活動や事業の提案を受け、それを採択するという形のメニューもある。実際にどんな形がベストなのかは今後検討する必要がある。

【会 長】補助金を申請しない理由や、活動が低調な理由、これからの活動の方向性については各団体に聞いてみないとわからないので、事務局は情報収集しておいた方が良いと考える。

社会教育関係団体事業補助金については、審議会で補助金を交付するかどうかの決定は行いません。各種団体の補助金についてのご意見をいただき、社会教育に広く還元されているのかどうか、今後のあり方などの方向性について参考にさせていただくのでご了承いただきたい。

(2) 岸和田市生涯学習実施計画の進捗状況（令和7年度分）について

＊事務局より、資料3について説明。

【会 長】振り返りシートは4課に分けて記載されているので、生涯学習課、スポーツ振興課、郷土文化課、図書館の順番で検証を行う。それでは、生涯学習課の振り返りシートについて意見・質問はあるか。

【委 員】振り返りシートを見ても、計画が進んでいるかわかりにくい。生涯学習では目に見えるものがないので非常に難しいのだろう。例えば家の建築なら、まず地盤改良をして、基礎を作るという明確な過程がある。計画について毎年事業内容について見直ししていると思うが、進捗がわかりにくいと感じているので、皆さんの意見を聞きたい。

【会 長】行政計画の評価について、一般的に多くの自治体では岸和田市と同様に、事業目標を数値化して達成しているかどうかを確認している。他には各事業が本当に達成されたかを確認するため評価する組織を作っている自治体もある。社会教育、生涯学習の評価というのは、建築とは違い、目に見えるものがないので、結果というよりプロセスの方が重要である。そのプロセスをどう評価するかは学者の間でも意見が分かれている。一般的な行政評価として考えた場合、岸和田市の振り返りシートによる数値目標で達成度を評価する方法が妥当であると考えられる。一方で、学術的に考えるとそれだけでは不十分だという議論もある。

【委 員】審議会は年間3回しか開催されないと聞いている。それでどれだけの議論が深められるのか。計画策定などのためのワーキンググループを作って月に一度程度集まるのはどうか。そこには市職員も加わって、現場の率直な意見も聞きたい。

【会 長】計画の進捗評価や、計画策定のためにワーキンググループを作るというのは他の自治体でも行われていることで、学術業界でもその方が良いとされている。自治体がどのように進めていきたいかという意向や、事務局の体制の問題もあり、そこに至っていない自治体もある。

おそらく岸和田市は学術業界の評価でいえばその点では不十分だと思う。

【事務局】 振り返りシートは毎年、その年度の1年間の実績を振り返るために、資料3の右端にもある通り目標値を定めており、年度ごとに検証している。今の実施計画は前期と後期にわかれている、昨年度が後期の最初の年であったため、昨年度には前期分まとめた評価をさせていただいた。後期についても、最終年度終了後に取りまとめて評価をさせていただく予定である。

【委員】 振り返りシートに記載している事業で知っている事業はごく一部であり、ほとんどが知らないものであった。一度事業として成立すると廃止することは難しいと思うが、新たな事業を増やすと予算的にも増える一方になると思う。事業の増減についてはどう考えているか。

【事務局】 時代が変化するなか、新たに増える事業も当然あるが、委員のおっしゃる通り、新しい事業を増やしていくと予算も膨らむばかりになるため、全庁的に毎年各事業の振り返り、検証を行い、必要であれば見直しを行い、廃止することもある。

【委員】 4番の出前講座事業に関して、この事業だけではないけれども、アンケートにもあるように受けた研修や講座があまりないという意見がでていた。その中で今の時代に必要なものを取り込むための提案として、SNSの利用、とりわけ子どもたちのスマホのリテラシーについては社会教育として取り組むべき問題ではないかと思う。学校教育と協働して啓発していくことが必要ではないか。6番の社会教育主事講習参加事業については、社会教育主事をいかに増やしていくかが大事だと思う。社会教育主事が増えることで本市の社会教育を支える土台になると思うので、どういう形で増やそうと考えているかを聞きたい。

【事務局】 1番目については、ご意見を参考にさせていただき、魅力のあるメニューを検討していきたいと思う。2番目については、自治体からの社会教育主事講習の申込はどうしても毎年各自治体1人程度の割り当てになってしまう。今年度も1名は和歌山大学へ派遣する予定。今後継続して予算を確保し、毎年1名を確実に受講していけるようにしたい。

【委員】 社会教育主事の任用資格を取得しても、結局市の人事として、公民館や生涯学習・社会教育に関連する部署に配属されていない人もたくさんいると思う。社会教育主事の任用資格を持つ職員ができるだけ関連する部署に配属されるような取組はないか。

【事務局】 市としては社会教育主事任用資格を持つ人を専門職として採用するという事は現状していない。生涯学習関連の部署に配属された職員が、社会教育主事講習を受け、数年にわたってその資格を生かして働くということは一定できているが、長い市役所生活の中で昇格や昇進であったり、いろんな分野を経験するという人事制度のなかで、生涯学習関連以外の部署に配属されることもある。これは市全体の人事の話になるので、一定やむを得ない部分もあると考えている。

【委員】 図書館の司書もそうだが、専門職がこれから鍵を握る部分の一つだと思う。社会教育主事は

現状だとあまり重要視されていないと感じる。しかし、社会教育主事が専門職として生涯学習活動に関わることで、社会教育活動の中で社会教育主事が中間支援をしていくことが大事だと思う。

【会 長】社会教育主事講習は近畿では開催場所によって定員が異なるが、近畿の枠だと各市町村1名ぐらいの割り当てになってしまう。事務局へのアドバイスとしては、東京上野にある社会教育実践研究センターではオンラインで社会教育主事講習が受けられる。また、北海道の教育委員会や島根大学もオンラインで定員が多いので、予算が確保できれば、近畿地区での受講以外にもオンラインで受講する方法もある。

【委 員】今回初めて参加したが、資料、文字が多く驚いている。もう少し要点をまとめられないか。これでは各担当課が自己満足のために作成していると感じる。これだけの資料を全部読めと言われても読めないし、読む時間もない。

【事務局】ご意見を受け止めて、工夫できる部分があるか検討する。

【委 員】私は一般企業の出身なので、要約するときはA4サイズ1枚で皆に周知、説明する。これが「読ませる、聞かせる」の基本だと思う。

【委 員】私は民間企業の経営企画にいたので、この審議会の資料の作り方は常識だと思う。9年間で3年ごとに短期、中期、長期の戦略目標を立てて1年毎にチェックしていく。私の意見だが、しっかり中身を見ていけばいいと思う。

【委 員】資料が見にくいという話があったが、要は実施計画が目標に向かって着実に進んでいるかを毎年度チェックするために、この資料を作っていると思う。我々審議会としては、目標値にすでに達している部分については今後の方向性「変更なし」で問題ないが、まだ目標値に届いていない部分で「変更なし」になっているのは内容をしっかり確認する必要がある。また、目標値については今年度だけの目標値ではなく、後期計画の目標値であるため、今年度についてはまだ目標値に届いていないけれども、確実に後期計画の目標値に近づいているということもあろうかと思う。今年度の課題の部分等に今後の方向性について「変更なし」の理由がわかる記載があれば問題ないが、そうでない部分は何かしら記載してほしい。

【事務局】資料作成時に表現の仕方等を工夫したい。

【委 員】「変更なし」と書いてある事業についても、課題のあるものがあると感じている。例えば13番の公民館活動団体支援事業のところでも、どのような支援を具体的にしているのかが示されていない。今後は庁内の連携も必要で、例えば自治振興課の市民活動サポートセンター（サポセン）や社会福祉協議会のボランティアセンター（ボラセン）などとの協働も進めていかないと、公民館だけで問題解決することはもう不可能。こうした横の連携について、具体的な記載がなされていないが実際どうなのか聞いたかったし、我々も検討していかなければならないと考えている。

また、17 番の学び舎プログラム／まちづくり実践プロジェクト事業では、これから社会教育を担っていく団体がどのように増えていくのかが全体として共有されていないのではないかなという気がする。具体的にどのようなプロセスで増やしていこうとしているのか。この事業だけでは解決されない。補助金の対象団体をどう見ていくのか、最終的に委託にするのかどうかといったその先のプロセスが描けなければ、なかなか団体は増えない。無償のクラブ活動や学びの段階から、具体的にクラブや団体を形成していくプロセスの中で、徐々に組織化され、それが法人格取得などへつながっていく。こうしたプロセスを思い描いて計画が立てられているわけではないと、全体のデータを見て思った。

22 番の家庭教育学級運営事業も参加のあり方が今後の課題になると思う。公民館でのリアル開催だけではなく、オンライン配信等が重要。そうした手法を取り込まないと、働きながら、個別の時間も大切にしながら、参加したい人たちが自由に選べる仕掛けが必要ではないかと思う。

また、29 番のスクールガードリーダー配置事業や 32 番のリーダー養成事業に関して、参加者数の減少や担い手不足といった課題に対して、「変更なし」として実施するのでよいか疑問である。対策を講じないと、教育キャンプのように事業が終了してしまう可能性もあるし、このようなかたちで事業が消滅していったのかという懸念がある。

37 番の子どもの居場所教室事業については、子どもの居場所の問題も同様で、ジュニアオーケストラのような事業だけでなく、学校における第 3 の居場所づくりや子ども食堂など、居場所づくりを担う団体との連携をどのように考えるのかも視野に、計画を立てていかなければならない。そうした点について検証が足りていないのではないかな。

最後に公民館について、現在は久米田青少年会館が廃止になって、19 館から 18 館になった。こうした再編集約についての進捗状況を教えてほしい。単に公民館がなくなる・なくなるの議論ではなく、実際その必要性を問うていくにあたって、本市の自治基本条例の考え方や協働の理念をどう学んでいくかという視点がない。社会教育や生涯学習自体が分からないという意見もアンケート等で散見される。かつては時代背景の中で市民や行政が議論しながら作り上げてきたことがあったが、情報が氾濫する現在においては、その根本の部分が希薄になっている。改めて学ぶ機会を設けながら議論を進めないと、非常に危険ではないかと考えている。本市が市民参画で本市のかたちを保つことができているのは、踏ん張っていただいている団体やみなさんのおかげ。もしそれらが失われれば、現在の形ではなくなってゆく。祭りのつながりだけでは形成しえない。祭りと市民参画・協働を連携させながら考えていく必要がある。そういう筋の通った計画を今後立てていくべきだということを付け加えておく。では、公民館の再編集約の進捗について教えてほしい。

【事務局】基本方針に基づく第 1 期実施計画の期間は過ぎたが、全ては完了していないため、第 2 期実

施計画を策定する前に、第1期実施計画を整理し進めていかなければならないという認識である。

【委員】今後、公民館のあり方、再編について、当審議会で議論されるのか。実施計画を立てていくということは公民館の今の状況と数は密接に関連しているので、一緒に議論するのか、それともそこを切り離して議論するのか。

【事務局】公民館の再編は生涯学習計画と密接に絡み合っている部分ではあると思う。ただ建物等ハード面としては、公民館だけの問題ではない。市が保有する様々な施設等とも、密接に絡み合ってくるので、公民館だけを切り出して方向性を検討することは難しい。

【会長】社会教育・生涯学習が、どうして教育委員会にあるのかを考えると、市長のトップダウンで進めるものではないからである。行政の財政部局は全市的に考えて、全部一緒に考えてしまうけれども、そこはなぜ生涯学習が市長部局と分離されているのかを考えて進めていただきたい。では、次にスポーツ振興課の事業に進めていきたい。

【委員】20番の市民プール等管理事業で、現在の状況では12プールを管理しているが老朽化のため、令和6年度は7プールを休止、5プールを開場しているが、近年は各プールとも、利用者が減少しているというところで、プールの計画が今後どうなるかと、初心者水泳教室はどのように、それに伴って変化しているのかを聞きたい。

【事務局】市民プールの状況は、老朽化が進んでることもあり、屋外プールがもともと12ヶ所あったところ、残念ながら年々休止せざるをえなくなり、令和7年度は4プール、令和8年度はさらに減って3プールの市民開放になっている。このプールの状況に関しては、市民のプール利用が減っているということもあるが、老朽化したプールの利用が危険性も伴うものになることが大きな理由である。今後の計画としては、屋内プールの整備に向けて進めており、今の目標では令和11年度中に屋内プールをスタートさせたいと考えているので、それまでの間、今ある屋外プールを何とか維持していきたい。

9番の水泳教室開催事業については、小学校1年生から6年生のうち泳ぎが得意でない児童に参加いただいて、25メートル泳げるようになることを目的として毎年開催している。近年は市民プールの休止が増えていること等も関係し、参加者数が徐々に減っているが、学校等への周知や、SNS等も使って今後は周知に努めていきたい。

【会長】では次に、郷土文化課の振り返りシートに進めていきたい。

【委員】2番の展示普及事業の国の重要文化財に指定された古文書等について、13件中7件が久米田寺関係のものである。岸和田市では保存設備がないから市外の博物館に実物が保管されている。絵画等については図録があれば問題ないが、古文書についてそうもいかない。重要な文化遺産を市民に共有できるようにしてほしい。設備の問題で展示が難しいようであれば、古文書についてはそのままでは読めないなので、現代語訳するまでに非常に時間はかかると思うが、市民が読めるようにすることはできないか。

【事務局】市としても、国の重要文化財に指定された久米田寺文書については本来であれば市民の皆さんに見ていただきたいと考えている。ただし、本市の施設、設備の状況では展示ができないと国から通達があった。また、現代語訳についても莫大な時間がかかる。市民の方々の目に触れていただけるようにしたいが、あくまで市が所有者ではないため、久米田寺や歴史博物館と協議しながら今後の方策を考えていきたい。

【委員】泉佐野市の例だと、現代語訳を作るのに5年かかっていたので、同じぐらいかかると思う。全国の歴史に興味がある人が読めるような状態を作っていただきたい。

【委員】全国で展示物の廃棄が課題と聞いているので、今の岸和田市の状況を聞きたい。また、提案になるが、今後図書館が建替えられるのであれば、その建替え後の図書館に収蔵物を保管できる場所を作っていくのはどうか。また、12番の野外観察会実施事業でボランティアに対し、傷害保険に加入したとある。ここ数年同じ意見を言っているが、専門知識を持つボランティアに対するサポートとして、保険に加入については実を結んだが、他市から来られる方については、他にもサポートがないと来てもらえないと思うので、そこについての考えを聞きたい。

【事務局】以前は本市では市民の方か寄付の希望があれば、全ていただいていた。現状は収蔵庫の容量の問題があるため、寄付の希望があっても、既に同じようなものを所有していない、かつ、本市の歴史的に価値があるもので、展示に耐えうるものという基準で選別している。次に、紙資料を図書館で一括管理するのはどうかという提案に関して、現状の紙資料の保管は、収蔵庫において、温度湿度の調整や年に3回の害虫調査等を実施しているため、図書館の本と一括で管理するのは難しいと考えている。

【事務局】ボランティアの件について、令和7年度は5名の方、今年度は10名の方に対し、保険に加入することができた。また、ボランティアへの他のサポートについては、何か謝礼をお渡ししたりということかと思うが、市全体でどうかというと今のところ調査ができていない。現状生涯学習部内の他の課でもボランティアに来ていただいているケースもあるが、各課でいろんな取り扱いがあると聞いている。講師であれば、報償費を支払うことはできると思うが、そうすると予算の関係上、事業の回数が減ってしまうことにもなりかねないと考えている。

【委員】ボランティアなので、報償というよりも交通費の問題が大きいと考えている。遠方から来られるボランティアの方に対して、交通費の補助は検討いただきたい。また、図書館の件は、図書館の書物と一緒に保管するのではなく、図書館の中に、古文書等の紙の歴史資料専用の収蔵庫を設置するのはどうかという意味での発言であった。

【会長】では次に、図書館の振り返りシートに進めていきたい。

【委員】図書館の建替えの進捗はどうなっているか。

【事務局】立地場所は、現在地、浪切ホール、中央公園、本庁舎跡地の4か所が候補地となっている。

早期に場所を確定できるように現在検討を進めている。

【委員】図書館建替えの大まかなスケジュールを示していただきたい。

【事務局】まだ建替えの場所が未定であり、いつ建設するか、いつ完成するかは未定である。

(3) 生涯学習施策に関するアンケート結果について

＊事務局より、資料4について説明。

【委員】自由意見欄について興味深く読んだ。ただし、取りまとめたものがほしかった。私はアンケートをあまり信用していないので、実態調査として現場で話を聞くことをやってほしい。例えば、和歌山大学の学生さんに協力いただくなどの方法もあると思う。

【事務局】自由意見欄は、資料4の26ページと35ページにおおまかなまとめを記載をしているので、参考にしていきたい。

【委員】アンケート結果について面白い結果になっていて、若い世代と他の世代の情報の集め方の違いや、興味関心、生活実態まで一定反映されていると思う。これから計画をたてるにあたって、どのように分析するかは今後の課題であると思う。今は時代の節目に当たっていて、今まで通りのやり方だとうまく行かない可能性が高いので、会長、副会長の力も借りて、みんなで分析することが必要だと思う。これを土台にしながら、一緒に計画について検討していきたい。

【事務局】委員や各委員の選出団体に広く協力いただき、相応の傾向が読み解ける調査結果を得ることができた。この調査結果を参考にしながら計画策定に役立てていきたい。

(4) 次期生涯学習計画策定ロードマップについて

＊事務局より、資料5について説明。

【委員】はじめに提案したワーキンググループについて、他の委員はその案についてどうお考えか。

【会長】今の提案については、ワーキンググループはあった方がいいと考えている。ただし、この計画策定にどれぐらいリソースを割けるかは事務局の判断になると思うがいかがか。

【事務局】資料の説明にあったとおり、審議会で意見を伺いながら骨子案と計画素案を作成していく中で、一定形になったものを団体アンケートに協力いただいた団体にご意見をいただくという手順で進める方向で考えている。

【委員】難しい課題だと考えるが、承知した。

【委員】ロードマップの資料にある、生涯学習推進委員会というのは実務を担当する組織だという理解で良いか。審議会と別の組織があるということか。

【事務局】市長の附属機関である本審議会とは別に、庁内の生涯学習施策を推進するために既に設置さ

れている委員会である。市長を委員長とし、副市長、教育長を副委員長、全部長を委員として組織されている。庁内での施策や体系づくりの検討はこの組織を通じて実施していく。

【会 長】 行政の中の委員会ということである。

【委 員】 高槻市では毎年5月の連休の2日間に行われる高槻ジャズストリートという催しがある。もともと小さな喫茶店から始まったようであるが、年々規模が大きくなり今は市内の大きなホールや小中学校の体育館、他にも飲食店等70か所ぐらいでジャズが無料で聴けるイベントになっている。全国から15万から20万人のジャズファンが訪れている。これこそ生涯学習であると感じた。岸和田の場合、有名なだんじり祭がある。その組織やパワーを利用して何か目玉を作ることはできないかと思う。そのアイデアがあちこちから出てくることを期待している。

【会 長】 他に意見がなければ、本日の議事を終了とする。

＊事務局からの報告事項

【事務局】 審議会は今年度本日を含めて最大3回を予定している。第2回は10月か11月に開催予定。ロードマップで確認いただいた骨子案について審議いただく予定。もう一点、全国社会教育研究大会が、今年度10月に大阪で開催される。審議会委員で参加を希望する場合は、参加費と交通費を数名分は市で負担できるので、希望者は事務局まで連絡いただきたい。

【副会長】 今年度と来年度は令和10年度からの新たな計画策定に向けて議論を行うことになる。これをもって本日の会議を閉会とする。

5. 閉会

令和8年度 第1回岸和田市生涯学習審議会

と き 令和8年7月10日（金）午前10時から正午

ところ 市立公民館 4階 多目的ホール

《 次 第 》

1 開 会

2 委嘱状の交付

3 会長及び副会長の選任について

4 案件

（1）社会教育関係団体事業補助金について

（2）岸和田市生涯学習実施計画の進捗状況（令和7年度分）について

（3）生涯学習施策に関するアンケート結果について

（4）次期生涯学習計画策定ロードマップについて

5 閉会

【資料】

資料1 岸和田市社会教育関係団体一覧（補助金申請団体）

資料2 補助金対象事業予算内訳書【各団体別】

資料3 岸和田市生涯学習実施計画 令和7年度 振り返りシート【各課別】

資料4-1 生涯学習施策に関するアンケート調査報告書

資料4-2 生涯学習施策に関するアンケート調査 自由意見欄取りまとめ

資料5 次期生涯学習計画策定ロードマップ

別紙1 岸和田市生涯学習審議会委員名簿

別紙2 岸和田市附属機関条例

別紙3 岸和田市生涯学習審議会規則

別紙4 社会教育法（抜粋）

【参考資料】

（1）「岸和田市生涯学習基本方針」

（2）「岸和田市生涯学習実施計画」

（3）「第68回全国社会教育研究大会大阪大会のご案内」

岸和田市社会教育関係団体一覧（補助金申請団体）

資料 1

団体名		1. 岸和田市青少年指導員協議会			
団体概要	R 7 活動内容	補助対象事業 （補助金の使途）	R 8 事業実施計画	R 8 補助事業の効果	補助金
各小学校区青少年指導員相互の連絡協調を図り、また青少年指導に関する諸問題の研究協議を行い、もって地域における青少年健全育成活動を円滑かつ、効果的に推進することを目的としている。	・広報紙「赤しゃつ」発行（年2回） ・夜店、祭礼特別、年末夜警、戎祭礼パトロール ・市民スポーツカーニバル参加 ・危険箇所事故防止看板設置 ・夏期校区别研修会、泉南ブロック青少年指導員連絡協議会研修会、大阪府青少年指導員連絡協議会研修会 ・事業に係る会議	・広報啓発活動（広報紙発行、看板作成） ・社会奉仕活動（地域巡回パトロール、清掃活動等消耗品費、使用料等） ・指導員の参加する研修（負担金、旅費等）	・広報紙「赤しゃつ」発行（年2回） ・校区巡回、夜店巡回、祭礼特別等パトロール ・市内清掃活動 ・市民スポーツカーニバル ・新人研修会、夏期校区别研修会 ・大阪府青少年指導員協議会、泉南ブロック青少年指導員協議会の研修・事業参加 ・事業に係る会議	複雑・多様化する青少年の課題に対し、予防的視点に立ち、家庭・学校・地域社会・行政がそれぞれの役割を果たしつつ、連携・協力して総合的に取り組むことが必要といわれる中、地域で直接、青少年育成活動を行う本協議会の活動は、次代を担う青少年の健全育成に向けて有効・有益のものと考えられる。 また、青指協の活動及び行事を各単位町全戸配布にて報告、PRすることにより、地域の大人がより一層青少年の育成に関心をもち、遊びや触れ合いを通じて、主体性や社会性を身に付けた青少年の健全育成に繋がっている。	R 8 交付申請額 640,000円 R 8 予算額 （640,000円） R 7 交付実績額 〈541,000円〉

団体名		2. 岸和田市こども会育成連絡協議会			
団体概要	R 7 活動内容	補助対象事業 （補助金の使途）	R 8 事業実施計画	R 8 補助事業の効果	補助金
こども会育成に関する諸問題について研究し、育成者及び指導者相互の連絡、協調を密にするとともに、自主的な活動、実践を通してこども会の発展を図ることを目的としている。	・広報紙発行（年2回） ・ソフトボール大会（夏季）、卓球大会（冬季） ・こども会議 ・こども会大会（市、大阪府） ・市民スポーツカーニバル参加 ・大阪府こども会育成連合会主催研修会 ・泉南ブロックこども会育成連絡協議会主催研修会 ・事業に係る会議	・広報啓発活動（広報紙発行） ・スポーツ大会、こども会議、こども会大会（ソフトボール・卓球大会、こども会議、こども会大会消耗品費・印刷費、手数料等） ・社会奉仕活動（イベント応援、清掃活動消耗品費等） ・育成者及び指導者が参加する研修（負担金、旅費、消耗品費・印刷費、手数料、使用料及び賃借料等）	・広報紙発行（年2回） ・ソフトボール大会・卓球大会 ・こども会議、こども交歓会、こども会大会 ・市内清掃活動、市民スポーツカーニバル ・研修会の開催、大阪府こども会育成連合会、泉南ブロックこども会育成連絡協議会の研修・事業参加（こども交歓会、スポーツ大会等） ・事業に係る会議	校区こども会または単位こども会間の交流の推進、連携の強化、育成者の養成、活動の場の確保や整備、他団体との友好関係の推進等に取り組むことで、地域の大人がより一層子どもの育成に関心をもち、遊びや触れ合いを通して、主体性や社会性を身につけた子どもの育成に繋がっている。	R 8 交付申請額 340,000円 R 8 予算額 （340,000円） R 7 交付実績額 〈340,000円〉

団体名		3. 日本ボーイスカウト岸和田第4団			
団体概要	R 7 活動内容	補助対象事業 (補助金の使途)	R 8 事業実施計画	R 8 補助事業の効果	補助金
野外活動や奉仕活動を通して青少年の健全な育成と地域貢献を目指す。	・広報啓発活動（体験活動、市民フェスティバル、公民館まつり） ・社会奉仕活動（神於山整備奉仕、大阪関西万博奉仕、岸城神社清掃奉仕、岸城神社提灯取付・取外し奉仕） ・指導者が参加する研修 ボーイスカウト講習会	・広報啓発活動（チラシ等作成にかかる消耗品費・印刷費等） ・社会奉仕活動（清掃、森林保全、募金等にかかる旅費、消耗品費等） ・指導者が参加する研修（負担金、旅費等）	・体験活動（宝さがしチャレンジ、ロープワーク体験等） ・広報活動（音楽祭市民フェスティバル、公民館まつり等） ・地域清掃活動（春木川清掃、岸城神社清掃等） ・地域奉仕活動（岸城神社提灯設置等） ・森林保全活動（神於山整備奉仕等） ・募金活動（緑の羽根募金等） ・大阪マラソン奉仕活動 ・上記以外の社会奉仕活動 ・指導者研修会（ボーイスカウト講習会、ウッドバッチ研修等） ・事業に係る会議	市内の清掃活動や森林保全等の社会奉仕活動、ボーイスカウトの活動についての周知・団員募集を含む広報活動等に使用する。 青少年から大人まで幅広く野外活動やレクリエーション事業等社会教育関係団体として成果ある活動を行う。	R 8 交付申請額 60,000円 R 8 予算額 (60,000円) R 7 交付実績額 〈54,000円〉

団体名		4. 岸和田市障害者学級しゃぼんだま			
団体概要	R 7 活動内容	補助対象事業 (補助金の使途)	R 8 事業実施計画	R 8 補助事業の効果	補助金
生涯学習の一環として、会員が様々な活動を通じて仲間づくりや社会参加などを行うことを目的としている。 平成17年度からは社会教育関係団体へと移行し、自主的に学習運営する「岸和田市障害者学級しゃぼんだま」として、活動を続けている。	・タケノコ掘り ・調理実習 ・ボウリング ・ドッチビー ・映画鑑賞 ・カヌー体験 ・芋掘り ・みかん狩り&焼き芋 ・クリスマスコンサート ・遠足（住吉大社参拝） ・社会見学（シマノ自転車博物館） ・社会見学（いちご狩り） ・しゃぼんだまだより発行	・障害者が地域社会への参加を通して「生きる力」を学ぶ活動（文具・紙等事務用品費、学級活動費・印刷費等活動費、通話料・郵便代等通信費、保険料、手数料等）	・タケノコ掘り ・パン作り ・ボウリング ・ソフトフリスビー ・映画鑑賞 ・カヌー体験 ・芋掘り ・みかん狩り、焼き芋 ・コンサート ・初詣（住吉大社） ・社会見学または軽スポーツ（月1回活動） ・しゃぼんだまだより発行	障害者の多くは日中活動の帰宅後や休日などは孤独になっている場合が多い。 本事業の実施により、地域社会の中で、多くの人たちとかわり、「生きる力」を学ぶ場を提供することができる。 学級生や保護者の方々から家庭ではできないような体験をさせてほしいという強い要望がある。保護者が高齢になり、保護者自身に介護が必要になる等、本人を取り巻く環境が大きく変わる中で、彼らを支える大事な活動となっている。 また、つながりが少ない学級生たちには毎月発送しているしゃぼんだまだよりや、参加確認等で接点を持つ機会を維持している。障害者のみならず地域の人々の生涯学習の場としてこれからも必要なつながりの場を創り出していくためにも、地道にこの活動を継続する必要がある。	R 8 交付申請額 350,000円 R 8 予算額 (350,000円) R 7 交付実績額 〈350,000円〉

5. 岸和田障害児のためのサマースクール実行委員会					
団体概要	R 7 活動内容	補助対象事業 (補助金の使途)	R 8 事業実施計画	R 8 補助事業の効果	補助金
①夏休み中、家に閉じこもりがちな障害児に活動の場を提供する。 ②ボランティア活動を通じて障害児との関わりを持つことにより、障害児に対する理解を深める。 ③地域の社会教育活動の一つとして、幅広い市民に障害児教育について関心を高める。 以上を目的として活動している。	・保護者説明会、保育 ・プール清掃 ・プール遊び ・感想文集作成	障害児の活動の場を提供する活動 (通信費、写真代、消耗品費、保険料、感想文集作成費)	・保護者説明会、保育 ・プール清掃 ・プール遊び (2 日間) ・感想文集作成	障害児に夏休み中の「活動の場」を提供することができる。 また、中学生・高校生・大学生・専門学校生や教師などにボランティア募集や一般市民に呼びかける際、市の「社会教育活動」のひとつであることを広く周知でき、多くの方がボランティア活動を体験する機会につながる。 毎年事業を継続することで、幅広い市民に障害児教育についての理解を深めることにつなげる。	R 8 交付申請額 85,437円 R 8 予算額 (240,000円) R 7 交付実績額 〈71,881円〉

補助金対象事業予算内訳書

団体名: 岸和田市青少年指導員協議会

令和8年度

市補助金予算額	640,000 (a)
交付申請額	640,000 (a)と(b)の少ない方の額

補助対象事業	区分	補助金対象予算額
広報啓発活動 (広報紙発行及び看板作成)	需用費(消耗品費・印刷費等)	700,000
	役務費(手数料等)	1,000
社会奉仕活動 (地域巡回パトロール、清掃活動等)	需用費(消耗品費・印刷費等)	100,000
	役務費(手数料等)	1,000
	使用料及び賃借料	30,000
指導員の参加する研修	報償費	50,000
	旅費	10,000
	需用費(消耗品費・印刷費等)	7,000
	役務費(手数料等)	1,000
	使用料及び賃借料	10,000
	負担金等	50,000
計		960,000
補助金対象予算額×2/3(千円未満切捨)		640,000 (b)

補助金対象事業予算内訳書

団体名: 岸和田市こども会育成連絡協議会

令和8年度

市補助金予算額	340,000 (a)
交付申請額	340,000 (a)と(b)の少ない方の額

補助対象事業	区分	補助金対象予算額
広報啓発活動 (広報紙の発行)	需用費(消耗品費・印刷費等)	150,000
スポーツ大会 (ソフトボール、卓球大会) こども会議・こども会大会	需用費(消耗品費・印刷費等)	500,000
	役務費(手数料等)	15,000
	使用料及び賃借料	0
社会奉仕活動	需用費(消耗品費・印刷費等)	10,000
育成者及び指導員の参加する研修	旅費	50,000
	需用費(消耗品費・印刷費等)	10,000
	役務費(手数料等)	10,000
	使用料及び賃借料	10,000
	負担金等	70,000
計		825,000
補助金対象予算額×2/3(千円未満切捨)		550,000 (b)

補助金対象事業予算内訳書

団体名: 日本ボーイスカウト岸和田第4団

令和8年度

市補助金予算額	60,000	(a)
交付申請額	60,000	(a)と(b)の少ない方の額

補助対象事業	区分	補助金対象予算額
広報啓発活動 (活動内容、意義を周知し、活動への 参画を図る事業)	需用費(消耗品費・印刷費等)	55,000
	手数料	1,000
	旅費	2,000
	使用料	2,000
社会奉仕活動 (地域の清掃、森林保全、募金等の社会 奉仕に資する活動)	旅費	9,000
	需用費(消耗品費)	10,000
	手数料	1,000
指導員が参加する研修	旅費	2,000
	使用料	1,000
	負担金等	7,000
計		90,000
補助金対象予算額×2/3(千円未満切捨)		60,000 (b)

補助金対象事業予算内訳書

団体名: 岸和田市障害者学級しゃぼんだま

令和8年度

市補助金予算額	350,000	(a)
交付申請額	350,000	(a)と(b)の少ない方の額

補助対象事業	区分	補助金対象予算額
障害者の社会参加や自己表現を通じて「生きる力」を学ぶ活動	事務用品(文具、紙等)	4,000
	活動費(学級活動費、印刷費)	430,000
	通信費(通話料、郵便等)	60,000
	保険料(ボランティア保険等)	23,000
	手数料(振込手数料)	1,000
計		518,000 (b)

補助金対象事業予算内訳書

団体名: 岸和田障害児のためのサマースクール実行委員会

令和8年度

市補助金予算額	240,000	(a)
交付申請額	85,437	(a)と(b)の少ない方の額

補助対象事業	区分	補助金対象予算額
障害児の活動の場を提供する活動	通信費	4,200
	写真代	1,800
	消耗品費	41,000
	保険料	3,450
	感想文集作成費(印刷代)	34,987
計		85,437 (b)

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
1	生涯学習課	生涯学習支援チーム推進事業	生涯学習基本方針に基づく社会教育支援チームを創設し、「学び+実践+ネットワーク」に不可欠なインクルーシブ・コミュニティづくりに向けてその方策を検討する。 また、インクルーシブ・コミュニティづくりの重要性を内外に周知するとともに、生涯学習支援チームの力量を高めるため、市民・住民の多様な学習と地域の活性化が重なる「フラッグシップ事業」を推進する。	令和3年度の生涯学習支援チーム発足以降、人との繋がりが、コミュニティの創成など「地域と子ども」をテーマに検討を進めてきた。令和4・5年度とフラッグシップ事業を開催し、子どもたちに関わる団体同士とのつながりなど一定の成果は出せている。令和6年度もフラッグシップ事業の開催が決定しており、引き続きインクルーシブ・コミュニティづくりについて協議を継続する一方、当組織のあり方（会議の運営方法や委員の任期など）は検討していく必要がある。	Ⅲ－① Ⅲ－② Ⅲ－③ Ⅲ－④	基本方針に基づき、生涯学習・社会教育としてインクルーシブ・コミュニティづくりをどのように行っていくかについて、検討を継続していく。 生涯学習支援チームは中間支援として「つながる」「ひろげる」ことを意識し、フラッグシップ事業を実施していく。 組織のあり方については、委員の意見も踏まえながら、検討する。	令和7年度は、委員の新任期となり半数程度が入れ替わった。令和4～6年度まで「地域と子ども」をテーマに議論、フラッグシップ事業を実施してきたが、委員自身が学ぶ機会を持つことが必要との意見もあり、8月に生涯学習研修会で、社会教育・生涯学習の基本を学ぶ機会を設けた。その後、今後のテーマを検討していたが、誰にでも関係する「防災」を軸に公民館の役割や意義を考えていくことに決まり、8年度のフラッグシップ事業に向けて議論を開始した。	変更なし	フラッグシップ事業回数	1回	0回
2	生涯学習課	生涯学習推進委員会事業	第1次岸和田市生涯学習計画（平成5年9月策定）に基づき、生涯学習関連事業を体系化して総合的な調整及び推進を図るため、岸和田市生涯学習推進委員会を設置している。	平成27年度以降、開催していない。	Ⅳ－①	次期生涯学習計画の策定に向けてそのあり方を検討し、時代に適合した組織の構築を図っていく。	令和7年度は開催していない。次期生涯学習計画の策定に向け、開催の検討が必要。	次期生涯学習計画の策定に向け、委員会を開催する。必要に応じて、設置規程の見直しを検討する。	検討の実施	新組織の設置	-
3	生涯学習課	生涯学習推進研修会事業	生涯学習活動を奨励し支援するため、生涯学習啓発事業として開催する。	平成28年度のみ2回実施、以降は実施していない。	Ⅳ－④	生涯学習について広く周知し、受講者がその重要性について認識を持てるよう、研修会を実施する。	8月19日に「社会教育・生涯学習とは何か」というテーマで和歌山大学名誉教授 村田先生に講演いただいた。支援チーム委員をメインの対象にし、生涯学習部職員、その他関心のある職員も対象とし32名の参加となった。アンケート結果も約8割が「大変よかった」「よかった」「よく理解できた」「理解できた」と回答された。	変更なし	研修回数	1回	1回
4	生涯学習課	出前講座事業	生涯学習出前講座は、市民からの要請に基づき、市民が主催する学習会に市職員及びそれに類するものを講師として派遣し、本市行政各分野の学習課題を提供することによって、市民の学習要求に応えるとともに、生涯学習のまちづくりを推進することを目的としている。対象は市内在住、在勤、在学者で、概ね10人以上の集まりの市民団体で、講座メニュー（内容）は市の事業・施策等についての説明・紹介等である。	行政に関する学習や理解を進める上で、市民の学習意欲向上に一定の役割を果たしているが、同じ団体の利用が多い。	Ⅰ－① Ⅳ－④ Ⅳ－①	今後も、各課にメニューを依頼し、引き続き事業を継続していく。 市民の学習ニーズに沿った時事的なもの、社会的関心のあるもの等を取り入れていけるよう、また現在の周知方法（ホームページ掲載、冊子の配布）以外の更なる情報提供の方法を検討する。	申込件数は88件で令和6年度と比べ38件増加、参加者数は延べ2,958人で2,132人から大幅に増加した。例年同様、防災（31件）、健康・福祉（28件）をテーマとした講座の申込みが多く、依然これらのカテゴリーに対しての関心の高さがうかがえる。申込み団体は町会など地域の団体が多いが、令和7年度は市内中学校や小学校PTAの利用もあり様々な団体に活用いただいた。	変更なし	派遣回数	60回	88回
5	生涯学習課	いきいき学びのプラン発行事業	第1次岸和田市生涯学習計画（平成5年9月策定）を基に、生涯学習の積極的な推進のため、生涯学習部独自の広報紙として「いきいき学びのプラン」を年3回発行している。平成22年度以降は点字版・音声版を発行し、希望配付及び図書館等に配置している。	広報紙に合冊し、生涯学習情報を提供することで、話題の提供や市民の学習意欲の向上に貢献している。	Ⅳ－②	今後も、広報紙という周知ツールを活かし、生涯学習部各課（館）の事業情報や話題、講座情報の提供を継続していく。 また生涯学習部以外の部署にも、生涯学習の学びに関わる情報提供を依頼する。	9月、1月、3月と年3回発行した。広報きしわだ合併号として広報広聴課のホームページ及びLINE配信することで、多くの方に生涯学習について周知することができた。生涯学習部以外の記事に掲載できなかったため、引き続き情報提供を依頼する。	変更なし	発行回数	3回	3回
6	生涯学習課	社会教育主事講習参加事業	社会教育法に社会教育主事の必置規定があり、生涯学習・社会教育施策を充実していくため、社会教育主事（社会教育士）の資格取得のための講習に参加する。毎年開催地が異なる。	専門性の高い主事資格取得者は一定数必要であるが、人事異動等で在課人数が減少することがある。 開催地の定員等により希望しても受講できないことがある。	Ⅳ－④	今後も、社会教育推進のために、研修者の派遣（年間1人以上）の申込みを継続していく。	神戸大学で開催された近畿地区社会教育主事講習に、1名申込み、受講した。今後も申込みを継続していく。	変更なし	申込人数	1人	1人
7	生涯学習課	障害者学習支援事業	平成29年4月の文部科学省からの通知、「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」に基づき、障害者の生涯学習を支援する。文部科学省では、重点的に推進すべき6つの政策プランを打ち立てており、これらに沿った施策を行っている。	令和4年度から18歳以上の障害者対象講座を実施。障害者のニーズに沿った講座の開催とその周知方法が課題である。	Ⅰ－① Ⅴ－③	講座内容の検討や周知方法など、関連部署や団体の協力も得ながら障害者に学習の場を提供、支援していく。	障害者の体験講座「フルーツタルトをつくってみよう」「イスに座ってゆったりヨガ」を実施し、どちらも当初の定員を上回る申し込みがあった。ニーズを把握するため参加者にアンケートを実施。ニーズに沿うよう講座の内容や実施場所などを検討していく。	変更なし	参加者数	定員	定員
8	生涯学習課	親学習・家庭教育支援事業	子育ては保護者が子どもを大切に育む営みであると同時に、子どもの成長に寄り添いながら保護者自身も育っていく「親育ち」という観点から、家庭教育や子育てで必要なことを多くの人に伝え、学んでもらうための機会を設ける。また、その取組に大阪府が推奨している「親学習リーダー」を活用する。	親学習リーダー会議を開催し、本市の課題や活動の方向性を協議している。家庭教育の重要性を多くの育児中の親たちに知ってもらえるような取組を検討している。	Ⅳ－④	親学習リーダーと協議し、子育てに孤立している、悩んでいる親たちをはじめ、多くの育児中の親たちに家庭教育として必要なことを伝える機会を増やしていく。	親学習リーダー養成講座を実施し、9名が受講した。令和8年度からは親学習の周知を回り、実施できるように取り組んでいく。 子育て（家庭教育支援）講座を1回実施。チラシの配布、商業施設やJR各駅にポスター掲示、LINE配信等で周知をしたが、予定の参加者数には至らなかった。しかしアンケートでは「子育ての参考となる情報を得た」などの回答があり、参加者にとって家庭教育について学ぶ機会となった。今後は他のSNSも使って周知する等より多くの方に参加いただける方法を検討する。	変更なし	講座回数	1回	1回
9	生涯学習課	生涯学習部内連携事業	社会教育の根本である「つながりづくり」を部内で実践し、その中から各々が持つコンテンツを有効活用することで、社会教育（体育）の活性化を図る。	月に1回程度、部内各課（館）と事業進捗状況の共有や課題などについて意見交換し、合同で実施できる事業などを検討している。	Ⅴ－①	各々の課の情報や課題を共有するとともに、社会教育（体育）を活性化していく方策を検討・協議し、できることから協働して進めていく。	きしわだ自然資料館の30周年記念事業で各課（館）のポスター掲示、市立公民館まわりで歴史講座「岸和田のあけぼの」を実施、KISHIWADA SPORTS FES 2025に参加。また市立公民館1階の展示ケースに郷土文化課が埋蔵文化財を展示するなど、生涯学習部として学習の場を提供することができた。会議では情報共有を図るなど、部内での連携を深めることができた。	変更なし	合同企画数	4回	4回

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
10	生涯学習課	公民館・青少年会館貸館事業	公民館及び青少年会館（以下「公民館等」という。）は、多様な主催講座、活動団体の育成・支援、ロビー及び図書コーナーの開放、貸館事業などを行い、年間利用者は延べ約41万人である。貸館利用者は活動団体（クラブ、自主学習グループ）や地域コミュニティ（町会、市民協議会等）が中心であり、その他公民館活動に資する事業を行う団体も利用され、市民の身近な生涯学習の場として定着している。 令和元年度に受益者負担の見直しにより原則無料施設が有料施設となった。制度改正に合わせて、今まで公民館等を利用することができなかった、営利・政治・宗教においても一定の条件のもとで貸館を可能とした。	貸室の制限を緩和したため、新規の団体利用が増えており、公民館等を身近に感じてもらえている。 軽運動が行える多目的室等の利用は増えているが、学習目的の講座室利用は低調である。また、実習室・和室・創作室など利用目的が限定されている貸室は稼働率が低い。	Ⅰ－①	利用者の活動内容や教室のあり方などが多様化しているため、ニーズに合うように貸館条件の変更や緩和を検討する。	平均稼働率及び延べ利用者数はともに前年度から減少した。 講師謝礼金額に応じた貸館可否判断について、他市町村等を参考にしつつ見直しを行い、貸館条件の明確化と受益者負担の公平性の維持を図ることが今後の課題である。	変更なし	延べ利用者数	420,000人	425,258人
									利用団体数	1,800団体	1,274団体
									平均稼働率	30%	23.6%
11	生涯学習課	学級講座等運営事業（定期講座）	公民館等を生涯学習の中心的な活動の場として提供するとともに、生涯学習に係る多種多様な需要に応える講座を開催することにより、地域における生涯学習活動の担い手の養成並びに市民が持つ学習への自発性及び創造性の育成を図り、もって市民の豊かで生きがいのある人生に寄与することを目的としている。 定期講座は講師及び受講生を固定し、年間10～20回程度連続した講座である。趣味・教養などの一般的に取り組みやすい内容となっており、公民館等の利用に対する動機付けの機会として開設している。また、その中から自主的な活動団体の育成を図ることも目的としている。	各公民館等により、実施状況が異なるため、全体的な講座内容や対象者のバランスを取る必要がある。	Ⅰ－① Ⅱ－②	複数回を同じメンバーで受講するため、講座終了後に活動団体への移行や、新たなコミュニティを結成するきっかけとなるよう、講座内容を検討していく。また、女性の就労の増加や定年延長など社会状況の変化により、夜間の実施など開催時間についても講座内容によって柔軟に対応していく。新規参加者獲得のため、中高生～30代が興味を持つような講座を検討する。	在籍者数は令和6年度より減少したものの、定期講座から公民館活動団体への移行数は5件で、昨年度よりも増加した。大宮地区公民館では講座終了後も受講生が一般有料団体として貸館利用し交流を継続するケースもあり、新たなコミュニティ形成のきっかけづくりができた。 申込み時に定員を割り、追加募集を行っているケースもあるため、過年度の申込状況等からニーズを把握し、また、広報や市HP以外の周知方法も活用する等、申込み件数増加のための方策を検討していく必要がある。	変更なし	講座数	100講座	91講座
									在籍者数	1,500人	1,445人
									活動団体への移行件数	3件	5件
12	生涯学習課	学級講座等運営事業（短期講座）	公民館等を生涯学習の中心的な活動の場として提供するとともに、生涯学習に係る多種多様な需要に応える講座を開催することにより、地域における生涯学習活動の担い手の養成並びに市民が持つ学習への自発性及び創造性の育成を図り、もって市民の豊かで生きがいのある人生に寄与することを目的としている。 短期講座は1回～数回で完結する単発型の講座であり、自主的なグループ活動の育成や学習課題の啓発・学習機会の提供を目的に開設している。その時々で社会問題から趣味・教養まで幅広い内容の講座が求められている。	開催回数や講座内容の統一した基準が無いため、各公民館等で実施状況に差が生じている。趣味・創作講座に偏った館も多く、多種多様な生涯学習講座を実施できていない。また、中学生・高校生を対象とした講座の企画自体がまだ少なく、集客にも苦戦するのでは告知方法等を検討していく必要がある。	Ⅰ－① Ⅱ－②	各公民館等で実施する回数やテーマ（内容）に偏りを減らし、地域性のある内容など必要な講座を実施していく。女性の就労の増加や定年延長など社会状況の変化により、夜間の実施など開催時間についても講座内容によって柔軟に対応していく。新規参加者獲得のため、中高生～30代が興味を持つような講座を検討する。	令和6年度と比べると講座数及び延べ参加者数は減少した。市立公民館、中央地区公民館及び大宮地区公民館に関しては、SNSやデジタルサイネージへの掲載、市公式LINEでの配信、その他外部のイベント告知サイトを適宜活用する等、講座情報の発信力拡大を試み、若干数の効果が得られた。各周知方法を今後も継続して行っていくことで、講座のテーマやターゲット層と、周知方法の相性について実績データを蓄積し、より効果的かつ効果的な周知を行ってきたい。	変更なし	講座数	130講座	130講座
									延べ参加者数	4,500人	2,653人
13	生涯学習課	公民館活動団体支援事業	「公民館活動団体登録制度」を設けて、公民館事業の柱の一つとして位置付け、活動団体（クラブ・自主学習グループ）を育成・支援している。令和4年度560団体、7,081人、令和5年度553団体、6,938人の登録がある。 公民館等での学びは、単に「知識・技術の習得」を目的としたものではなく、公民館等利用者同士の出会いや交流を通して、「地域の輪」を広げていくことを目指しており、この考え方の実践が活動団体である。	若い世代の団体が少なく、構成員も高齢化している。登録団体は年々減少しており、令和元年度から登録人数を10人⇒5人以上とし、団体要件を緩和させたが減少傾向は変わらない。 また、各活動団体同士の交流の機会が公民館まわりの実施に留まっており、出会い・交流を通して「地域の輪」を広げることにつながっていない状況である。	Ⅰ－① Ⅰ－④ Ⅱ－②	今後も活動団体体験期間の実施を通して市民へ公民館活動の情報発信を続ける。出前公演事業を積極的に活用してもらい、地域との交流が促進されるよう出前公演登録団体の増加を図る。 また、定期講座受講生が活動団体への移行を促進できるよう、行政主導で活動団体結成への仕掛け（短期講座の開催）なども検討していく。	「活動団体体験WEEK」を実施し、活動団体（クラブ）の周知及び会員増加を図った。 出前公演については、過去に実施実績のある団体への派遣を希望されるケースが多く、依頼が一部の団体に偏る傾向が見られた。 今後は、出前公演の登録団体の拡充に努めるとともに、SNS等を活用し、体験WEEKやクラブ登録に関する情報発信を行うなど、周知方法を工夫し、活動の活性化を図る。	変更なし	団体登録数	600団体	523団体
									出前公演登録団体数	100団体	55団体
14	生涯学習課	公民館文庫事業（親子文庫事業）	昭和52年、当時の文部省の補助金制度を活用し、「親と子の公民館活動」という事業名で開始した。公民館等に図書を備え文庫を開設し、地域の人材の協力を得て、図書の貸し出し、読書指導、お話をなどを実施している。気軽に集える公民館等で、親と子、子ども同士がふれあいを深めながら、読書に親しむきっかけづくりを行っている。	現在、城北地区公民館、光陽地区公民館、光明地区公民館、新条地区公民館の4館で文庫活動事業を委託し実施している。4館でも活動内容は異なる。本の読み聞かせなど、公民館等で子どもたちが本に親しむ場としては一定の役割を果たしている。運営ボランティアの不足や後継者の育成が課題である。	Ⅰ－① Ⅱ－①	継続して実施するが、今後は実施館を広げることも視野に入れ、運営ボランティアの育成などを検討していく。 親子文庫以外の公民館等の図書については、現状把握を行い、公民館の図書について図書館との連携をはかれないか検討する。	令和7年度も引き続き、4館において文庫活動を委託し、事業を実施した。各文庫では、お話会の開催や公民館まつりへの参加等を通じ、利用促進を図った。 本の充実及びボランティアスタッフの育成が今後の課題である。特に、光陽地区公民館で活動していた「光陽おやこ文庫」については、令和8年度に新たに開設したふれあい光陽公民館において活動を継続する予定であったが、メンバーの脱退により活動者が不在となった。本の貸出しは館で継続しているものの、今後、ボランティアメンバーを確保し、文庫活動を再開することが課題である。	変更なし	事業実施回数	160回	170回
15	生涯学習課	公民館文庫事業（旅する本事業）	市民と公民館等の接点、市民にとっての出会い・交流の場となるように事業を実施している。また、本に対する想いを発信し共有することを目的としている。 施設利用者に、捨てきれない本や誰かに薦めた本などを持ってきてもらい、旅する本棚に配架している。誰でも借りて読むことができ、貸出期限は設けず、人と本、人と人を繋げる事業である。	現在、市立・中央地区公民館、城北地区公民館、新条地区公民館、市立図書館本館の4館で実施している。公民館等に気軽に足を運び、新たな本に出会うきっかけとなっている。元所有者の想いに触れて興味を持つことで、新たな繋がりとなっている。一方、元所有者の想いに触れてもらうためメッセージを書いてもらうこととなっているが、職員が把握できないまま置かれていることもあり、趣旨を分かってもらうことが難しい面もある。	Ⅰ－① Ⅱ－①	自由に持ち帰りができる気軽さは残しつつ、事業を継続する。現在の実施館以外に、拠点館にも設置を検討していく。事業の認知度を上げるため、積極的に広報活動を行い、利用の仕方も周知していく。	令和6年度と同様、市立公民館・中央地区公民館、図書館本館、新条地区公民館、城北地区公民館の4か所を実施した。本はコンスタントに集まり、動いている状況だった。以前と比べ、大量の本を処分目的で持ち込まれるケースは減ってきた。 更なる利用拡大を図るため、周知方法を検討していく必要がある。	変更なし	開設館数	4館	4館

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
16	生涯学習課	学び舎プログラム 学び舎ネットワーク事業	市内5か所の市民センターと市立・中央地区公民館を拠点とし、生涯学習の発展を目指して、全世代を対象に学習機会の提供、学習環境の整備、地域人材育成という観点から推進している事業である。公民館事業を知ってもらい、足を運んでもらうきっかけづくりとなる講座・イベントを実施している。	気軽に公民館等を知ってもらうための全世代対象の事業であるため、人が集いやすいテーマを選択していることから、ジャンルは偏る傾向がある。	Ⅰ－① Ⅱ－②	市内の5か所の市民センターと市立・中央地区公民館を拠点に、全世代を対象とした講座及び地域の人材育成に関する講座、イベントを実施するため、今後も市民が気軽に足を運びやすいテーマを検討していく。 当該事業をきっかけとして、その他の公民館事業へ参加する市民を増やす。	【6館】 市民センター5館と市立公民館・中央地区公民館が連携し、2月に桜台市民センターにおいて「フルートと小さなハーブの演奏会」を実施した。定員80名を超える申し込みがあり、幅広い年代の方々に参加いただくことができた。 【市立】 全世代が楽しめる企画として、12月に「もっさん、の Magic Show」を実施した。定員80名を超える申し込みがあったものの、家族単位での申し込みが多かったことから、当日のキャンセルが参加人数に大きく影響した。 次年度以降も、普段公民館を利用する機会が少ない層にも関心を持ってもらえる内容を検討し、公民館活動の周知拡大を図りたい。	変更なし	実施回数	2回	2回
							延べ参加者数	100人	131人		
17	生涯学習課	学び舎プログラム まちづくり実践プロジェクト事業	平成27年度から市立・中央地区公民館が実施している「まちづくり実践プロジェクト」は、“市民が抱える生活課題や地域課題を市民が自ら掘り下げて、その解決に向けた生涯学習を生かした取組”について事業委託している。学習活動をしている市民の中には、日頃の学習を地域に役立てたい、または機会の提供をしてもらいたいと考える団体がある。市民自身が提案した事業が、よりよい地域づくりに繋がることを期待している。 事業は公募し、公開プレゼンテーションによる選考を行う。今までの提案事業は、定年後の男性の居場所作り、環境、子育て、お化け屋敷製作などがあり内容も多岐に渡っている。	平成27年度から実施しているため、認知度は広がってきているが応募団体はまだ少ない状況である。提案事業によっては、参加者集めに苦労しているところもある。事業委託とはいえ、行政としても宣伝や参加者集めなど一定の協力は必要であり、効果的な事業の宣伝方法を考える必要がある。	Ⅰ－① Ⅰ－③	これから活動をしたいと考えている団体や個人に向けて、事業の周知を積極的に行っていく。他市や他課でも似たような事業を行っているため、差別化を図っていく。	令和6年度の採択団体であった4団体に加え、新たに3団体からの企画応募があり、プレゼンテーションの結果、「teamらいと」「泉州電波発信協会」「ミライノ」「SAY!!セイ岸和田～性と生のヘルスケアチーム」の計4団体が採択となった。 「teamらいと」は不登校などの状況にある子どもやその親たちの居場所づくりを目的として、令和6年度から更に活動の機会や他団体とのつながりを活発にし、活動の周知拡大を実現した。 「泉州電波発信協会」は、子どもたち自身が考えるお化け屋敷実施を通して、子どもたちの企画力と行動力の向上をに繋げた。 「ミライノ」は、「自閉症VR体験」を行い、障害理解を促進した。 「SAY!!セイ岸和田～性と生のヘルスケアチーム」は、包括的性教育の普及を図り、小学生～中高生程度の子やその保護者を対象に、性教育に係るワークショップを開催した。委託団体を決定するプレゼンテーションの採点基準について整理・見直しを行い、評価項目を整理したことで、重視すべきポイントを明確にした上で選考を行うことができた。	変更なし	応募団体数	5団体	7団体
							延べ参加者数	160人	59人		
18	生涯学習課	学び舎プログラム 学び舎ゼミ事業	平成26年度から市立・中央地区公民館が実施している「学び舎ゼミ」は、社会問題や地域課題に取り組む連続講座である。大学、産業、民間で活躍している人を講師に招き、参加者が意見を出し合い、相互の関係を学習により深めていくものとしている。	一つのテーマを様々な視点から掘り下げることによって、問題意識や学習意欲がある人に応えるための講座である。趣味・教養の講座でないため受講のハードルが高いが、この視点での複数回講座は公民館等の講座として必要である。	Ⅰ－① Ⅰ－③	地域の課題に対して、参加者の相互学習を通して深く掘り下げて学ぶ連続講座であるとともに、公民館事業の本質ともいえる講座であり、受講者の知識習得のほか、自主的に何らかの取組に参加できるよう促すことを目標とする。テーマによっては申込者も多く学びへの関心は高いといえるため、ニーズの把握をし毎年題材を決めていく。	令和7年度は、「不登校」をテーマとして全5回の学び舎ゼミを実施した。実際に不登校の子どもを持つ保護者や支援に携わる方々の参加があり、関心の高いテーマであることがうかがえた。 1回目は、不登校の現状を伝える基調講演とし、その後、「学校へ戻る」という考え方や、「別の居場所を見つける」という考え方の両面から掘り下げたいざこざ形式で実施したことで、不登校という状況への多面的な理解を深める機会となったと考える。最終回のシェア会については、参加人数がやや少なかったものの、全回を通して参加された方もおり、必要としている方へ一定の学びを届けることができた。 学び舎ゼミは、同じ課題について継続的に学ぶことで、知識の習得にとどまらず、自主的な活動や地域での取り組みへの参加につながることを目的としている。 今年度については、既に地域で活動している方々の参加も見られたことから、本講座をきっかけに、新たに地域での支援や活動に関わる人が広がっていくことが期待される。次年度以降も、このような広がりにつながるテーマ設定を検討していきたい。	変更なし	延べ参加者数	160人	59人
							延べ参加者数	15,000人	15,064人		
19	生涯学習課	公民館まつり事業	公民館まつりは、公民館等を利用するクラブ生や定期講座生、家庭教育学級生などが普段の練習や学習の成果の発表、参加者同士の交流・連携、公民館等を広く市民に理解してもらう目的で、開催している。 特徴は、公民館等利用者が実行委員会を組織し自主的に企画・運営していることである。また、地域性を生かし、町会連合会、地区市民協議会など各種地縁団体や幼稚園、保育所などの近隣施設などとの連携によって、幅広い事業となっている。	活動団体の減少とともに、規模が縮小、活気の減少が見られるが、本来の公民館活動である学びの地域還元のためには必須の事業である。	Ⅰ－②	公民館等に気軽に足を運び、活動団体等の成果を知る機会であるため、全館での開催を維持する。また、活動団体だけでなく、社会教育関係団体や一般有料団体へも参加を促していく。	19館のうち18館で公民館まつりを実施した（旭地区公民館については、公民館まつりとしては実施していないものの、「わくわく！ミニフェスタ」を開催し、活動団体の成果発表を行った）。 市立公民館では、公民館まつりの活性化を図るため、新たに部内連携事業として郷土文化課の職員が講師となり歴史講座を実施したほか、総合ガイドブックのめりえブースを設けるなどの取り組みを行った。 一方で、小中学生の来場者数は減少傾向にあることから、次年度以降は、周知方法や開催内容について検討を行い、幅広い世代に参加いただけるよう努めたい。	変更なし	延べ参加者数	15,000人	15,064人
							延べ参加者数	15,000人	15,064人		

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
20	生涯学習課	高齢者大学運営事業	昭和48年、当時の文部省の高齢者教室の開設を推奨する補助金制度を活用し、春木、光陽、城北、葛城、山滝の各地区公民館において開設した。その後は地域において公民館等の配置とともに開設してきた。 満65歳以上の人を対象に、高齢者が心身ともに健康で活気に満ちた生活を送るとともに、自ら考え計画主体的に学習していく力を養うために開設している。平成13年に高齢者のさらなる学習意欲を高めるため、「高齢者教室」から「高齢者大学」と名称を変更した。	運営は、老人会中心、運営委員選出によるもの、館の職員中心と様々である。令和6年度に市立・中央地区公民館に中央シニアカレッジが開設され全部で20大学となった。高齢者の居場所や安否確認の場となっており、福祉的な面からも重要な事業であるが、学習内容はマンネリ化の傾向にある。	Ⅰ－① Ⅱ－②	在籍者数は多いが学習の出席者数が少ない。毎年同じ講師・学習内容の大学も多くマンネリ化が原因の一つとも考えられるので、学習内容の見直しを進める。	令和6年度に引き続き、20大学が活動した。 在籍者数、延べ参加者数は、令和6年度から増加しているものの、いずれの大学においても運営の担い手の獲得と講座の参加者数を増やすことが課題である。	変更なし	在籍者数	2,500人	1,869人
									延べ参加者数	15,000人	7,847人
21	生涯学習課	女性学級運営事業	昭和31年、当時の文部省の補助金制度を活用し、岸和田市婦人学級として開設した。当初は地域の婦人会のリーダー養成が目的で婦人会との共催で行っていたが昭和50年に婦人会活動と分離したことにより、学級生を一般公募した。参加者による自主的な運営委員会を組織し、公民館事業として再編成した。 女性の自立と社会参加を促し、女性問題を女性自らが考え主体的に学習していく力を養うために開設している。平成13年に、ジェンターの観点から「婦人学級」を「女性学級」と名称を変更した。	現在12学級が学習活動をしているが、新規受講生が少なく、高齢化が顕著となっている。参加者の学習意欲は高いため、女性が学び続けられる場として時代に合った学習内容や方法を考えていく必要がある。	Ⅰ－① Ⅱ－② Ⅱ－③	現在ある12学級を維持するとともに、在籍者数の増加を目指して学習内容の見直しを図る。	令和6年度に引き続き、11学級が活動した。3月には交流会を実施し、学級同士で情報共有等を行った。いずれの学級においても、運営の負担が一部の学級生に偏っていることや学級生を増やすことが課題である。	変更なし	学級数	12学級	11学級
									在籍者数	300人	251人
									延べ参加者数	2,450人	1,722人
22	生涯学習課	家庭教育学級運営事業	昭和39年、当時の文部省の家庭教育学級補助金制度を活用し、7学級の家庭教育学級を開設した。 当時の開設目的には、家庭教育を「人権の自覚をはぐくむ基礎教育の場、人間としての自立をうながす場」と規定し、それをより「機能的に実現するため」、また家庭の構造的・機能的変化を受けての子育て世代の「生涯学習機会の保障のため」と規定されていたが、平成8年度以降の国の答申や学習指導要領の変遷などを受け、本市においても平成13年に家庭教育を「基本的な生活習慣や生活能力、豊かな心、他人に対する思いやりを養う場」と規定し、「家庭・子育てに関する課題を共に学び、考えるために」と開設目的を改正した。 学習活動の主体は学級生であるという考えに基づき、日程・学習内容・講師選定・学習方法・役割分担など学習プログラム立案から学習会運営、振り返り、文集づくりなども運営委員会を軸に決定する主体的、民主的な学習手法が定着している。そこで家庭教育力の向上や充実を図るだけでなく、市民主体の学習支援システムを通して自治的な人づくりを目指している。	令和5年度に山直市民センター、令和6年度に市立・中央地区公民館でそれぞれ中高生の子どもの保護者向けの学級を新たに開設し、全部で10学級となった。 各学級の交流を図るとともに学級生の増加を目的として、合同学習会を開催している。 共働き世代の増加等の影響により学級生が減少傾向にあり、また、活動に参加しづらい学級生が増えているために、運営の負担が一部の学級生に偏りがちであることが学級の課題である。一方で、子育てに悩んでいる人も多くにいると思われるので、今後も子育て世代のニーズに寄り添い、インターネットや本だけでは得られない情報を提供し、学級生の増加につなげていく。	Ⅰ－① Ⅱ－② Ⅱ－③	学級生の増加を目指し、子どもの成長に合わせて学び続けられるように学級数を減らさないようにする。子どものことだけでなく、保護者自身のことも学んだり幅広く学習はしているが、それぞれの学級の特徴を出すことも検討していく。	令和6年度と同様、計4館で実施、実施館の拡大には至らなかった。 11月には、各学級の交流を図るとともに学級生の増加を目的として、合同学習会を開催した。子どもの年齢を問わず全世代の親が関心を持つことができる内容を検討し、「腸活」をテーマとしたが、一般参加者は4人であった。次年度開催に向けて、子育て世代がより関心をもつことのできるテーマを検討したい。 共働き世代の増加等の影響により学級生が減少傾向にあり、また、活動に参加しづらい学級生が増えているために、運営の負担が一部の学級生に偏りがちであることが課題である。 一方で、子育てに悩んでいる人も多くなっていると思われるので、今後も子育て世代のニーズに寄り添い、インターネットだけでは得られない情報を提供し、学級生の増加につなげていく。	変更なし	就学前の 子どもの保護者向けの学級数	3学級	3学級
									小学生の 子どもの保護者向けの学級数	4学級	4学級
									中高生の 子どもの保護者向けの学級数	3学級	3学級
									在籍者数	100人	86人
									延べ参加者数	700人	575人
23	生涯学習課	子育て支援事業（キッズルーム）	親の育児ストレスや育児不安を緩和するために保育室を開放し、交流の場として提供している。保護者同士の情報交換や育児についての助言をするために、公民館登録保育者を先輩ママとして配置している。	年度・時期により参加者数にばらつきがある。先輩ママが来てくれる時間帯もあり、育児相談等に応じってくれるため、その時間に来館する保護者も多い。 現在は、拠点館でのみ実施している事業であり、今後の展開を検討していかなければならない。 また、市立・中央地区公民館では令和5年度から発達がゆっくりな子どもを対象とした「ゆっくりちゃんのキッズルーム」を実施しているが、参加者が増えず事業の周知が課題である。	Ⅰ－②	安全な遊び場としてのフリースペースの提供を継続していく。地区館でも実施を拡大していくかの検討を行う。参加者が家庭教育学級や、公民館講座にも関心を持つよう情報提供を行う。	令和6年度に引き続き拠点館6館で実施となり、その他の地区館での実施には至らなかった。 市立公民館・中央地区公民館では、毎週金曜日に成長や発達がゆっくりな子どものための「ゆっくりちゃんのキッズルーム」も実施した。 子育て情報誌「まみたん」に新たに掲載することで事業の周知を図った。参加者には、家庭教育学級や公民館講座のチラシを配布し情報提供を行ったほか、館職員や先輩ママからの呼びかけも積極的に行った結果、家庭教育学級への参加に繋がったケースもあった。 今後はSNS等で事業実施日程を周知する等し、利用者の利便性向上と参加者増加を図る。	変更なし	延べ参加者数	4,000人	3,116人

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
24	生涯学習課	子育て支援事業（あかちゃんサロン）	核家族化や地域の人々との関わりが希薄になることで孤立してしまい、子育てに不安を感じる親が増えた。育児ストレスや育児不安の大きい未歩行児の親を対象にその緩和のために「あかちゃんサロン」を開催している。	現在、市立・中央地区公民館と光明地区公民館の2館で実施している。 育児の孤立化を防ぎ、同じ年齢の子どもの保護者の交流の場として、重要な役割を果たしている。赤ちゃんサロンをきっかけに他の講座にも参加してくれるよう積極的に声をかけている。	I-②	現在、2館のみで実施しているが、他館でも実施を拡大していく検討する。未歩行の赤ちゃん限定の安全な遊び場として提供は継続していく。参加者が家庭教育学級や公民館講座に関心を持つよう情報提供を行う。	令和7年度も市立公民館・中央地区公民館と光明地区公民館の2館で実施した。 市立公民館・中央地区公民館では、子育て支援センターさくらだいと浜保育所の先生が来てくれる回は、親子のふれあい遊びのほか先生との交流の時間があり子育ての悩みや聞きたいことなどを気軽に相談できることで参加者が増加した。先生が来ない回は参加者は少ないが乳児が安全に遊べる場として利用していただいた。 子育て情報誌「まいたん」に市立公民館・中央地区公民館の開催について掲載いただき周知を行った。 市立公民館・中央地区公民館、光明地区公民館とも12月に開催した「あかちゃんサロンDEクリスマス」は普段公民館を利用しない方の参加もあった。その際に市立公民館・中央地区公民館では家庭教育学級や子育て講座について周知することができた。市立公民館・中央地区公民館、光明地区公民館ともクリスマスイベントをきっかけに通常のあかちゃんサロンにも参加してくれる方が増えたり、あかちゃんサロンの参加者が家庭教育学級に興味を持ち、たんぼほ家庭教育学級に入ってくれるなどの事例もあった。	変更なし	延べ参加者数	300人	194人
25	生涯学習課	保育者登録事業	核家族化、地域の人々の関わりが希薄になるなど家庭や家庭を取り巻く社会の変化の中で、家庭教育の重要性が年々高まっている。公民館等においても子育て世代が多い学級グループ連絡会との懇談などで保育の必要性など子育て支援施策の要望があり、平成9年度から公民館保育者の研修会を行い、ボランティア保育者の養成をし、キッズルームの先輩ママや保育付き講座の保育者として派遣している。	登録者数は減少傾向で、高齢化している。また夜間の保育を引き受けてくれる人が少ない。依頼しても講座開催の直前で保育が不要となり、断ることもあり、運用自体難しいことがある。	I-①	保護者が安心して子どもを預けられるよう、保育者研修を充実していく必要がある。あまひ公民館の講座に参加しない働く世代の講座を増やしていくために、夜間でも引き受けてくれる保育者の増加を図っていく。	計2回の保育者研修を行い、既に登録をしている方の子育てや保育に関する知識の向上を図った。 一方で保育の依頼をしても受けてもらえない方が多く、実際は少数の保育者に依頼している状況は改善されていない。既に登録いただいている方に、これまでより協力をいただくために、事業の必要性についての認識を深められるよう説明をしていくとともに、更に新規登録者を増やす方策を検討していく必要がある。	変更なし	事業回数	30回	45回
26	生涯学習課	道しるべ発行事業	公民館活動の記録として毎年刊行している。令和6年度で47集となる。自ら進んで学習する家庭教育学級や女性学級、高齢者大学それぞれの学習プログラムを取りまとめ、公民館等での取組や実施した講座の概要、参加人数等を集計した資料である。	年間の開催状況を記録し、未来のために残すことは必要である。公民館活動の記録として学級・大学や講座情報を掲載しているが、内容が多岐に渡るため編集作業が大変であり早期の発行が難しい。	IV-②	冊子の発行及びホームページ掲載は継続して行う。今後は、各講座情報の充実を図るとともに、分野別・事業別で取組状況やニーズを分析できる内容へと見直しを図っていく。	令和6年度分（第48集）の冊子作成に向け、各館から寄せられた原稿の校正・編集作業を進めたが、当初予定していたよりも完成時期が遅れる結果となった。 令和7年度に原稿作成依頼を行う際には、入力フォーマットの見直しを行い、各館での入力作業及び市立公民館・中央地区公民館で行う集約作業の効率化を図りたい。 また、冊子をできる限り早期に完成させることで、各事業の現状把握や分析を進め、速やかに事業改善や見直しへ反映していくことが課題である。	変更なし	発行回数	年1回	1回
27	生涯学習課	子どもの安全見まもり隊事業	子どもたちの登下校時の安全確保のため、老人会やPTA等地域のボランティアの方が見まもり活動を実施している。旗やベストなど活動備品の貸与、保険の加入を行っている。	年々、協力者が減少しているため、各学校へボランティア協力の依頼を行う。	II-①	【31・小学校見守りボランティア事業】と類似事業であることから、引き続き整理・集約できるところを検討していく。	全体の人数が令和6年度よりも増加した。	変更なし	活動者数	1,400人	1,433人
28	生涯学習課	子ども110番事業	子どもたちがトラブルに巻き込まれそうになった時に、助けを求めてかけ込むことができるように、地域の協力家庭に旗やタペストリーを掲げていただいている。また、公用車等に「子ども110番」のステッカーを貼っている。	協力家庭に旗等を配付している。各種団体にボランティア協力の依頼を行っている。	II-①	今後も継続して事業を実施していく。	こども110番の協力申請は14件あり、旗、タペストリーは合計131本配付した。	変更なし	協力家庭数	5,400件	5,377件
29	生涯学習課	スクールガードリーダー配置事業	府の補助金を活用した子どもの安全に関する事業で、元警察官を委嘱し、自転車等で地域の巡回見守り活動を行っているが、現在は、1中学校区を巡回している。	協力者が減少しており、現在は1名の体制となっている。	II-①	見守り関係事業の集約に伴い、他事業と連携しながら、スクールガードリーダーの必要性を検討していく。	令和6年度同様、1人のスクールガードリーダーが巡回を実施した。	変更なし	活動日数	154日	154日
30	生涯学習課	通学路巡回パトロール事業	子どもたちの登下校時の通学路における安全確保・犯罪等抑止を図る。会計年度任用職員（通学路巡回パトロール）4人が従事している。	通学路や市内の交通事情に精通していることが望ましいため、教員のOBなどが従事しているが、今後は後任候補を検討していく必要がある。	II-①	人事課や教育総務課にも相談の上、後任候補の検討を行う。	市内24小学校区を5つのブロックに分け、それぞれのブロックを1週間に1回ずつ巡回できるようにしている。学校より要望があれば適宜巡回ブロックの変更もしている。	変更なし	活動日数	204日	199日
31	生涯学習課	小学校見守りボランティア事業	子どもたちの登下校時に小学校の校門で校門開閉や来校者対応、見守りを行う。	【27・子どもの安全見まもり隊事業】と類似事業であることから、引き続き整理・集約できるところを検討している。	II-①	【27・子どもの安全見まもり隊事業】と類似事業であることから、引き続き整理・集約できるところを検討していく。	全体の人数が令和6年度よりも増加した。	変更なし	登録者数	110人	130人
32	生涯学習課	リーダー養成事業	青少年リーダーとしての必要な知識や技術の習得を図ることを目的にジュニアリーダー研修会として前期、中期、後期と1年通して研修を実施し、研修会の後、リーダー組織「新緑会」の加入に繋げる。	学校行事や習い事などと研修の日程が重複すると、応募数が非常に少なくなってしまう。	II-③	研修内容や講師については、研修生の反応をみて方向性を見出していく。	8名の市内小学6年生が参加。前期は神於山でハイキング、中期は公民館で調理や座学、後期は少年自然の家で宿泊研修を実施した。講師にカウンセラー協議会を迎えて活動し、参加者のサポートしてもらい、5名がカウンセラー協議会に加入につなげることができた。	変更なし	受講者数	15人	8人
33	生涯学習課	体験活動事業	小学生を対象に、野外活動などの様々な体験を通じてチームワークや仲間づくりの大切さを学ぶことを目的に、日帰り講座を実施している。	野外の講座は天候に左右されることが多いため、屋内の講座も含めて内容を検討していく必要がある。	II-③	内容や講師については、野外での活動に限定せず、テーマに幅を持たせて考えていく。	ケガや熱中症、低体温症の処置の講座を実施した。定員より少ない参加者での実施となったため、次年度は周知方法や企画内容を検討する。	変更なし	受講者数	20人	1人

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
34	生涯学習課	教育キャンプ事業	子どもたちの野外活動・自然体験活動を推進するため、正しい野外活動と集団生活を学ぶとする市内の子ども会及び市内の子どもが所属する青少年育成団体の活動を支援している。 具体的には、四季まつりキャンプ場の優先利用や、キャンプリーダーの派遣、テントや調理器具等の物品貸し出しを行っている。	現地で指導にあたるカウンセラー協議会の指導者数が減少しており、キャンプ開催日における指導者確保が難しくなってきている。	Ⅱ－③	現在の実施手法では事業の継続が難しいことから、別の手法の模索や他に活用できる制度などを案内することで、支援を行う。	2つの子ども会に日曜りで実施した。年々、参加できるカウンセラー協議会の指導者数が減少しており、今年度で教育キャンプ終了することにした。	教育キャンプとしては終了するものの、引き続きカウンセラー協議会に協力いただき、子どもたちの野外活動・自然体験活動を推進するための事業を継続できるよう検討する。	開催数	6回	2回
35	生涯学習課	新緑会事業	岸和田市内の中学1年生から高校3年生までで構成されているボランティア団体で、地域の子ども会が実施するレクリエーション等に、年少リーダーとして参加し育成者子どもの橋渡し役として活躍するほか、教育委員会主催の野外活動や教育キャンプ、リーダー養成研修などに、リーダーとして参加している。 また、知識・技術の向上を図るとともに、会員相互の親睦を深めるため、様々なレクリエーションやキャンプの企画・運営する自主活動を支援している。	リーダー養成講座を修了した小学6年生が加入に至らず年々、会員数が減少しており、ノウハウ継承が難しくなっている。	Ⅱ－② Ⅱ－③	カウンセラー協議会と互いに補充し合いながら、会としての活動を行えるよう支援していく。	リーダー養成講座を修了した小学6年生が加入に至らず、会員数が減少しており、今年度は活動することができなかった。	カウンセラー協議会と合同で活動することになるため、カウンセラー協議会事業に集約する。	会員数	15人	1人
36	生涯学習課	カウンセラー協議会事業	市内の青少年を対象に、あらゆる問題について調査研究し、関係団体と連絡協議して、自主的なボランティア活動を実践するとともに会員相互の研修を行い、教養並びにカウンセラー技術の向上を図る活動を支援している。	実働可能な会員が減少している。	Ⅱ－③	新緑会と互いに補充し合いながら、会としての活動を行えるよう支援していく。	ジュニアリーダー養成研修や公民館まつり等への協力を行った。ジュニアリーダーの修了した小学6年生が5名新会員として活動してくれることとなった。	会員数の増加と新会員の育成に注力する。	会員数	15人	13人
37	生涯学習課	子どもの居場所教室事業	子どもたちが余暇を有効に使い、それぞれが趣味に生き、充実した仲間づくりと併せて友情を育み、加えて豊かな心を養うことを目的としている。 陶芸、ジュニアオーケストラの2教室を開講している。	いきいき学びのプラン3月号で募集記事を掲載しているが、受講申込みが、年度により増減する。	Ⅰ－① Ⅱ－②	ジュニアオーケストラ、陶芸教室を継続していく。 大幅な受講申込みの減少がないように周知方法を検討する。	ジュニアオーケストラは、フレンドシップコンサート、公民館まつり、成人式のなどの場で発表を行い、陶芸教室は、多数の作品の制作や公民館まつりで展示を行い、充実した活動を行うことができた。 年度当初はジュニアオーケストラの人数は15名で、追加募集を行い22名で活動を行った。	変更なし	受講者数 Jr.オーケストラ	18人	22人
									受講者数 陶芸教室	24人	24人
38	生涯学習課	成人式（はたちのつどい）開催事業	本市在住の20歳を迎えた（る）方の前途を祝福激励し、成人としての認識を深めてもらうためにはちのつどいとして成人式を開催する。	少数ではあるが参加者のマナーの悪さへの対応が課題となっている。	Ⅰ－②	今後も20歳の方を対象に、式典を実施していく。 会場案内や誘導、見回りには各種団体の協力も得ながら、円滑な運営を目指す。	育成団体に警備の協力をいただき、参加者へ過度の飲酒の注意喚起を行うなどの呼びかけを行った。 職員の清掃時間を1時間延長し、清掃人数も6名から15名に変更した。また、ごみ箱の設置を廃止した。救急出動件数については9件であった。	変更なし	参加率	80%	75.3%
39	生涯学習課	フレンドシップコンサート事業	市内の中学校や高校、青少年による吹奏楽・合唱グループの参加者及び指導者が、実行委員会を組織しコンサートの企画・運営を行っている。コンサートは南海浪切ホールにて開催する。	来場者の大半が参加団体の関係者（家族や友人等）になっている。	Ⅰ－① Ⅰ－②	日頃の練習成果を披露する場として、今後も継続して実施していく。気軽に鑑賞できることを周知し、関係者だけでなく、より多くの市民に来場してもらえるようPRしていく。	令和7年度は12団体の参加があった。来場者は849名であった。 今後も多くの来場者、参加していただけるように広報やポスター、チラシでの周知活動を行っている。	変更なし	参加団体	14団体	12団体
40	生涯学習課	非行防止啓発市民集会事業	内閣府、大阪府が7月を「少年非行・被害防止強調月間」としており、それに合わせて岸和田市においても「少年非行・被害防止・暴走族追放強調月間」市民集会を実施している。市民集会は、保護司会などの更生保護団体をはじめとする各種団体と岸和田市・岸和田市教育委員会が構成する「社会を明るくする運動岸和田地区推進委員会」が行う「社会を明るくする運動 市民集会」と兼ねて実施している。	特に問題なく実施している。	Ⅰ－②	今後も更生保護を含めた非行防止啓発集会を継続して実施する。	令和7年7月12日に市民集会を実施。	変更なし	来場者数	280人	211人
41	生涯学習課	青少年育成連絡会事業	市PTA協議会、青少年指導員協議会、子ども会育成連絡協議会、青年団協議会、生涯学習課による連絡調整をする会であり、団体との連携を図る上で4団体の活動状況を確認する場及び、青少年の健全育成を同視線で考える場としている。	特に問題なく実施している。	Ⅰ－④	青少年育成の立場で情報共有を行い、連携していく。	令和7年11月13日に会議を実施。成人式への協力の依頼と各団体の行事予定など情報共有を実施。 委員より、会の実態が成人式への協力依頼の場となってきた。開催回数を増やし、積極的な意見交換を行っていくべきとの指摘あり。	市青協（青年団協議会）の活動が停止してしまっているため、活動再開に向け各団体の意見をいただく方向で検討。	連絡会開催数	1回	1回
42	生涯学習課	P T A 協議会支援事業	市立各学校・園 P T A が相互に連携し、協力しあい、P T A の健全な発展を図るとともに、教育の振興と園児・児童・生徒の健全育成に努めることを目的としている P T A 協議会活動を支援するため、補助金の交付などを行っている。 なお、令和6年度から補助金適正化基本方針により、団体運営補助から事業補助へ見直しを行った。	社会教育関係団体として、自主的な活動を行っている。	Ⅰ－④	今後も継続して自主的な活動を支援していく。	総会・三行詩コンクール・市 P T A 大会・市内一斉清掃・市 P T A 研修会を行った。 また、大阪府 P T A 協議会の会議や日本 P T A 近畿ブロック研究大会「大阪府大会」に参加するなど他市町村の P T A との交流もできた。	変更なし	支援の実施	継続的に支援	継続的に支援
43	生涯学習課	青少年指導員協議会支援事業	指導員相互の連絡協議を図り、青少年指導に関する諸問題の研究協議を行い、もって地域における青少年健全育成活動を円滑に、かつ、効果的に推進することを目的としている青少年指導員協議会活動を支援するため、補助金の交付などを行っている。 なお、令和6年度から補助金適正化基本方針により、団体運営補助から事業補助へ見直しを行った。	社会教育関係団体として、自主的な活動を行っている。			夏期校区別研修報告会、スポーツカーニバル協力、祭礼時パトロール、成人式の協力、年間を通して地域でのパトロール等を実施した。	変更なし	支援の実施	継続的に支援	継続的に支援
44	生涯学習課	子ども会育成連絡協議会支援事業	子ども会育成に関する諸問題について研究し、育成者及び指導者相互の連絡、協調を密にするとともに、自主的な活動、実践を通して子ども会の発展を図ることを目的としている子ども会育成連絡協議会活動を支援するため、補助金の交付などを行っている。 なお、令和6年度から補助金適正化基本方針により、団体運営補助から事業補助へ見直しを行った。	社会教育関係団体として、自主的な活動を行っている。			夏季・冬季スポーツ大会等すべての行事を滞りなく開催した。	変更なし	支援の実施	継続的に支援	継続的に支援

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
45	生涯学習課	青年団協議会支援事業	岸和田市内の各連合青年団の連絡協同を図り、自主的な青年団活動の育成に努めることを目的としている青年団協議会活動を支援するため、補助金の交付などを行っている。	社会教育関係団体としての活動内容について団体と協議が必要である。	I-④	今後も継続して自主的な活動を支援していく。	薬剤散布事業や成人式応援等を中心に活動を行った。	変更なし	支援の実施	継続的に支援	継続的に支援
46	生涯学習課	ボーイスカウト支援事業	青少年を育成するための事業を実施することを目的に、補助金の交付などを通じて活動を支援している。 なお、令和6年度から補助金適正化基本方針により、団体運営補助から事業補助へ見直しを行った。	社会教育関係団体として、自主的な活動を行っている。			社会教育関係団体として、自主的な活動を行っている。 第5団に対する補助金の交付につき引き続き検討を行う。	変更なし	支援の実施	継続的に支援	継続的に支援
47	生涯学習課	ガールスカウト支援事業	青少年を育成するための事業を実施することを目的に、補助金の交付などを通じて活動を支援している。 なお、令和6年度から補助金適正化基本方針により、団体運営補助から事業補助へ見直しを行った。	社会教育関係団体として、自主的な活動を行っている。			社会教育関係団体として、自主的な活動を行っている。 現在、補助金の交付を行っていないが、要否については今後も団体に確認を行う。	変更なし	支援の実施	継続的に支援	継続的に支援
48	生涯学習課	障害者学級支援事業	昭和56年9月「ひとりぼっちの障害者をなくそう」をスローガンにボランティアを募り、その年の12月第1回の学習を開催し、「しゃぼんだま」が発足した。そして、昭和57年4月から、「岸和田市青年学級」としてスタートした。 平成11年7月（平成12年4月1日施行）「青年学級振興法」が廃止されたことに伴い「岸和田市青年学級設置条例」及び「岸和田市青年学級設置及び運営規定」も廃止したが、その後も活動継続の強い要望を受け、新たに開設要綱を設置し継続してきた。平成17年度からは社会教育関係団体へと移行し、自主的に学習運営する「岸和田市障害者学級しゃぼんだま」に補助金を交付し活動を支援している。 なお、令和6年度から補助金適正化基本方針により、団体運営補助から事業補助へ見直しを行った。	社会教育関係団体として、自主的な活動を行っている。			月1回の学習活動を行うなど、自主的な活動を行っている。	変更なし	支援の実施	継続的に支援	継続的に支援
49	生涯学習課	サマースクール実行委員会支援事業	夏休み中の障害児に学習及び活躍の場を提供する。また、ボランティア活動を通じて、障害児教育について関心を高める地域の社会教育のひととして、補助金を交付し活動を支援している。 なお、令和6年度から補助金適正化基本方針により、団体運営補助から事業補助へ見直しを行った。	社会教育関係団体として、自主的な活動を行っている。			夏休み中に2回のプール遊びを実施。自主的な活動を行っている。	変更なし	支援の実施	継続的に支援	継続的に支援

岸和田市生涯学習実施計画 後期 令和7年度振り返りシート

【スポーツ振興課】

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標 番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考 指標	目標値	R7実績
1	スポーツ振興課	市民スポーツ大会開催事業	年に1度、市民を対象に、ソフトバレーボールや柔道、卓球など、全25種目の市民スポーツ大会を開催する。	岸和田市スポーツ協会に委託し実施しているが、少子高齢化やスポーツの多様化などにより、参加者数は減少している。競技によっては長期間実施するため、グラウンドや体育館など場所の確保については、優先予約により対応している。	I－①	全世代の市民がスポーツに親しめる環境を整え、体力向上と心身の健康づくり、技術の向上に寄与できるよう努める。近年、市民のスポーツに対する意識やニーズが多様化し、ライフステージに応じたプログラムの提供が求められている。ニーズに対応したスポーツの機会を提供するとともにP・Rに努める。	22種目、計4,815名が出場した。少子高齢化やスポーツの多様化などで、令和6年度より約200名の参加者数の減少となっている。競技によっては長期間実施するため、グラウンドや体育館などの場所の確保が困難となっている。	変更なし	延べ参加者数	8,000人	4,815人
2	スポーツ振興課	大阪府総合体育大会参加事業	大阪府総合体育大会（全11種目）に岸和田市の選手を派遣する。市民スポーツ大会の成績優秀者が市の代表として選出されることが多く、市民スポーツ大会出場に対する意欲向上やスポーツをするモチベーション、レベルアップに貢献する。	B・M・X競技やスポーツクライミング、スケートボード、ダンスなど様々なスポーツが増え、スポーツに取り組む選択肢が増えた一方、人口減少などにより、参加者数が減少している。審判や大会競技会場の確保ができないことにより、中央大会が開催されない競技種目もある中、運営について、他市町との連携により実施している。	I－①	スポーツ振興のため、継続して参加し、各競技者のレベルアップに繋げる。地区大会開催競技種目については、各連盟と協力し、開催できるよう努める。地区大会及び中央大会の選手派遣人数、年間延べ400人をめざす。	10種目（バレーボール、卓球、柔道、軟式野球、ソフトボール、テニス、ソフトテニス、バスケットボール、弓道、駅伝競走）延べ1,114名出場。各種目種別の大会運営について、他市町との連携により実施した。参加者数の減少に加え、施設老朽化に伴う改修等により大会競技会場の確保が課題となっている。	変更なし	延べ派遣人数	400人	426人
3	スポーツ振興課	スポーツ少年大会開催事業	8種目のスポーツ少年大会（軟式野球、空手、少林寺拳法、実践空手、武道空手、アジャタ、空道、バレーボール）を実施する。	8種目のスポーツ少年大会を本市で活動している岸和田市スポーツ少年団に委託して実施しているが、B・M・X競技など様々なスポーツが増え、スポーツに取り組む選択肢が増えたことや、少子化などにより、参加者数が減少している。	1－① 1－②	登録団体数は維持できるよう、指導者登録に必要な資格取得のための研修等、積極的に情報提供を行い、各団体と協力しながらスポーツ振興に努める。	軟式野球、少林寺拳法、空手道、武道空手道、実践空手道の計5種目のスポーツ少年大会が実施されたが、指導者の資格の要件の変更など指導者や団の取り巻く環境は変化している。	変更なし	登録団体数	20団体	18団体
4	スポーツ振興課	スポーツカーニバル開催事業	年1回（11月）に校区別の対抗運動会である市民スポーツカーニバルをスポーツ推進委員と協働で開催する。	子どもから大人まで多世代で楽しめるイベントだが、地域によっては参加者の確保が課題になっている。	I－① I－②	市民が気軽にスポーツに親しめるイベントとして、多種目の競技を企画する。より多くの市民が参加できるようなスポーツ推進委員協議会等、各団体と調整する。	全世代で楽しめるイベントだが、町会に未加入世帯や、子供会を組織していない町会の増加、少子化による地域人口の減少により、地域によっては参加者の確保が課題になっている。	少子高齢化が進んでいるが、校区のコミュニティの交流やスポーツ振興のため、全小学校区参加を目指し継続していく。	参加校区数	24校区	23校区
5	スポーツ振興課	ファミリースポーツ開催事業	グラウンドゴルフ、ウォークラリー、ファミリー登山など、家族で楽しめるイベントをスポーツ推進委員と協働で開催している。	誰もが気軽に参加できるイベントとして開催している。	I－① I－②	誰もが気軽に参加できる体験型・参加型のイベントを開催する。	ウォークラリー、ファミリー登山、ニュースポーツフェスなど、誰もが気軽に参加できるイベントとして開催。また、地域別に年8回のスポーツ体験会を実施。	変更なし	延べ参加者数	230人	446人
6	スポーツ振興課	レクリエーションスポーツ大会開催事業	誰でも参加できるレクリエーションスポーツとして、簡単なルールで誰もが楽しめるニュースポーツフェスを開催する。	誰もが気軽に参加できるイベントとして開催している。	I－① I－②	誰もが気軽に参加できる体験型・参加型のイベントを実施し、運動するきっかけを提供する。	実施なし。	大会を主催しているスポーツリーダークラブがメンバーの高齢化により解散の方向で検討を進めている。代替となる団体がいないため大会の実施は困難な状況である。	参加者数	90人	－人
7	スポーツ振興課	市民ゲートボール大会開催事業	年1回（5月）、市民を対象としたゲートボール大会を開催する。	岸和田市ゲートボール連盟に委託して実施しており、特に中高年層にとって、気軽に参加できるスポーツとして開催している。	I－① I－②	年齢制限なく、誰もが気軽に参加できるスポーツとして開催していく。	葛城運動広場で10チーム62名が参加。ゲートボールの競技人口が少なくなってきたいるが、継続して中高年層の健康維持、楽しみづくりの場として開催継続をしていく。参加者数を確保するために必要な施策について検討が必要。	変更なし	参加者数	120人	62人
8	スポーツ振興課	K・I・X泉州国際マラソン事業	泉州9市4町で泉州地域の活性化や国際交流、スポーツ振興を目的に、例年2月にフルマラソン・ハーフマラソン大会を実施している。全国、海外から多くのランナーが参加。令和5年度に、主催者が（一社）K・I・X泉州ツーリズムビューローから泉州9市4町で構成されるK・I・X泉州国際市民マラソン実行委員会設立準備委員会に変更した。公道での実走による大会開催の可能性について協議を進める。	令和5年度は公道でのマラソンは実施せず、代わりにG・P・S機能付スマートフォンアプリ（T・A・T・T・A）を活用したオンライン方式によるマラソン大会「第31回K・I・X泉州国際マラソン2024 ONLINE」を開催した。令和6年度は、りんくう公園内における実走とオンラインの併用で大会を開催する。	I－① I－② II－①	公道での実走による開催に向けて、引き続き構成市町や関係者と協議を進める。また、公道での実走が開催された際は、大会が安全に実施されるよう、各スポーツ団体等と連携しながら、沿道整備などの支援に取り組む。	令和7年度は、りんくう公園内においてフルマラソン及びハーフマラソンの大会を開催した。公道でのマラソン復活に向けた課題整理が必要。	変更なし	参加者数	開催方式確定後に設定	914人
9	スポーツ振興課	水泳教室開催事業	25mクロールで完泳できることを目標に、小学1年～6年生を対象とした初心者水泳教室を5プール（浜、朝陽、八木北、太田、桜台）でそれぞれ1クール8日間実施する。	屋外の市民プールで実施するため、さらなる暑さ対策が必要であり、また少子化や民間活力の充実などにより受講者数の減少が課題となっている。	I－① V－②	令和6年度に引き続き、岸和田市水練学校の休止を踏まえ、対象学年を6年生まで拡大して行う。指導者の確保に努め、参加したすべての子どもたちが泳げるようになるという目標を掲げて安全に開催していく。	25mクロールで完泳できることを目標に、小学1年～6年生を対象として実施。屋外市民プールの老朽化に伴い、4カ所の市民プールで実施となった。受講前の体調確認や水分補給を徹底し、暑さに配慮しながら実施した。	指導者確保のため、募集方法の電子化や近隣大学への募集案内を検討する。参加した子どもたちが泳げるようになるという目標を掲げて、安全な事業運営に努める。	参加者数	420人	333人
10	スポーツ振興課	ワールドマスターズゲームズ2027関西大会開催事業	概ね30歳以上の誰もが参加できる国際スポーツ大会で4年ごとに開催される。日本では初めての開催で、全31競技が関西一円で実施される。大阪府では東大阪市のラグビー、堺市のサッカー・フットサル、泉南市のオープンウォーター、岸和田市のB・M・X競技を実施する。競技レベルに関わらず参加でき、国際交流や観光を目的に参加する人も多い。	新型コロナウイルスの影響により延期になっていた開催日程が確定【令和9年（2027年）5月】したことを踏まえ、関係者と連携し、参加者の増加に向けたP・R活動、気運醸成に取り組んでいる。	I－① I－②	関係者や庁内関係課と連携し、大会開催に向けた準備、参加者の増加に向けたP・R活動、大会の魅力向上や周遊促進に向けた取組を進める。	CYCLE MODE 岸和田ファンミーティング2025、KISHIWADA SPORTS FES 2025でBMX体験会を実施した。ジャパン・カップ・BMXレーシング2025/JOC・ジュニアオリンピックカップBMXレーシング2025、GANCUP、KIX泉州国際マラソン、CYCLE MODE RIDE OSAKA 2026等のイベントや市のHP、インスタグラムにおいてBMX及びワールドマスターズゲームズのPRを行った。	変更なし	参加者数	100人	－人

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
11	スポーツ振興課	スポーツ推進計画推進事業	スポーツ振興を図るため、平成30年3月に策定し、令和6年6月に改定した「岸和田市スポーツ推進計画」の進捗状況などを検証し、進捗管理を行う。	学識経験者や市民委員などで構成するスポーツ推進審議会を開催し、「岸和田市スポーツ推進計画」の進捗状況などを検証し、進捗管理を行っている。	Ⅳ－③	学識経験者や市民委員などで構成するスポーツ推進審議会を開催し、「岸和田市スポーツ推進計画」の進捗状況などを検証し、進捗管理を行う。	学識経験者や市民委員などで構成するスポーツ推進審議会を開催し、「岸和田市スポーツ推進計画」の進捗状況などを検証し、進捗管理を行った。	変更なし	審議会開催回数	1回	2回
12	スポーツ振興課	スポーツ推進委員事業	スポーツ推進委員はスポーツ基本法に規定され、スポーツ推進に係る体制整備を図るため、教育委員会より委嘱している。教育委員会推薦の12名と各小中学校で推薦する2名（計48名）の全60名となっている。スポーツカーニバル、ファミリー登山、ウォークラリー、ニュースポーツフェス、その他スポーツ大会や研修などを実施する。	定期的な会議や研修会を開催し、スポーツやイベントをきっかけとした地域づくり、スポーツ振興を行っている。若い世代の人材確保が今後の課題である。	Ⅰ－①	スポーツカーニバルやファミリー登山等のイベントを企画し、市が事務局となり共催する。推進委員全体の高齢化によって、担える役割も変化しているが、スポーツ推進のための事業の開催に努める。	定期的な会議や研修会を開催し、スポーツやイベントをきっかけとした地域づくり、スポーツ振興を行っている。若い世代の人材確保が今後の課題である。	変更なし	イベント実施数	4回	4回
13	スポーツ振興課	学校体育施設開放事業	地域のスポーツ振興のため、学校教育に支障のない範囲（主に夜間、土日）で学校体育施設（運動場・体育館等）を開放し、ソフトボールやバレーボール、サッカーなどの各団体の利用に供する。	各小中学校体育施設開放運営協議会に委託し、身近な小中学校の施設を活用して、様々なスポーツの場を提供している。	Ⅰ－① Ⅴ－②	地域におけるスポーツ振興のため、小中学校体育施設開放運営協議会と連携し事業を推進する。	小学校24校（全校）、中学校10校（全11校）の身近な小中学校の体育施設（グラウンド、体育館、武道場）を一般開放し、様々なスポーツが実施されている。	変更なし	延べ利用者数	250,000人	180,457人
14	スポーツ振興課	スポーツ推進委員協議会支援事業	全60名のスポーツ推進委員がスポーツを推進できるように助成金を交付し、活動を支援する。	スポーツ推進委員の高齢化や後継者不足等の課題がある。	Ⅰ－①	年10回の定例会や各種研修会への参加について、活動を支援する。	定期的な会議や研修会を開催し、スポーツやイベントをきっかけとした地域づくり、スポーツ振興を行っている。若い世代の人材確保が今後の課題である。	変更なし	定例会開催数	10回	10回
15	スポーツ振興課	スポーツリーダークラブ支援事業	スポーツリーダー養成講座を受講した20名程のクラブであり、ファミリーベタング大会の開催や障害者スポーツ大会開催への協力などの活動を支援する。	長年にわたって活動してきているが、会員の高齢化に伴い、会員数が減少しており、ファミリーベタング大会の開催は休止し、障害者スポーツ大会開催への協力などの活動回数も減少している。	Ⅰ－① Ⅱ－① Ⅱ－③	スポーツリーダークラブの活動支援のため、事務局として定例会議や研修実施の支援を行う。	長年に渡って活動しており、障害者スポーツ大会の運営協力や、市民スポーツカーニバル、KISHIWADA SPORTS FESの運営協力を行っている。	変更なし	役員定例会開催数	10回	10回
16	スポーツ振興課	地域スポーツクラブ支援事業	地域密着型のスポーツクラブである総合型地域スポーツクラブは、幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせて、さまざまなスポーツ（柔道、サッカー、バスケットボールなど）を行っており、その活動を支援する。	市内に2つの総合型地域スポーツクラブがあり活動している。市は研修会や助成金の活用等の情報提供等の支援を行っている。	Ⅰ－① Ⅱ－①	総合型地域スポーツクラブが継続して活動できるよう、情報提供等、継続して支援を行う。	市内に2つの総合型地域スポーツクラブがあり活動している。市は研修会や助成金の活用等の情報提供等の支援を行っている。	変更なし	協議会開催数	1回	1回
17	スポーツ振興課	スポーツ協会支援事業	陸上、サッカー等計25競技団体が加盟しているスポーツ協会に補助金を交付し、活動を支援する。	多くのスポーツ団体が加盟し、スポーツ大会などを実施しているが、各団体役員の若い世代の人材確保が課題となっている。	Ⅰ－④	スポーツ振興のため、補助金の交付や大会競技会場の確保など、各スポーツ団体の活動を継続できるよう支援を行う。	多くのスポーツ団体が加盟し、計12回の理事会や地域展開についての研修会や、市民スポーツチャレンジとしてスポーツツレクリエーション体験、スポーツ大会などを実施しているが、各団体役員の若い世代の人材確保が課題となっている。	変更なし	研修会開催回数	1回	1回
18	スポーツ振興課	スポーツ少年団支援事業	スポーツ少年団はスポーツを通して青少年の健全育成を図ることを目的とする社会教育関係団体で、スポーツや地域活動（清掃など）を行っている。一般にスポーツ少年団とよばれる「単位団」と、その上位に位置する市町村スポーツ少年団、地区スポーツ少年団、都道府県スポーツ少年団、及び全国組織の日本スポーツ少年団からなる。スポーツ少年団（軟式野球、空手、少林寺拳法、実践空手、武道空手、アジタ、空道、バレーボールの8種目15団体）に補助金を交付し、活動を支援する。	加盟団体及び団員が減少している。	Ⅰ－④	スポーツ振興のため、団員交流の場や大会競技会場の確保など、スポーツ少年団団体の活動を継続できるよう支援を行う。	団員交流の場（結団式や交流会）や大会競技会場を確保し、スポーツ少年団団体の活動を支援した。	変更なし	研修会開催回数	1回	1回
19	スポーツ振興課	総合体育館指定管理事業	市のスポーツの拠点である総合体育館の管理運営を指定管理者に行わせ、スポーツの振興を図る。 ・全国規模の大会やプロリーグ ・団体利用 ・自主事業として様々なスポーツ教室の実施 ・トレーニング室の運営等	運営は指定管理者に行わせ、プロリーグの開催や全国規模のスポーツ大会、また様々なスポーツ教室、イベントを実施し、スポーツ振興に大きく貢献している。さらに、トレーニングルームは高齢者も多く利用し、介護予防、健康増進にも大きく貢献している。	Ⅰ－① Ⅰ－②	令和7年度に次期指定管理者の公募があるため、適切な仕様書を作成することで、指定管理者とともに更なるスポーツの振興を図る。	次期指定管理者（R8～12年度：5年間）の公募を実施。指定管理者の交替に伴い、業務の引継ぎ（利用調整、備品の管理）について円滑に行えるかが懸念される。	変更なし	延べ利用者数	250,000人	243,442人
20	スポーツ振興課	市民プール等管理事業	朝陽・浜・桜台・太田・八木北の5プールにおいて、一般開放、学校水泳授業、初心者水泳教室を実施する。	12プールを管理しているが老朽化が著しいため、令和6年度は7プールを休止し、5プールを開場しているが、近年は各プールとも利用者数が減少している。	Ⅰ－① Ⅰ－②	屋内プール完成まで現状維持に努める。	12プールを所管しているものの老朽化が著しいため、令和7年度は8プールを休止し4プールのみ開場したが、近年は各プールとも利用者数が減少傾向にある。	変更なし	一般開放するプール数	5か所	4か所
21	スポーツ振興課	市民体育館指定管理事業	市民体育館である中央体育館の管理運営を指定管理者に行わせ、スポーツの振興を図る。 ・団体利用 ・各種スポーツ教室の実施	各スポーツ団体やグループが卓球やバスケットボール、バレーボールなどを実施している。身近なところでスポーツができ、コミュニティの場、健康維持、増進の場として役立っている。	Ⅰ－① Ⅰ－②	総合体育館を補完する施設として、引き続き市民の屋内運動の機会を提供する。	次期指定管理者（R8～12年度：5年間）の公募を実施。指定管理者の交替に伴い、業務の引継ぎ（利用調整、備品の管理）について円滑に行えるかが懸念される。施設の補修や維持管理については老朽度合いを鑑みながら適切に管理する必要がある。	変更なし	延べ利用者数	60,000人	45,810人

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
22	スポーツ振興課	運動広場等指定管理事業	野球やサッカー、テニスなど様々なスポーツや運動ができる運動広場（5か所）、テニスコート（4か所）の管理運営を指定管理者に行わせ、スポーツの振興を図る。	多くの市民が野球やサッカー、グラウンドゴルフ、テニスなどスポーツを楽しんでいる。コミュニティの場、健康増進、楽しみ、生きがいづくりの場として貢献している。	I-① I-②	引き続き市民の屋外運動の機会を提供していく。	次期指定管理者（R8～12年度：5年間）の公募を実施。指定管理者の交替に伴い、業務の引継ぎ（利用調整、備品の管理）について円滑に行えるかが懸念される。施設の補修や維持管理については老朽度合いを鑑みながら適切に管理する必要がある。	変更なし	延べ利用者数	110,000人	75,712人
23	スポーツ振興課	学校部活動地域移行推進事業	中学校の部活動は、少子化により、生徒が求める部活動が設置されていない学校や、部員不足で大会等に出場することができない学校が増加傾向にあり、今後、更に子どもたちのスポーツ活動の制限や体験格差が大きく進むことが予測される。また部活動による教員の業務量の増加等が課題となっている。これら課題の解決に向けて、国の動向も踏まえ、学校や地域クラブと連携して、学校の部活動を地域クラブにおけるクラブ活動に移行する「運動部活動の地域移行」に関する実証事業や環境整備に取り組む。	令和6年度も引き続き、大阪府より「令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業）」を受託し、2中学校・5部活の実証事業を実施した。	V-②	国の動向を踏まえ、部活動の地域連携や地域スポーツ活動移行に向けた実証事業や環境整備に取り組む。	令和7年度も引き続き、大阪府より「令和7年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業）」を受託し、4中学校を対象とした、サッカー・ダンス・陸上の合同クラブの実証事業を実施した。	変更なし	実証事業の実施状況等を踏まえ、目標値を設定予定	実証事業の実施状況等を踏まえ、目標値を設定予定	97人

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
1	郷土文化課	濱田青陵賞事業	岸和田市文化賞条例に基づく、朝日新聞社との共同開催の学術文化賞である。岸和田市出身の日本考古学の父と呼ばれる、濱田耕作元京都大学総長の功績をたたえ、その後進である日本考古学を基本とする関連諸科学の分野の新進気鋭の研究者を表彰している。令和6年度で36回を数え、考古学界の芥川賞とまで例えられ、受賞者のその後の活躍も目覚ましい。また令和3年度より授賞式・記念シンポジウムのYouTube生配信を開始した。	受賞者の研究業績に対して記念講演とシンポジウムを構築するため、受賞者の研究内容により集客数が増減する。また、動画配信と有観客開催を併用する為、会場内の観客数が減少するというジレンマもある。 また全国的に学術文化賞の廃止が多いなか、その存続にも努力が必要であり、学術的な対応ができる職員の育成も欠かせない。 令和6年度事業の動画配信の総再生回数は4,900回（令和6年10月30日現在）を超えるなど、好評を得ている。	I-④	朝日新聞社と継続して実施する。 また、令和5年度のシンポジウムは加筆修正して出版予定。	令和7年度は、有観客開催と並行してYouTube生配信を行った。観客数は会場に120人程度、YouTube生配信は、現時点（令和8年4月時点）でトータル2,433回の再生回数を記録し、会場に来ることができなかった希望者に対し質の高い講演内容を高品質な動画で提供するなど、濱田青陵賞の周知効果としては非常に良い結果となっている。 また、「存続に対する努力」の部分としては、受賞者を中心にパネリストが、令和7年度のシンポジウムの内容を、吉川弘文館より出版する計画である。また、朝日新聞社と5か年の事業の覚書を交換し引き続き両者の協力体制で実施予定である。	変更なし	選考頻度	1回	1回
2	郷土文化課	展示普及事業	岸和田城の耐震補強工事が始まるまでは、1階には常設展を置き、2階で時宜に適応した岸和田ゆかりの企画展を行っている。また、岸和田カンカンバイサイドモールや市民センター等において写真やパネルによる出前展示の開催を実施。 令和9年度から予定されている工事に伴い、常設展示は隣接、企画展展示は二の丸広場観光交流センターに、収蔵庫は、隣接と同センターに移設を予定している。	岸和田城は博物館法という指定施設ではないため、他の博物館からの資料の借用が難しい。そのため自己所有の資料が主な展示となる。また施設の老朽化のため様々な制約を受けた上での展示となっている。城の耐震補強工事に伴い、使用できなくなる展示室並びに収蔵庫を転載させるために展示基本計画を策定中。	I-④	展示場所に応じ、現状を維持しながらも新しい要素も取り入れていく。	岸和田城での企画展の開催 ①「『戦い』から『泰平』へー武器ー」 ②「近代岡部家の歩み」 ③「おもしろい日本画の世界」 ④「『救う』の歴史」 ・市内小中学校、市立産業高校、公共施設等へ企画展のポスターやチラシを配布した。 ・出前展示（二の丸広場観光交流センター）を実施した。	変更なし	企画展示の入替回数	4回	4回
3	郷土文化課	講座開催事業	企画展や時宜の話題などの内容に準じて歴史講座を開催している。また小学校において甲冑を実際に着用するなど体験型の出前授業を実施。	企画展会場近くに講座会場を設けることができないため、展示に即した講座を開催しづらい。耐震補強工事に伴う展示会場の変更により講座の実施についても検討が必要となる。	I-④	講座会場にこだわらず、離れた場所においても講座を開催できるようにする。	歴史講座を2回開催。 令和7年3月に府指定史跡となった記念として岡部家墓所の成り立ちについて、また戦後80年を迎え、文化財の視点からの講座を開催した。	変更なし	歴史講座開催回数	2回	2回
4	郷土文化課	指定文化財標柱・説明板設置事業	市内に点在する指定文化財に対して、来訪者の便益のために説明板を設置している。	劣化した標柱や説明板が増えてきている。	I-④	順次更新と新規設置を継続して実施する。	文化財説明板を1か所（意賀美神社社叢）に設置した。 久米田古墳群説明板の更新を行った。	変更なし	年間設置（改修）件数	2件	2件
5	郷土文化課	講師派遣事業（郷土史・文化財）	市民の要望を受けて設定された内容に応じ講師を派遣している。郷土史や文化財の内容で受け付ける。	要望を受けてジャンルに沿った講師を派遣しているが、要望に添えず派遣できない場合がある。	I-④	要望に添えるよう可能な限り継続して実施する。	生涯学習課出前講座、その他直接依頼を中心に、ジャンルに応じて講師派遣を行った。 約46件（テレビ出演、ラジオ出演、一般講座、講義、学校授業、生涯学習課出前講座を含む）	変更なし	年間講師派遣回数	12回	46回
6	郷土文化課	発掘調査報告書発行事業（文化財）	遺跡の記録保存のための発掘調査は公開義務があり、発掘調査の成果を報告書として刊行している。関係機関、大学、図書館などに配布している。	学術報告書であり、図書館以外に市民の目にふれる機会が少ない。また発行部数も300部以下と極端に少ないため、かなりの興味をもって資料を探さないとわからない状況である。	I-④	発行部数が300部と少ないことから、市のホームページを利用し、データでの公開を実施する。	岸和田市内、高石市内の遺跡の発掘調査成果を所収した『令和7年度発掘調査概要』の刊行した。本書については特殊な内容であり広く閲覧される内容ではないため、PDF化は行わず、ウェブサイト公開も行っていない。	変更なし	発掘調査時	報告書を随時発行	発行した
7	郷土文化課	ブナ林保全事業	衰退が危惧される国指定天然記念物、和泉葛城山ブナ林の保護増殖を図るため、岸和田市、貝塚市、大阪みどりのトラスト協会の3者で、昭和63年より事業を行っている。これまで行政主導で種子採取を行い、緩衝樹林帯に植樹、ブナの生態の調査研究を行っている。また、ハイキングやシンポジウムの開催、普及啓発なども行っている。	ブナの保護増殖と合わせて普及啓発なども行っているが、これまで行政主導の事業展開であったため、各保存団体との連携が薄い。今後は各団体とのネットワーク構築が欠かせない。	I-④ I-④	『和泉葛城山ブナ林10年計画』に基づき保護増殖活動を実施していく。また、関連団体とのより強固な関係構築のため、活動内容の共有を促進する。	『和泉葛城山ブナ林10年計画』の中間レビューで、今後の方針を微調整した。また、生物多様性の視点を加味したシンポジウムを開催し、市内のみならず泉南地域の関連団体と情報を共有でき、今後、保護増殖活動に活かしていく。	変更なし	シンポジウム開催数	2年に1回	1回
8	郷土文化課	自然資料館貸館事業	市民の自主的な自然学習の場を提供するため、多目的ホールの貸出しを行っている。令和元年度の受益者負担の見直しにより、利用料金の改定を行うとともに、自然学習以外の利用や営利目的での利用についても、一定の条件で貸出し可能とした。	展示や講座等の自主事業及び団体見学者による利用が主体であり、貸出し可能である日数が限られることから、一般の個人・団体による利用は少ない。	I-④	多目的ホールは自主事業により利用できない期間が多いが、貸出しは可能であることの周知を図る。	学校・園等による団体利用の際の実習・待機・休憩場所とする場合も多いが、無料の貸出し実績には含まれていない。その他、障がい者や高齢者団体の待機・休憩場所として利用する場合もある。	変更なし	貸出回数（無料）	7回	11回
									貸出回数（有料）	3回	0回

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標 番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考 指標	目標値	R7実績
9	郷土文化課	企画展開催事業 （自然史）	特別展より小規模な企画展等を多彩なテーマで年に3回程度開催し、市民の自然への学びを促しつつ、知的好奇心を深められるような場を提供している。	特別展より小規模ではあるが、設営には一定の時間と労力が必要となる。一方、会場である多目的ホールは他の事業でも頻繁に使用しており、設営にかけられる時間が短くなりがちであるため、展示内容と造作のレベルを保ちつつ目標とする年間開催数を確保するのに苦労している。	I－④	他の博物館と共同で実施する巡回展も活用しながら、企画内容の多様化と費用・労力の低減を両立させる。特別展と同様に、2～3年先を見越した展示計画策定も必要である。	毎年開催している写真展のほか、生涯学習部内で連携して行った市立公民館での折紙の作品展、和泉葛城山ブナ林関連団体との共催により市役所新館玄関で実施したパネル展、就労継続支援B型事業所の通所者による作品展の計4回実施し、多様な視点での自然の学びにつなげた。	変更なし	開催数	3回	4回
									延べ 入場者数	5,000人	3,391人
10	郷土文化課	講師派遣事業 （自然史）	さまざまな事情で自然資料館を訪れにくい学校・園等の団体が自然について学ぶ機会を増加させるとともに、他の博物館や公的機関、市民団体との相互連携を図るため、チリメンモンスター実習等、特色豊かな内容での出前授業等を継続実施している。	数多く実施してきたが、他の事業とのバランスに課題があり、実施形態の見直しを進める必要がある。講義内容をすべてこちらに任せてしまうと、派遣先学校教員の主体的関与が不足しがちで、各校の特性を生かした内容にできていない場合が多い。	I－④ IV－④	学校・園の児童・生徒等向け出前授業を充実させるのに加え、教員向け研修や教員と共同での学習プログラム開発を行うことで、両者の関係強化につなげていく。	講師派遣回数は、前年度よりやや少なかったものの、ほぼ同水準を維持した。約半数が学校・園だったが、公民館や図書館などへの派遣もあり、チリメンモンスターを中心に、海洋生物や昆虫、鳥、地学など多彩なテーマで対応した。依頼する学校・園が幅り気味だが、教員の異動や口コミ等による新たな依頼も増えつつある。	変更なし	派遣回数	65回	58回
									延べ 参加者数	3,000人	1,646人
11	郷土文化課	室内講座等実施事業 （自然史）	週に1～2回程度の室内講座の開催を通じ、自然環境や自然史科学への関心を持つ機会を未就学児、小・中学生を中心に広く提供し、郷土の自然への理解を深めている。平成23年に行った2階常設展示室の一部リニューアルの際、実習スペースを設け、ほぼ毎日曜日・祝日には小規模な実習を行うようになったことで、それ以前から実施回数、参加者数ともに大幅に増加した。 その後、館外での観察会も含めて他の普及事業がある日は実習を行わないようにし、さらに、職員の負担軽減も考慮して、実習回数は減らしている。一方で、コロナ禍に取り組むようになったオンライン講座はその後も継続している。実習、講座は申し込みが多く、ニーズに応じた実習内容となっている。	数多く実施してきたが、他の事業とのバランスに課題があり、実施形態の見直しを進める必要がある。講義内容をすべてこちらに任せてしまうと、派遣先学校教員の主体的関与が不足しがちで、各校の特性を生かした内容にできていない場合が多い。	I－④	身近な地域の自然について学ぶ機会を提供するという自然資料館の設置目的を念頭に置いた上で、講座内容のレベル向上を図りつつ、未就学児や障害者への対応、常設展示との関連性を意識した内容へと発展させる。また、オンラインでの新しい実施形態にも引き続き取り組みでいく。	開館30周年記念として、開館月である6月から8月にかけては例年より多く室内実習会を実施し、3月には記念講演会も開催したが、これまで実施回数の多かったミニ実習を人員と予算等の関係で精選したことから、年間での実施回数は減少した。一方で参加者数はほぼ目標どおりであった。実施に際しては、他の博物館や民間事業者、公益法人等の多様な主体と連携し、業務量とコストの低減を図りつつ、魅力ある内容での実施に努めた。内容が専門的で聴講が主体となる講演会や研究会については、参加者数が伸び悩み傾向がある。	変更なし	開催数	80回	40回
									延べ 参加者数	2,700人	2,248人
12	郷土文化課	野外観察会実施事業	自然観察会を月に1～2回開催し、野外にあるさまざまな自然環境を実際に訪れ体験する機会を提供することで、郷土の自然や自然史科学への理解と関心を高めている。	多くの場合、講師の補助や安全管理を複数のボランティアに頼っているが、その位置づけが不明確である。	I－④	身近な地域の自然について学ぶ機会を提供するという自然資料館の設置目的を念頭に置いた上で、泉州地域の多様な自然の魅力が伝わるような内容での実施を継続する。ボランティアについては、何らかの補償ができるようにする。	開館30周年記念として、市内での野外観察会を例年より多く実施した結果、実施回数、参加者数ともに大きく増加した。実施に際しては、他の博物館や民間事業者、公益法人等の多様な主体と連携し、業務量とコストの低減を図りつつ、魅力ある内容での実施に努めた。なお、運営をサポートするボランティアやアドバイザー5名に対し、傷害保険に加入した。	身近な地域の自然について学ぶ機会を提供するという自然資料館の設置目的を念頭に置いた上で、泉州地域の多様な自然の魅力が伝わるような内容での実施を継続する。	開催数	15回	21回
									延べ 参加者数	350人	742人
13	郷土文化課	自然関連冊子発行事業	地域の自然情報や科学的な知見、調査・研究の成果を広く普及・公表するための媒体として、さまざまな形態の印刷物を発行している。	研究報告・館報は令和3年度から毎年発行できているが、編集・製作体制が脆弱なため、その継続と掲載論文の質の担保に不安がある。一般向けの普及用印刷物についても、ブックデザインを学んでいない学芸員による製作作業が基本であり、外部デザイナーのサポートがないと装丁の質を保つのが困難である。	I－④ IV－②	研究報告・館報については、毎年発行を継続した上で、掲載論文の質を担保できるような編集・製作体制の強化を図る。普及用の印刷物については、内容だけでなく装丁の質にも注意を払い、来館者が手に取りやすいものとするなどで、その普及効果を高める。	研究報告・館報の発行日を年度末から年末に変更した。これにより、業務の集中を避けることができ、編集労力の軽減につながった。掲載論文数の確保は引き続き検討が必要である。また、一般向け普及用印刷物を2冊作成した。これらは、受託事業および支援事業の一環として作成したものであり、継続的な作成に向けては印刷費、デザイン費の捻出が課題となる。	変更なし	発行回数 普及用	5年に 1回	2回
									発行回数 研究報告	毎年1回	1回
14	郷土文化課	展示品整備事業 （自然史）	開館以降に収集した実物標本や模型、解説パネル等を活用することで、郷土の自然や自然史科学について深く学ぶことができるような展示を整備している。	常設展示室のエリアによっては、開館以降に蓄積された標本資料の展示と最新の科学的知見の反映が十分できていない。	I－④	大規模な更新は当面難しいが、学芸員が自力で製作できる範囲での更新は着実に進めつつ、これまでの活動の中で蓄積されてきた映像資料の活用を図る。	自然資料館が制作に協力している（株）テレビ岸和田の番組「きわだネイチャー探訪」の過去映像を活用し、2階常設展示室に自然映像上映装置を設置した。また、蛍光灯照明が残っている企画展示用展示台のうちの5台分をLED化した。	変更なし	更新 展示物の割合	3%	5%
15	郷土文化課	特別展開催事業 （自然史）	自然資料館の調査・研究活動の成果や最新の科学的知見を反映した多彩な内容で特別展を開催し、市民の自然への学びを促しつつ、知的好奇心を深められるような場を提供している。	数年前からの計画的な準備ができておらず、調査・研究活動との関連性が乏しい展示になることがある。広報が不十分で、外部評価も高い魅力ある内容でありながら、入場者数が伸び悩むことがある。	I－④	2～3年先を見越した展示計画を策定する。また、広報手段の改善を図り、来館の契機となるような機会を増やすことで、入場者数の増加を図る。	開館30周年を記念し、これまでの活動をふり返るとともに、岸和田の自然の現状や、将来を考察する展示を行った。会期中には、例年通り関西文化の日の無料開館日を2日設定した。テーマが自館というあまり例のない展示だったが、市民や専門家からの反響は大きかった。	変更なし	延べ 入場者数	4,300人	4,227人
16	郷土文化課	自然資料貸出事業	剥製をはじめとした標本資料だけでなく、普及・教育用に開発した貸出キット類を作成し、主に学校・園での利用を促している。	貸出キット類の内容が人気のあるチリメンモンスターや化石中心であり、それ以外の分野についても検討が必要である。市内学校・園の利用が少ない。	I－④	貸出キット類の種類を増やすとともに、学校・園に対してその活用を促す。教員や保育士と連携した新たなキット開発にも取り組む。	チリメンモンスター関連資料の貸出が9件、化石のレプリカづくりセットなど地学関連資料の貸出が13件、標本などそれ以外の貸出が13件だったが、このうち学校園への貸出は6件であった。引き続き自然資料館が保有する貸出キット類の周知に努め、さらなる利用を促していく。	変更なし	貸出件数	35件	35件

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
17	郷土文化課	調査・研究事業（自然史）	調査・研究活動は、博物館法に規定された博物館の重要な機能である。特に、改変著しい地域の自然環境や生物多様性の保全を図る上で、そこで得られる基礎的データの収集・分析を行うことの社会的要請は大きく、それを推進するとともに、発表会や報告書、展示等により、その成果を速やかに公表している。	個人ではない組織としての研究という位置づけが不明確である。扱う専門分野が多岐にわたっており、すべてを網羅できていない。特に、地域的な対応の必要性が高く、実際に市民からの需要も多い植物、地質分野の体制に課題がある。	I-④	大学や他の博物館、研究所等との連携をさらに進め、在野のアマチュア研究者等の力も借りることで、調査・研究の遂行に必要な専門的知見を有する人材や高度な機器類の不足を補う。	調査や研究に関わる活動は計61回で、ほぼ目標どおりだったが、依頼を受けて実施したものが31回と半数以上を占めた。自主的な調査は、大学等とも連携しながら効率化を図っているが、他の業務に比べ相対的に不十分な状態は続いている。	変更なし	調査実施回数	60回	61 回
18	郷土文化課	自然資料収集・整理保管事業	野外で多数の生物、地質資料を収集し、それらを整理した上で長期にわたり保管し続けることは、地域の自然情報を記録し、後世に継承していくという自然系博物館存立の基盤と呼ぶべき機能である。資料の増加を図りつつ、データベースや目録等により、多くの市民・専門家が利用しやすい形での整備・公開を進めている。	数万に及ぶ膨大な数の標本資料が蓄積されており、整理やデータベース化が全く追いついていない。収蔵スペースに限界が来ており、まとまった寄贈資料の受け入れが困難になっていることから、貴重な地域資料の散逸が心配される。	I-④	専門的知見を有する学生やアマチュア研究者等を積極的にアルバイトやボランティアとして活用することで、標本資料の整理やデータベース化を促進させる。収蔵方法を工夫することで、収蔵スペースの効率化を図る。	ボランティア等の協力を得ながら標本資料の整理とデータベース入力を進め、Web公開用標本データベース900件を整備した。データベースの入力数は毎年ほぼこの水準だが、とくに昆虫を中心に数万件に及ぶ未入力の本資料があり、ベースアップを図るための方策が必要である。	変更なし	データベース化件数	1年あたり1,000件	900 件
19	郷土文化課	きしわだ自然友の会支援事業	きしわだ自然友の会は自然資料館の熱心な利用者が集まり、平成14年に設立された。行事や展示など、事業を多方面からサポートする一方、自然観察会や外部の科学イベントに出展するなど独自の生涯学習活動も行っていることから、積極的にその支援・育成を図っている。	会員数、行事参加者数ともに10年前に比べ約10～20%減少しており、ここ数年も多少の増減はあるものの顕著な回復傾向は認められない。運営や事業の企画・立案を担う役員となる人材が不足しており、活動が全体的にやや停滞気味である。	I-④ II-③	子育てが一段落した比較的若い世代の一般会員から新しい人材を役員に迎え、運営の効率化、安定化を図るとともに、行事内容の質的向上と会員数の増加を目指す。	会員数は昨年度からさらに増加し、行事についても野外で実施するものを中心に比較的多くの参加があった。引き続き、運営に携わる新しい人材の割合を高め、活動の活性化を図るよう支援を行ったが、会誌の印刷費や送料の上昇により、現状の会計状況のままこれまで通りの事業を継続するのが困難になりつつある。	学生や子育てが一段落した世代を含む10代後半～50代の一般会員から新しい人材を役員に迎え、運営の効率化、安定化を図るとともに、行事内容の質的向上と会員数が増加するよう支援する。物価高騰に伴う財政面の課題解決策への取り組みを支援する。	会員数	150組	151 組

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標 番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考 指標	目標値	R7実績
1	図書館	図書資料貸出・回収事業	市民が必要としている資料を提供するため、国立国会図書館や他市の図書館と連携しながら、本の貸出、調査、相談を行っている。令和3年度から全館に自動貸出機を設置。また、令和4年度から、インターネットを通じて、電子書籍の検索・貸出・返却・閲覧ができる岸和田市電子図書館の運用も行っている。	利用者数、貸出数は平均すると横ばいであるが本館・八木図書館・桜台図書館は増加傾向にある。	I-①	市民に役立つ情報を提供するため、「収集」「整理」「保存」「提供」の基本機能を守りつつ、資料の提供に繋げていく。	継続的に事業を実施した。貸出冊数に減少が見られるため、利用促進に向けた工夫が必要である。	事業を継続しながら、受託業者選定を機に運営の見直しを行い、利用促進を図る。	資料貸出冊数	800,000冊	741,628冊
2	図書館	図書館資料収集・整理事業（資料収集）	市民の読書活動、学習活動、調査・研究活動を支援し、地域の文化や産業の発展を支えるための資料を収集、整理、保存、提供しているほか、各図書館において、特色を持たせた資料収集にも力を入れている。また、「まちライブラリー@岸和田としょかん」という市民の寄贈による本棚設置や、企業、商店、団体、個人を問わず、社会貢献活動の一環として、雑誌の購入代金を負担してもらう「雑誌スポンサー制度」の導入により、資料の充実を図っている。	収集・提供方法等に工夫が必要と考え、電子書籍や商用データベースを導入し、多様な資料の収集・提供に努めている。各館とも蔵書スペースの限界がきており、保存方法の工夫が課題である。	I-①	利用者へ興味・関心を持ってもらえるよう館内展示などを行うとともに、電子書籍や商用データベースの周知に努め、所蔵資料の活用を促進していく。	商用データベースに関する講座を開催した。開催日時等の影響により高齢者の参加が多かった。今後は若年層を含めた周知方法の工夫が必要である。	変更なし	電子書籍貸出冊数	3,200冊	4,204冊
3	図書館	図書館資料収集・整理事業（郷土資料整備）	地域の貴重な郷土資料を残すため、教員経験者や行政経験者、公民館等で活動している方々の協力を得て、地域資料の発行、デジタルアーカイブ化に向けての目録整理などを行っている。	子ども向け郷土資料「岸和田発見」を小学校への「学校配送セット本サービス」に組み込み、児童に活用してもらえるようにしている。また、郷土資料のデジタルアーカイブ化に向け、目録整理を行っている。	Ⅳ-② Ⅴ-①	目録を基に図書館システムに登録する。特に泉州に関係のある資料については、図書館ホームページにある「地域デジタルコレクション」で公開していく。	図書館システムへの登録が完了していない。また、郷土資料関係の書棚整理についても課題が残されている。	図書館システムへの登録と郷土資料書棚の整理を進め、利用者の利便性向上を図る。	「地域デジタルコレクション」閲覧回数（年間）	900回	601回
4	図書館	図書情報提供事業	図書館のイベント案内、おすすめの本、点字・録音図書の新着案内などを掲載した「図書館だより」の発行のほか、市のホームページでは各種図書館情報を随時掲載し提供している。	「図書館だより」を年12回発行し、5分館を含む市内の各公共施設での配架や、市のホームページに掲載し情報を提供している。また、市のホームページでは、本の検索だけではなく、本に関心を持ってもらうためのイベントや、企画展示などの情報、地域と本がつながる場の紹介など、赤ちゃんから高齢者まで幅広い対象者に向けて情報を提供している。	Ⅳ-②	今後はSNSでの発信についても検討し、情報がより多くの人に届くよう、時代のニーズに合った周知方法を検討する。	Instagramを開設し、即時性の高い情報発信に努めた。また、ホームページにおいては、本の検索にとどまらず、本に関心をもってもらうためのイベントや企画展示に関する情報提供を行った。	変更なし	「図書館ホームページ」閲覧回数（月平均）	21,000回	17,720回
5	図書館	レファレンス（相談）業務事業	日々の暮らしで生じた疑問や調査・研究などの調べものに必要な資料を探す相談業務を行っている。図書の所蔵の有無のほか、関連資料の紹介や、他機関所蔵資料の探し方、関連機関の紹介などを行っている。	レファレンス（相談）サービスについてあまり知られていないため、サービスの入口として、パスファインダー（資料・情報検索の手引き）の作成を目標としている。	I-①	レファレンス記録を活用、共有し、サービス向上を目指す。引き続きパスファインダーの作成を目指す。	パスファインダーを2件作成した。レファレンスサービスについては、さらなる周知が必要である。	変更なし	年間のレファレンス数	1,000件	652件
6	図書館	図書館行事開催事業（図書館友の会）	昭和54年に発足以降、会員が自主的に運営し、各種教室開催のほか、講演会や読書会、文学歴史散歩（バスツアー）など、会員相互の交流と親睦を図りながら読書や趣味の活動を広げている。図書館は場所の提供や講演会の共催など、協力して地域文化活動を推進している。	他の分野で活動している人が図書館友の会に入会し、運営委員会に参加することで、新教室の開講等、新たな動きが出てきている。また、図書館友の会での活動のみならず、図書館まつりへの参加や個人でブックフェスタ企画に応募して参加するなど、自発的な活動ができていく。	Ⅰ-② Ⅱ-②	既存の教室だけではなく、会員それぞれの知識やネットワークを活かし、多様な分野の講座や講演会を企画することで、会の活性化を図るとともに、個人の学びが次の展開につながるような仕組みづくりを目指す。また、新たなメンバーを募集し活動の幅を広げられるよう支援していく。	会員の高齢化は課題であるが、自主運営により会員相互の交流と親睦を図るとともに、既存の教室に加え、会員の知識やネットワークを活かした多様な講座・講演会を企画し、会の活性化を図った。	図書館友の会の例会に図書館職員も参加し、意見交換を行いながら、読書活動の発展を支援できるよう務める。	延べ参加者数	1,000人	1,208人
7	図書館	図書館まつり開催事業	平成10年、図書館創立70周年記念として、第1回目を開催したのが始まりで、以後、毎年、図書館活動に関わる団体で構成される実行委員会形式で開催している。実行委員会と図書館が協力しながら、本のサイクル市、お話し、喫茶、講演会等を開催している。	令和6年度は、ボランティアスタッフを募集することでスタッフも徐々に増え、内容も充実している。	Ⅰ-②	引き続き、各団体の協力を得ながら、実行委員会形式で図書館まつりが継続できるよう、ボランティアを募集し、内容を充実させていく。	実行委員会のメンバーも安定し、イベント企画も充実している。古本の在庫数が年々減少傾向にあり、古本リサイクル市の安定した継続が課題となっている。	令和8年度で、第28回目を迎える。今後、節目となる30周年に向け、特別企画を検討している。予算及び内容については、実行委員会が中心となり検討していく。	図書館まつりの入館者数	1,000人	602人
8	図書館	自動車文庫事業	自動車文庫「なかよし号」は、各分野のよく利用される本、人気のある本、紙芝居など約3,000冊を横断し、小学校10校を月1回巡回している。また、図書館が所蔵する資料を、小学校、幼稚園、保育所、チビッコホームに貸出・配送するサービスを行っている。	自動車文庫「なかよし号」は、小学校10校を月1回巡回している。また、「学校配送セット本サービス」として、図書館が所蔵する資料を、小学校12校に2か月に1回貸出・配送するサービスを行っている。チビッコホームへは、月1回の図書の配本を行っており、幼稚園、保育所へは、3～4か月に1回絵本セットの貸出・配送するサービスを行っている。	Ⅰ-① Ⅴ-②	老朽化が進む自動車文庫「なかよし号」の更新も含め、ニーズ等を調査しながら運用を検討する。また、「学校配送セット本サービス」については、今後、全小学校にサービスが行き渡るよう、学校支援サービスを目指す。	自動車文庫「なかよし号」は、小学校10校に巡回した。また、「学校配送セット本サービス」の貸出を小学校12校に行い、幼稚園、保育所、チビッコホームへも配本を行った。ブックフェスタ事業で、岸和田カンパニサイドモールに自動車文庫「なかよし号」を出店させ、図書利用券の発行や本の貸出、お話しを行った。課題としては、なかよし号の老朽化や全小学校に配本が出来ていない。	現在の、自動車文庫「なかよし号」及び小学校への配本等の委託契約期間が、令和8年度末までとなっており、令和9年度から、新規契約に向け、業者選定を行い、自動車文庫「なかよし号」及び小学校への配本等の運用について、幼稚園、保育所、こども園及び全小学校へバランスの取れた学校支援サービスを検討していく。	自動車文庫の貸出冊数	32,000冊	20,838冊
9	図書館	障害者サービス事業	以下のサービスを実施している。 ・来館が困難な方への宅配サービス ・自力で図書を読むことが困難な方への対面朗読サービス ・視覚に障害がある方に録音図書の貸出・リクエスト受付サービス ・視覚に障害がある子どもにも楽しんでもらえる「さわる絵本」の貸出、活字図書の利用が困難な子どもにも理解できるように写真や、やさしい文章で工夫をして作られた「LLブック」の提供 ・本を読むことに苦手意識を持っている子どもに向けてのイベント実施	対面朗読や、音訳図書製作等はボランティア団体の協力により行っているが、新規利用者が少しずつ増える傾向にあるため、ボランティア団体と連携し障害者サービス全体の充実を図っていく。	Ⅰ-① Ⅴ-③	ボランティア団体との意見交換の場を設け、利用者のニーズの把握とサービス向上を図る。今後は、障害者手帳の有無に関わらず、図書館利用が困難な方へのサービスについての取組を検討していく。	対面朗読や、音訳図書製作等はボランティア団体の協力により実施しており、令和7年度より、新たに点字データの提供を受けることとなった。	ボランティア団体との意見交換を行うなどし、今後は利用者ニーズの把握及びサービス向上に務める。 大きな課題は見られないが、利用者の高齢化が進んでおり、新規利用者の増加が十分でないため、サービスの周知に務める。	対面朗読利用回数	45回	48回
									音訳図書作成数	35点	35点

番号	担当課	事業名	事業概要	現在の状況（課題）	目標番号	今後の方向性（後期の目標）	令和7年度の実施状況と課題	今後の方向性（R7年度末）	参考指標	目標値	R7実績
10	図書館	図書館活動企画事業	本に関心を持ってもらえるよう、さまざまな分野をテーマにしたイベントを実施している。 ・和歌山大学岸和田サテライトや関係部署との連携による図書館でのパネル展示や共催企画の実施 ・5分館でのボランティアによる定期的なお話会の開催 ・図書館の郷土資料を活用した郷土資料展示 ・講座の開催	本館では、他部署と連携し、他部署が実施する事業に関連した本の展示を行うことで、事業の周知や啓発を図るとともに、本を読む機会を提供している。また、図書館では子どもを対象に、お話を定期的に行っているが、5分館ではお話会のほか、子ども向けの工作や科学実験などのイベントも充実させている。郷土資料の展示については、市職員OBの協力により、「泉州ゆかりコレクション」として企画展示・講座の開催を実施している。	Ⅰ－① Ⅱ－① Ⅴ－① Ⅴ－③	図書館のPRや様々な情報の収集・発信を行うとともに、子どもから大人まで、すべての人を対象とした読書活動の推進につながる事業を展開していく。	Instagramを開設し、情報発信することで、各イベントの参加者数も増え一定の効果が出ている。課題としては、他部署との情報共有を深め、バランスの取れた事業を検討していく必要がある。	変更なし	他部署との共催展示回数	12回	10回
									定例おはなし会開催数	全館133回	129回
									郷土資料展示	3回	3回
									一般講座開催数	4回	2回
11	図書館	ブックフェスタ開催事業	まちライブラリーブックフェスタin関西は、私設図書館である「まちライブラリー」と公共図書館、書店、ショップなどが垣根を越えて協力し、「本のある場所」をつなぐ本のお祭りで、岸和田市は、平成30年から参加し、岸和田独自の「岸和田ブックフェスタ」として、年2回（春・秋）開催している。	実行委員会形式で実施しており、テーマに沿った様々なイベントを各団体が企画開催している。令和6年度は、春・秋とも8企画を実施し、そのうち秋の1企画は、岸和田カンパベイサイドモールに自動車文庫「なかよし号」が出向き、図書利用券の発行や本の貸出、お話をを行った。	Ⅰ－② Ⅱ－① Ⅱ－② Ⅱ－③	図書館内外において、市民がテーマに興味を持ち気軽に参加しやすいブックフェスタを開催していく。また、同時期に開催している他のイベント等と連携した企画にも注目し、相乗効果を生み出せるよう、ブックフェスタを企画していく。	個人や団体が企画する、本にまつわるイベントが集まるようになってきている。イベント企画者同士が、少しづつ繋がりはじめ、屋外での交流イベントも増加傾向にある。 岸和田ブックフェスタ2025 春 ・「多言語おはなし会」15人 ・「出張！自動車文庫 at 岸和田カンパベイサイドモール」1195人 ・「新刊書研究会 in 岸和田 2024 年に出版された子どもの本」62人 ・「豆本を作ってみよう」13人 他11企画 岸和田ブックフェスタ2025 秋 ・「I LOVE BOOKS」38人 ・「ヒガシキジワマーケットで一箱古本市」88人 ・「図書館でボードゲーム！」25人 ・「本も使ってネイチャーゲーム」6人 他5企画	変更なし	企画数	20回	24回
									延べ参加者数	300人	639人
12	図書館	子ども読書活動推進会議事業	岸和田市子ども読書活動推進計画を、総合的かつ効果的に推進するため、図書館が事務局となり、各関係課で構成される岸和田市子ども読書活動推進会議を開催し、計画に基づく具体的方策の実施に係る総合的な調整を行う。	岸和田市子ども読書活動推進会議において、毎年、各関係課で「子ども読書活動推進事業進捗シート」を作成し、シートの情報を共有することにより、今後の子ども読書活動推進に繋げる。また、令和7年3月の第4次岸和田市子ども読書活動推進計画策定に向け、岸和田市子ども読書活動推進計画策定委員会を開催し、パブリックコメントを経て、計画の策定を進める。	Ⅴ－① Ⅴ－② Ⅴ－③	第4次岸和田市子ども読書活動推進計画を推進するため、「子ども読書活動推進事業進捗シート」を基に様々な課題について、関係課と協議を重ねていく。	関係各課との連携を図り岸和田市子ども読書活動推進会議」を2回、「共同実務担当者会」を2回開催した。	第4次岸和田市子ども読書活動推進計画を推進するため、子ども読書活動推進に繋がる取組を、関係課と情報共有しながら検討していく。	推進会議開催数	2回	2回
									実務担当者会開催数	2回	2回
13	図書館	お話配達事業	平成2年に岸和田市子ども文庫連絡会が、小学校（1校）にお話を語ったり、本を紹介したりする「お話配達」を開始したのをきっかけに、現在は、図書館と協力しながら全小学校を対象に実施している。	令和6年10月現在、14小学校で「お話配達」を実施しており、令和6年度末までに全小学校での実施を目指している。また、この事業はボランティア団体の協力を得て実施しているが、ボランティアの高齢化や人員の確保が課題となっている。	Ⅰ－① Ⅴ－②	ボランティアの確保やボランティアのスキルアップを図りながら、今後も全小学校での実施を継続していく。	全小学校において「お話配達」を実施することができた。この事業は、ボランティア団体の協力を得て実施しているが、ボランティアの高齢化やボランティアの人員確保が課題となっている。	変更なし	小学校実施数	24校	24校
14	図書館	ブックスタート事業	平成19年度から開始し、現在4か月児健康診査時に、5種類の絵本の中から好きな絵本1冊と、子育てに関する情報が入った「ブックスタートセット」を配布している。令和元年度からは、ブックスタート時に手渡した絵本が、その後の読書習慣につながることを願い、「読みきかせ読書手帳」の配布も開始した。	近年、4か月児健康診査は約99%を超える高い受診率となっている。健診を受診できない方へのフォローと、読書習慣を身につけることの大切さを伝えていくことが課題である。	Ⅰ－① Ⅴ－③	ブックスタートセットの100%配布を目指す。また、乳幼児向けのお話会等を行っているボランティアグループと連携を図り、お話会のPRを行い、子育て情報や「読みきかせ読書手帳」を配布し、読書推進活動を進めて行く。	令和7年度は、4か月児健康診査時において、「ブックスタートセット」の配布率が100%であった。課題としては、ブックスタートセットのPRする時間がなく、読書習慣を身に付けることの大切さを伝えていくことが課題である。	変更なし	配布率	100%	100%

生涯学習施策に関するアンケート調査報告書 (令和8年度実施)

岸和田市教育委員会 生涯学習部生涯学習課

目次

第1章 調査の概要.....	(P1)
第2章 属性別回答結果(市民向けアンケート).....	(P2～P5)
第3章 各設問の集計結果(市民向けアンケート).....	(P6～P26)
第4章 団体向けアンケート集計結果.....	(P27～P35)

第1章 調査の概要

○調査の目的

現時点や、これからの生涯学習に関する市民の意識や動向及び意見を掴み、また、生涯学習に関係する団体の活動状況や課題などを把握したうえで、今後の生涯学習施策を検討・推進していくため、アンケートを実施した。

○調査期間

令和8年4月1日から令和8年5月15日

○調査対象

市民向けアンケート：16歳以上の岸和田市在住者

団体向けアンケート：市内で活動する、社会教育関係団体(9)、公民館事業関係団体(高齢者大学等)(45)、公民館活動団体(クラブ)(35)、青少年事業関係団体(11)、生涯学習審議会及び生涯学習支援チーム関係団体(8)、地区市民協議会(20)の計128団体

○調査方法

ウェブ回答またはアンケート用紙での回答

- ・市民向けアンケート：ウェブ回答は本市ウェブサイト、公式LINE、公式SNS及び二次元コード掲載チラシの配布により回収、アンケート用紙は市内各地区の公民館、体育施設、観光施設、文化施設等に用紙及び回収箱を配置し回収。
- ・団体向けアンケート：上記調査対象の128団体に対し、ウェブ回答用の二次元コードを掲載したアンケート用紙を配布し、回収。

○回収結果

市民向けアンケート：957件(ウェブ回答614件、用紙回答343件)※

団体向けアンケート：100団体(WEB回答38、用紙回答62)、回収率78.1%(128団体へ依頼)

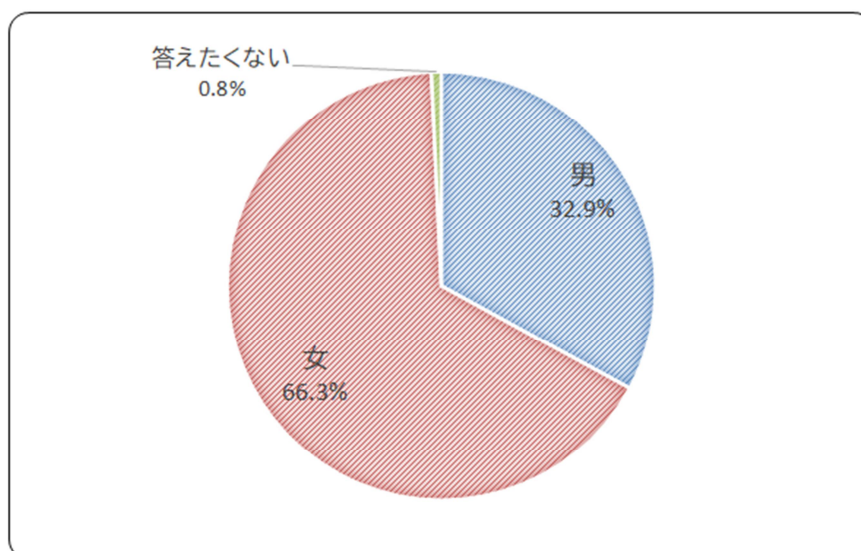
※内閣府ウェブサイト「世論調査結果を読むに当たって」によると、国の世論調査では95%信頼できるデータとなるようにサンプルを取得している。同様に、本市の市民意識調査においても、信頼度95%を基準としていることから、本市の人口184,931人(令和8年6月1日現在)より、統計調査上95%信頼できるデータとするために必要なサンプル数を算出すると、383件となるなか、今回は957件のサンプルを回収することができた。

*本資料の第2章から第4章に掲載している各表には、「割合」を表示しておりますが、端数処理により「割合」の合計が100%にならないことがあります。

第2章 属性別回答結果

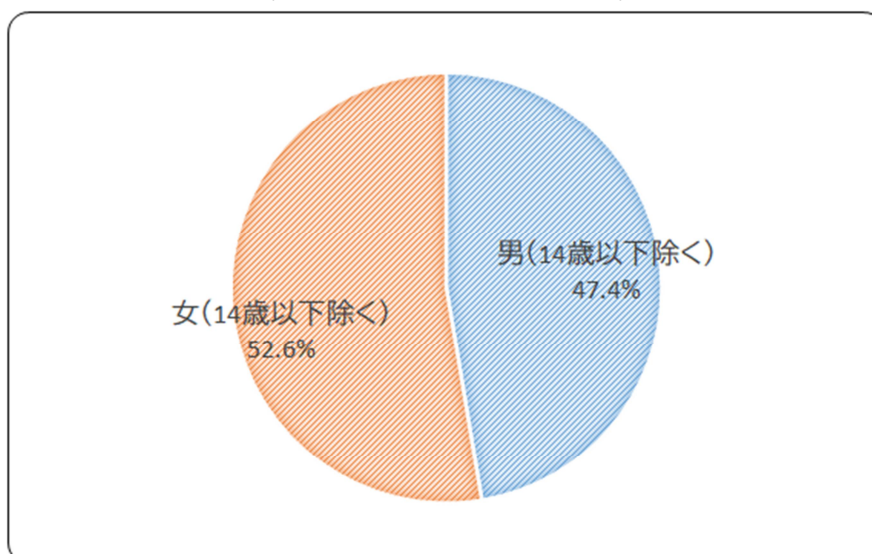
F1 性別(回答数 933)

選択肢	回答数	割合
男	307	32.9%
女	619	66.3%
答えたくない	7	0.8%



【参考】令和8年6月1日時点の岸和田市全体(15歳以上)の男女別人口

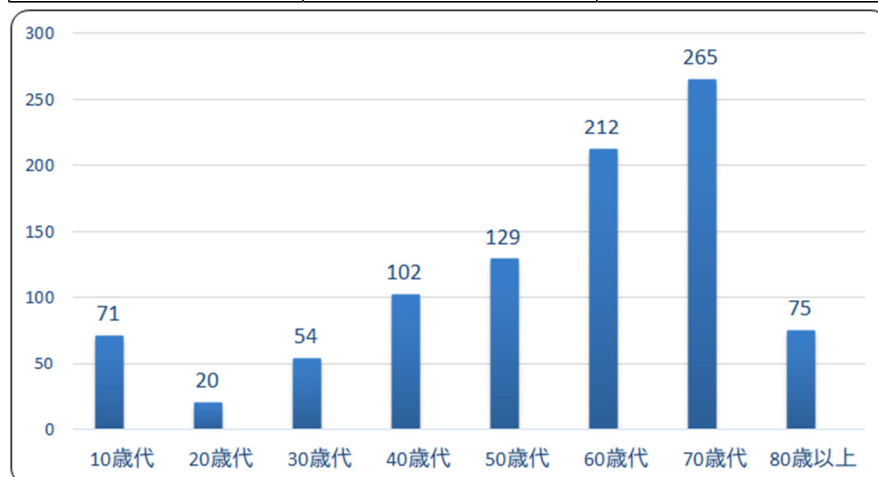
選択肢	人口	割合
男(14歳以下除く)	77,550	47.4%
女(14歳以下除く)	86,151	52.6%
総計	163,701	100.0%



・市全体の男女比よりも、本アンケート回答者は女性の比率が多くなっている。

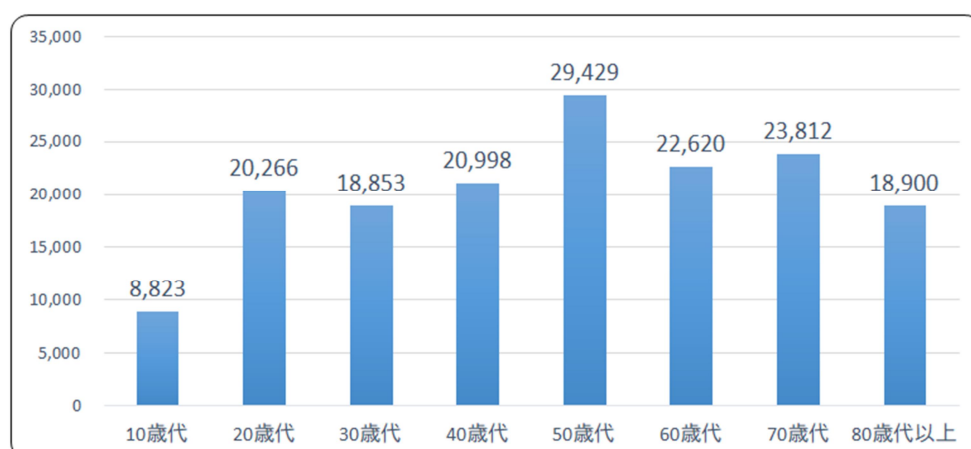
F2 年齢(回答数 928)

選択肢	回答数	割合
10歳代	71	7.7%
20歳代	20	2.2%
30歳代	54	5.8%
40歳代	102	11.0%
50歳代	129	13.9%
60歳代	212	22.8%
70歳代	265	28.6%
80歳以上	75	8.1%



【参考】令和8年6月1日時点の岸和田市全体(15歳以上)の年代別人口

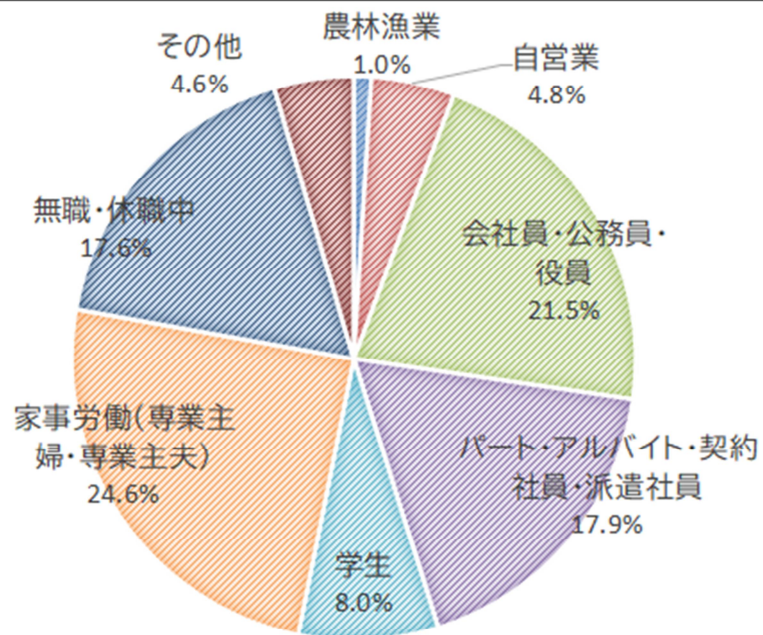
選択肢	人口	割合
10歳代(15～19のみ)	8,823	5.4%
20歳代	20,266	12.4%
30歳代	18,853	11.5%
40歳代	20,998	12.8%
50歳代	29,429	18.0%
60歳代	22,620	13.8%
70歳代	23,812	14.5%
80歳代以上	18,900	11.5%
総計	163,701	100.0%



・市全体の比率と異なり、本アンケート回答者の年齢層は60歳代と70歳代で約半数を占めている。

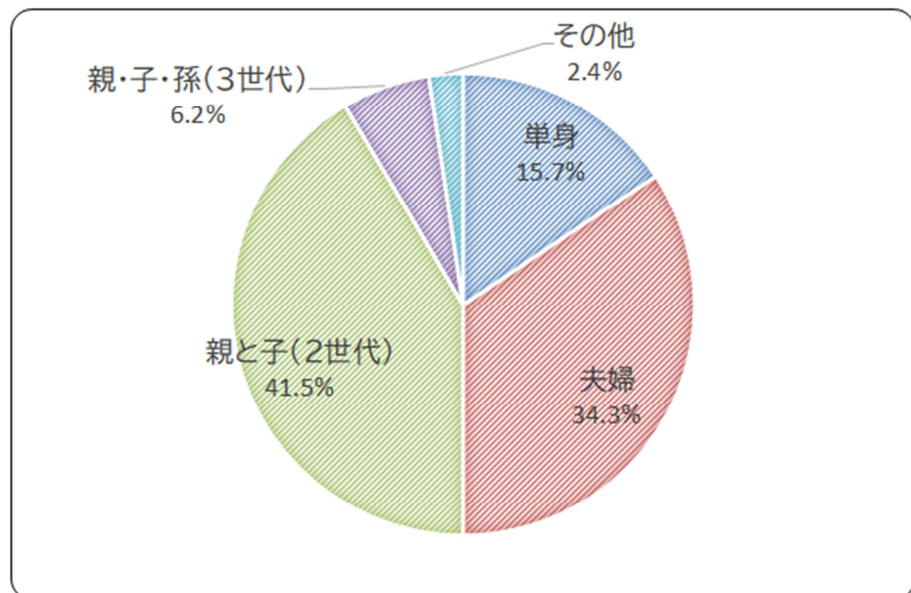
F3 職業など(回答数 901)

選択肢	回答数	割合
農林漁業	9	1.0%
自営業	43	4.8%
会社員・公務員・役員	194	21.5%
パート・アルバイト・契約社員・派遣社員	161	17.9%
学生	72	8.0%
家事労働(専業主婦・専業主夫)	222	24.6%
無職・休職中	159	17.6%
その他	41	4.6%

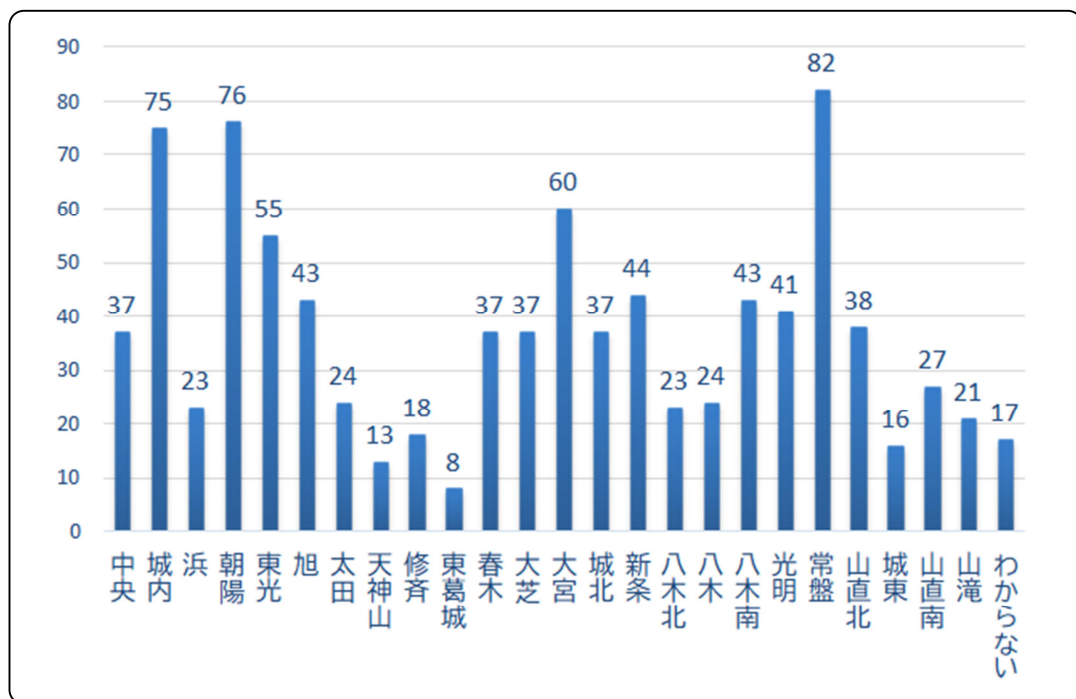


F4 現在の家族構成(回答数 926)

選択肢	回答数	割合
単身	145	15.7%
夫婦	318	34.3%
親と子(2世代)	384	41.5%
親・子・孫(3世代)	57	6.2%
その他	22	2.4%



F5 お住まいの小学校区(回答数 919)



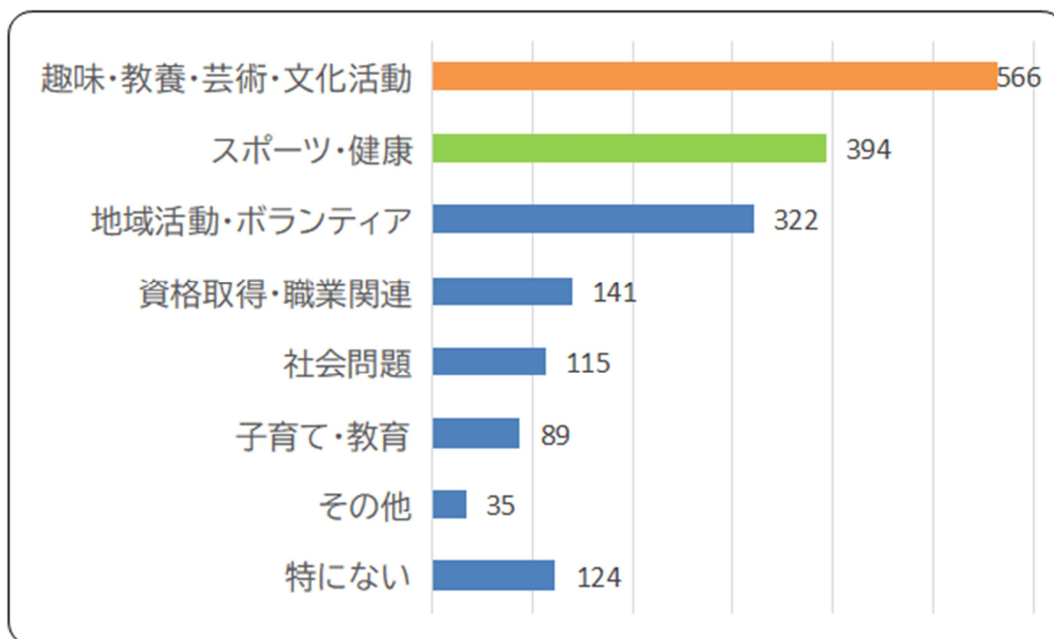
第3章 各設問の集計結果(市民向けアンケート)

※各表及びグラフの最も回答割合の多い選択肢をオレンジ色、次に多い選択肢を緑色で示しています。(最も回答割合の多い選択肢が複数ある場合は、緑色の表示はありません。)

問1 あなたはこの1年くらいの間に何かを学んだり、活動したりしたことがありますか。(回答数 1,786)

【複数回答可】[回答者一人あたりの平均回答数 1.87]

選択肢	回答数	割合
趣味・教養・芸術・文化活動	566	31.7%
スポーツ・健康	394	22.1%
地域活動・ボランティア	322	18.0%
資格取得・職業関連	141	7.9%
社会問題	115	6.4%
子育て・教育	89	5.0%
その他	35	2.0%
特にない	124	6.9%



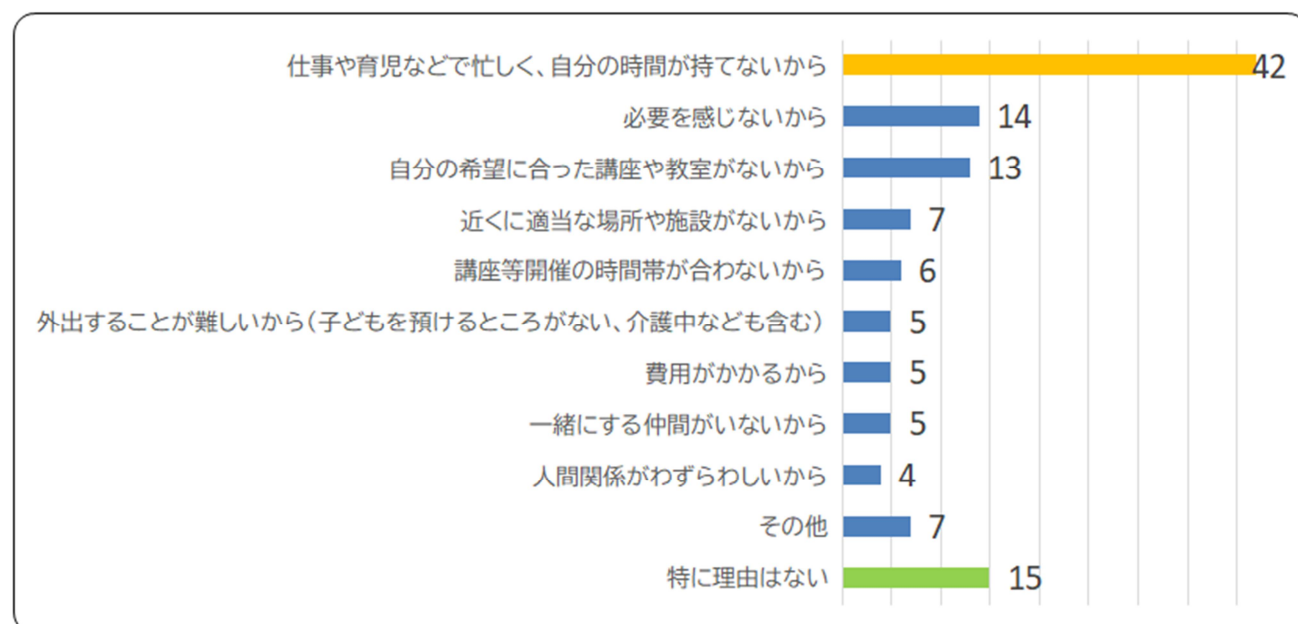
問1' 問1の年代別回答割合

選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
趣味・教養・芸術・文化活動	34.6%	28.1%	20.2%	22.7%	26.6%	33.5%	36.2%	37.4%
スポーツ・健康	21.3%	31.3%	13.8%	11.9%	17.7%	24.2%	25.5%	27.2%
資格取得・職業関連	22.0%	12.5%	17.0%	13.5%	10.1%	7.4%	2.1%	0.7%
社会問題	6.3%	3.1%	3.2%	4.3%	8.0%	6.1%	6.6%	8.2%
地域活動・ボランティア	7.1%	9.4%	12.8%	18.9%	20.7%	18.4%	19.5%	21.1%
子育て・教育	1.6%	3.1%	14.9%	13.5%	5.9%	1.9%	4.1%	1.4%
その他	0.8%	3.1%	1.1%	2.2%	0.8%	1.6%	2.8%	3.4%
特にない	6.3%	9.4%	17.0%	13.0%	10.1%	6.9%	3.2%	0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・「趣味・教養・芸術・文化活動」は、ほぼ全ての年代で上位を占めているのに対し、40・50歳代では、「地域活動・ボランティア」、60歳代以上では「スポーツ・健康」が上位となっている。

問1'' 問1で「特にない」を選択した方の理由(回答数 123)

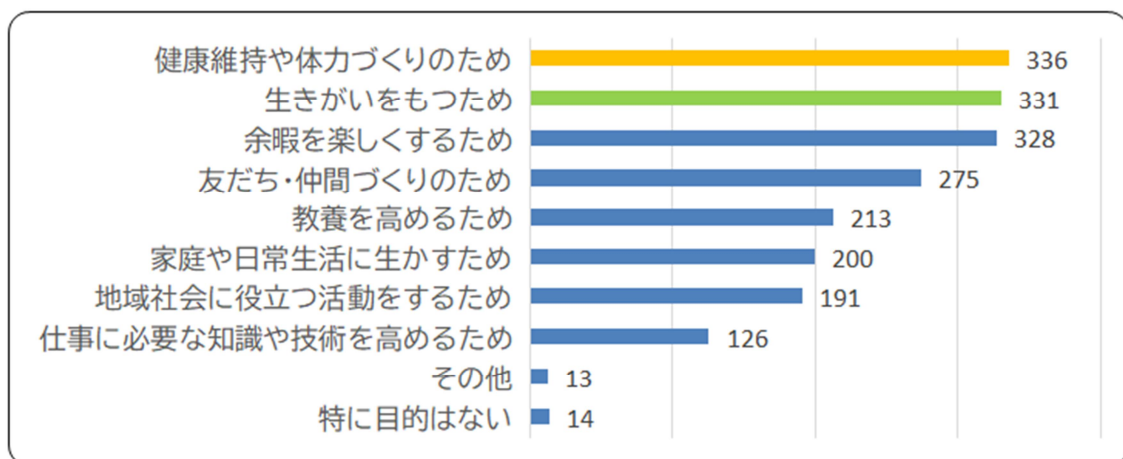
選択肢	回答数	割合
仕事や育児などで忙しく、自分の時間が持てないから	42	34.1%
必要を感じないから	14	11.4%
自分の希望に合った講座や教室がないから	13	10.6%
近くに適切な場所や施設がないから	7	5.7%
講座等開催の時間帯が合わないから	6	4.9%
外出することが難しいから(子どもを預けるところがない、介護中なども含む)	5	4.1%
費用がかかるから	5	4.1%
一緒にする仲間がいないから	5	4.1%
人間関係がわずらわしいから	4	3.3%
その他	7	5.7%
特に理由はない	15	12.2%



問2 あなたが「学習・活動」をしている目的は何ですか。(回答数 2,027)【複数回答可】

〔回答者一人あたりの平均回答数 2.12〕

選択肢	回答数	割合
健康維持や体力づくりのため	336	16.6%
生きがいをもつため	331	16.3%
余暇を楽しむため	328	16.2%
友だち・仲間づくりのため	275	13.6%
教養を高めるため	213	10.5%
家庭や日常生活に生かすため	200	9.9%
地域社会に役立つ活動をするため	191	9.4%
仕事に必要な知識や技術を高めるため	126	6.2%
その他	13	0.6%
特に目的はない	14	0.7%



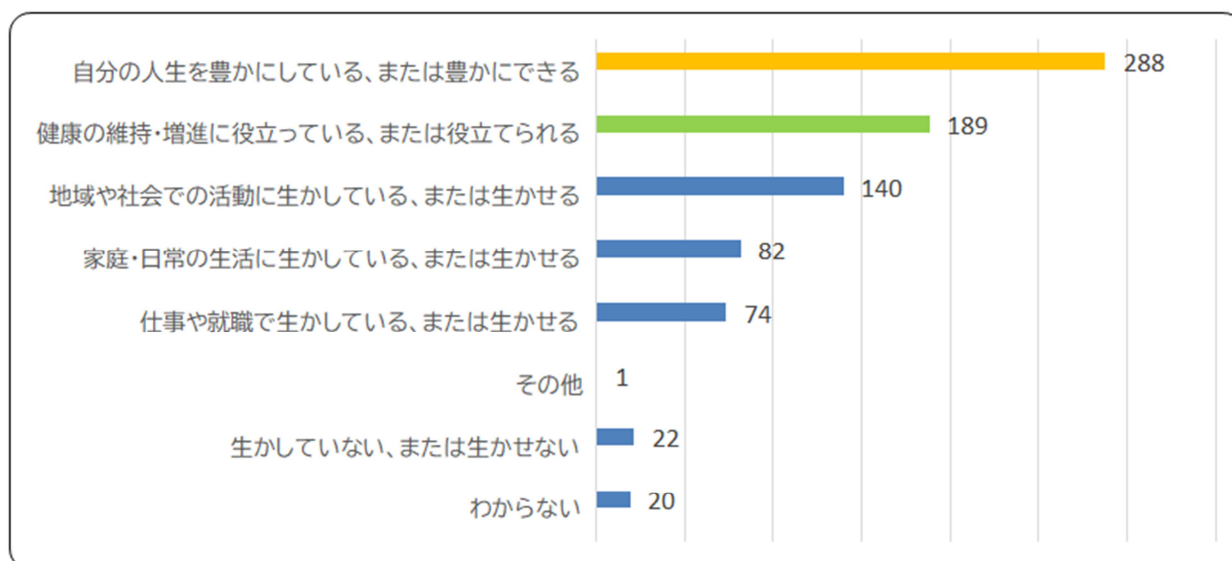
問2' 問2の年代別回答割合

選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
家庭や日常生活に生かすため	12.2%	15.4%	16.9%	18.5%	14.0%	7.6%	7.4%	4.9%
教養を高めるため	16.2%	25.6%	13.5%	14.1%	11.6%	9.6%	8.1%	7.0%
生きがいをもつため	13.5%	12.8%	12.4%	11.4%	13.6%	17.0%	17.7%	21.6%
余暇を楽しむため	12.2%	17.9%	12.4%	11.4%	13.2%	17.7%	18.4%	18.9%
健康維持や体力づくりのため	4.1%	12.8%	9.0%	12.0%	13.6%	18.8%	20.6%	18.9%
友だち・仲間づくりのため	17.6%	0.0%	9.0%	7.1%	7.0%	12.4%	17.1%	21.6%
仕事に必要な知識や技術を高めるため	17.6%	7.7%	16.9%	13.0%	9.9%	5.2%	1.3%	0.0%
地域社会に役立つ活動をするため	2.7%	2.6%	6.7%	12.0%	15.7%	10.5%	9.0%	5.4%
その他	0.7%	0.0%	0.0%	0.5%	1.2%	0.9%	0.3%	1.1%
特に目的はない	3.4%	5.1%	3.4%	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・「健康維持や体力づくりのため」や、「生きがいをもつため」は、全体で見ると上位を占めるが、年代別を見るとサンプル数の多い、60歳代以上の傾向と同様であることがわかる。また、50歳代でのみ、「地域社会に役立つ活動をするため」が上位を占めている。

問3 あなたはこの1年くらいの間に、学習や活動した成果を生かしたと思いますか。(回答数 816)

選択肢	回答数	割合
自分の人生を豊かにしている、または豊かにできる	288	35.3%
健康の維持・増進に役立っている、または役立てられる	189	23.2%
地域や社会での活動に生かしている、または生かせる	140	17.2%
家庭・日常の生活に生かしている、または生かせる	82	10.0%
仕事や就職で生かしている、または生かせる	74	9.1%
その他	1	0.1%
生かしていない、または生かせない	22	2.7%
わからない	20	2.5%



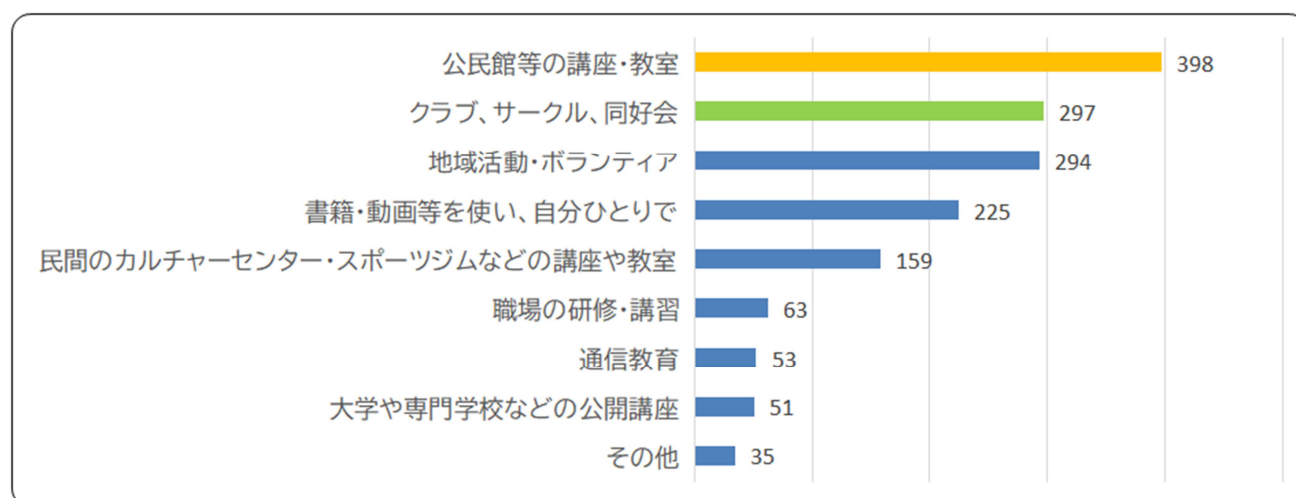
問3' 問3の年代別回答割合

選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
自分の人生を豊かにしている、または豊かにできる	36.1%	47.1%	31.6%	27.6%	30.4%	36.8%	35.7%	42.5%
健康の維持・増進に役立っている、または役立てられる	6.6%	0.0%	2.6%	7.9%	17.6%	26.5%	32.8%	35.6%
地域や社会での活動に生かしている、または生かせる	4.9%	5.9%	10.5%	19.7%	20.6%	18.9%	20.5%	11.0%
家庭・日常の生活に生かしている、または生かせる	6.6%	11.8%	21.1%	19.7%	11.8%	7.0%	9.0%	8.2%
仕事や就職で生かしている、または生かせる	###	11.8%	21.1%	18.4%	14.7%	7.0%	0.4%	1.4%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%
生かしていない、または生かせない	8.2%	17.6%	5.3%	3.9%	2.9%	2.2%	0.4%	0.0%
わからない	9.8%	5.9%	7.9%	2.6%	2.0%	1.6%	0.8%	1.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・全ての年代において、「自分の人生を豊かにしている、または豊かにできる」が最も多い回答となった。また、次に多い回答は60歳代以上は全て「健康の維持・増進に役立っている、または役立てられる」となっている。

問4 あなたは、どのような方法で「学習・活動」をしていますか。(回答数 1,575)【複数回答可】
 [回答者一人あたりの平均回答数 1.65]

選択肢	回答数	割合
公民館等の講座・教室	398	25.3%
クラブ、サークル、同好会	297	18.9%
地域活動・ボランティア	294	18.7%
書籍・動画等を使い、自分ひとりで	225	14.3%
民間のカルチャーセンター・スポーツジムなどの講座や教室	159	10.1%
職場の研修・講習	63	4.0%
通信教育	53	3.4%
大学や専門学校などの公開講座	51	3.2%
その他	35	2.2%



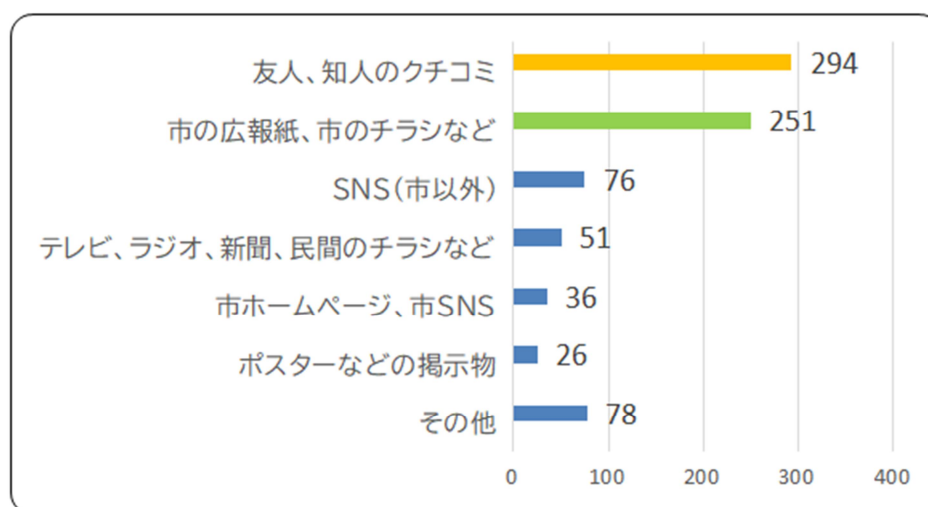
問4' 問4の年代別回答割合

選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
公民館等の講座・教室	7.4%	5.6%	18.5%	16.9%	18.8%	26.4%	31.2%	35.5%
民間のカルチャーセンター・スポーツジムなどの講座や教室	4.2%	5.6%	7.7%	9.5%	10.9%	12.5%	9.8%	9.4%
クラブ、サークル、同好会	32.6%	5.6%	9.2%	6.1%	12.5%	17.2%	24.5%	21.7%
地域活動・ボランティア	7.4%	11.1%	18.5%	20.3%	20.3%	18.0%	19.8%	21.7%
大学や専門学校などの公開講座	7.4%	0.0%	1.5%	3.4%	2.6%	2.5%	2.9%	3.6%
職場の研修・講習	4.2%	5.6%	9.2%	9.5%	9.9%	4.4%	0.4%	0.0%
通信教育	1.1%	0.0%	9.2%	7.4%	4.7%	3.5%	1.6%	2.2%
書籍・動画等を使い、自分ひとりで	32.6%	61.1%	20.0%	25.0%	16.7%	13.4%	8.6%	4.3%
その他	3.2%	5.6%	6.2%	2.0%	3.6%	2.2%	1.2%	1.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・40歳代までは、「書籍・動画等を使い、自分ひとりで」が、60歳代以降では、「公民館等の講座・教室」が最も多い回答となっている。また、10歳代では「クラブ、サークル、同好会」、20歳代から60歳代、及び80歳代では「地域活動・ボランティア」が上位となっており、複数人で行う活動の割合が多くを占めている。

問5 あなたが「学習・活動」を行うきっかけとなった情報は、どこから得ましたか。(回答数 812)

選択肢	回答数	割合
友人、知人のクチコミ	294	36.2%
市の広報紙、市のチラシなど	251	30.9%
SNS(市以外)	76	9.4%
テレビ、ラジオ、新聞、民間のチラシなど	51	6.3%
市ホームページ、市SNS	36	4.4%
ポスターなどの掲示物	26	3.2%
その他	78	9.6%



問5' 問5の年代別回答割合

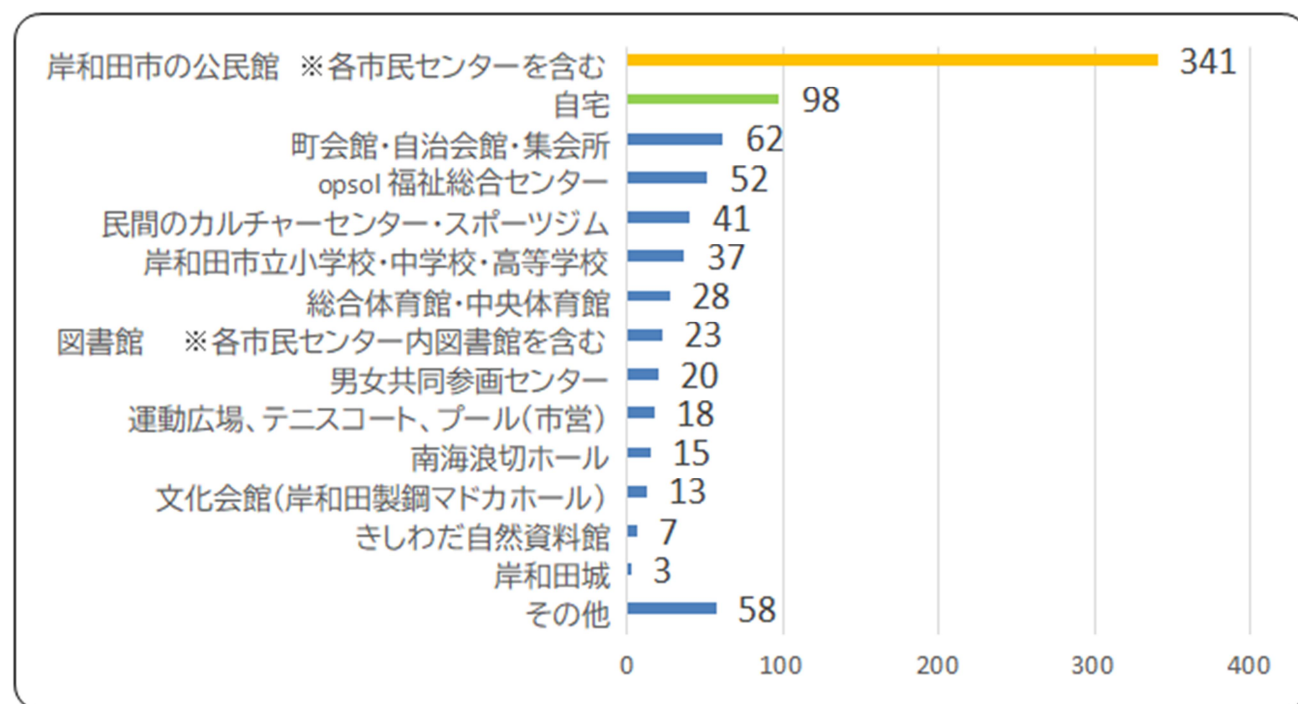
選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
市の広報紙、市のチラシなど	3.2%	5.9%	16.2%	29.9%	23.5%	35.0%	41.7%	34.7%
市ホームページ、市SNS	0.0%	11.8%	2.7%	2.6%	7.8%	6.0%	4.1%	1.4%
SNS(市以外)	24.2%	41.2%	18.9%	22.1%	13.7%	7.7%	0.4%	0.0%
ポスターなどの掲示物	4.8%	0.0%	5.4%	1.3%	2.9%	3.3%	2.9%	4.2%
友人、知人のクチコミ	43.5%	29.4%	27.0%	29.9%	34.3%	31.7%	37.2%	51.4%
テレビ、ラジオ、新聞、民間のチラシなど	11.3%	0.0%	0.0%	1.3%	8.8%	7.7%	5.4%	6.9%
その他	12.9%	11.8%	29.7%	13.0%	8.8%	8.7%	8.3%	1.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

*30 歳代の選択肢「その他」の主な内容:「学生時代からの習慣」「職場」「インターネット」等

・「友人・知人のクチコミ」は、ほぼ全ての年代で上位を占めているのに対し、40歳代以上では、市の発行する紙媒体の割合が上位を占めるようになっている。一方で、20歳代以下では、「SNS(市以外)」の占める割合が大きい。

問6 あなたが「学習・活動」を行っている(行った)場所はどこですか。(回答数 816)

選択肢	回答数	割合
岸和田市の公民館 ※各市民センターを含む	341	41.8%
自宅	98	12.0%
町会館・自治会館・集会所	62	7.6%
opsol 福祉総合センター	52	6.4%
民間のカルチャーセンター・スポーツジム	41	5.0%
岸和田市立小学校・中学校・高等学校	37	4.5%
総合体育館・中央体育館	28	3.4%
図書館 ※各市民センター内図書館を含む	23	2.8%
男女共同参画センター	20	2.5%
運動広場、テニスコート、プール(市営)	18	2.2%
南海浪切ホール	15	1.8%
文化会館(岸和田製鋼マドカホール)	13	1.6%
きしわだ自然資料館	7	0.9%
岸和田城	3	0.4%
その他	58	7.1%



問6' 問6の年代別回答割合

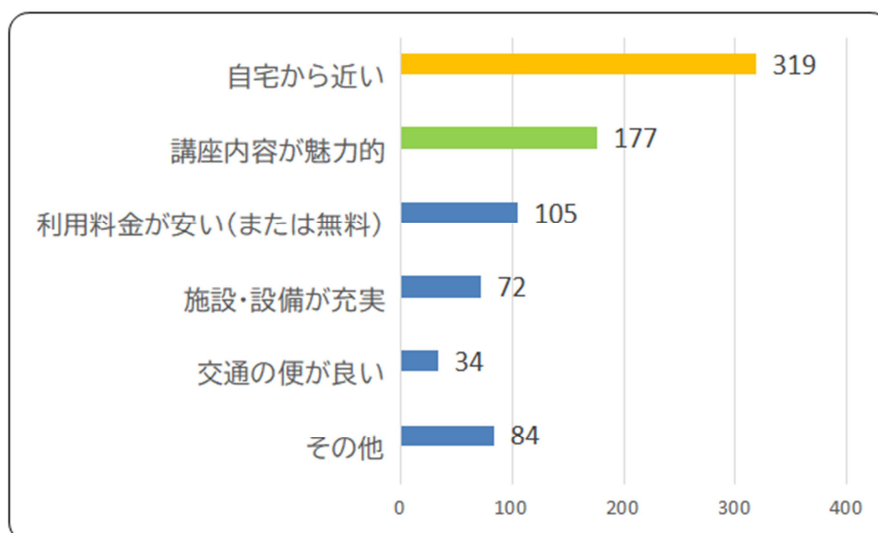
選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
岸和田市の公民館 ※各市民センターを含む	4.8%	17.6%	26.3%	28.6%	36.3%	42.6%	55.8%	56.8%
男女共同参画センター	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	1.0%	2.2%	2.9%	8.1%
opsol 福祉総合センター	1.6%	5.9%	5.3%	3.9%	6.9%	7.7%	8.3%	5.4%
文化会館(岸和田製鋼マドカホール)	1.6%	0.0%	2.6%	1.3%	3.9%	1.6%	1.2%	0.0%
南海浪切ホール	3.2%	0.0%	0.0%	3.9%	2.0%	1.6%	0.8%	0.0%
図書館 ※各市民センター内図書館を含む	4.8%	0.0%	0.0%	5.2%	1.0%	3.3%	3.3%	0.0%
きしわだ自然資料館	3.2%	5.9%	2.6%	1.3%	1.0%	0.0%	0.4%	0.0%
岸和田城	1.6%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%
総合体育館・中央体育館	1.6%	0.0%	0.0%	1.3%	2.0%	6.0%	3.3%	6.8%
運動広場、テニスコート、プール(市営)	1.6%	0.0%	5.3%	1.3%	2.9%	1.1%	2.9%	1.4%
岸和田市立小学校・中学校・高等学校	37.1%	5.9%	0.0%	2.6%	3.9%	2.7%	0.8%	0.0%
町会館・自治会館・集会所	1.6%	0.0%	7.9%	11.7%	6.9%	9.3%	7.9%	8.1%
民間のカルチャーセンター・スポーツジム	0.0%	0.0%	7.9%	7.8%	5.9%	6.6%	3.7%	6.8%
自宅	33.9%	52.9%	26.3%	23.4%	12.7%	9.8%	2.9%	1.4%
その他	3.2%	11.8%	13.2%	5.2%	13.7%	5.5%	5.4%	5.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

*50 歳代の選択肢「その他」の主な内容:「他市の会館」「市外の公民館」「公園」「大学」等

・全体で見ると、「岸和田市の公民館」が4割を超えている。年代別に見ると、30歳代を境に、同様の回答が占める割合が大きくなるが、10歳代では学校、20歳代では自宅の割合が高い。

問7 問6で選んだ施設を利用している理由は何ですか。(回答数 791)

選択肢	回答数	割合
自宅から近い	319	40.3%
講座内容が魅力的	177	22.4%
利用料金が安い(または無料)	105	13.3%
施設・設備が充実	72	9.1%
交通の便が良い	34	4.3%
その他	84	10.6%



問7' 問7の年代別回答割合

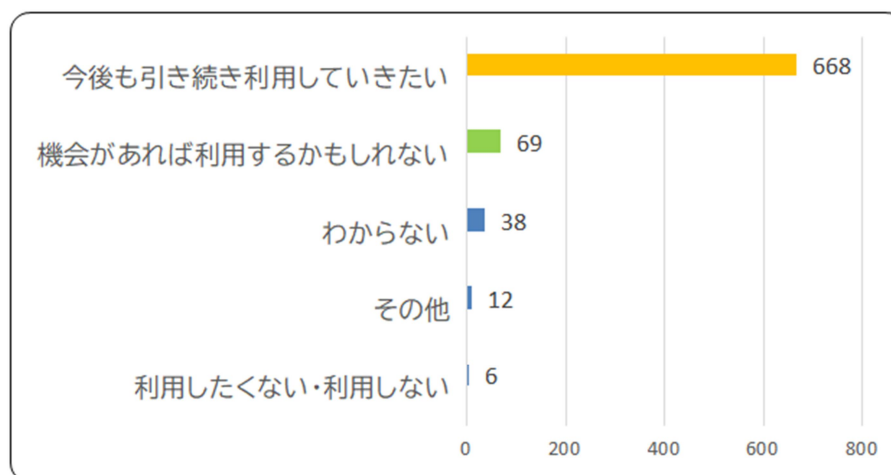
選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
自宅から近い	49.2%	41.2%	40.0%	40.5%	36.7%	39.9%	37.3%	50.7%
交通の便が良い	1.6%	0.0%	8.6%	4.1%	4.1%	3.9%	5.9%	2.8%
施設・設備が充実	16.4%	23.5%	5.7%	10.8%	11.2%	5.1%	6.8%	11.3%
講座内容が魅力的	16.4%	5.9%	17.1%	17.6%	17.3%	25.3%	27.1%	22.5%
利用料金が安い(または無料)	8.2%	11.8%	8.6%	13.5%	14.3%	14.0%	14.8%	11.3%
その他	8.2%	17.6%	20.0%	13.5%	16.3%	11.8%	8.1%	1.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

*30 歳代の選択肢「その他」の主な内容:「会社から」「セミナーがあったから」等

・全年代で「自宅から近い」ことが活動場所を選ぶ主な理由となっている。

問8 あなたは問6で選んだ施設をこれからも引き続き利用したいと思いますか。(回答数 793)

選択肢	回答数	割合
今後も引き続き利用していきたい	668	84.2%
機会があれば利用するかもしれない	69	8.7%
わからない	38	4.8%
その他	12	1.5%
利用したくない・利用しない	6	0.8%



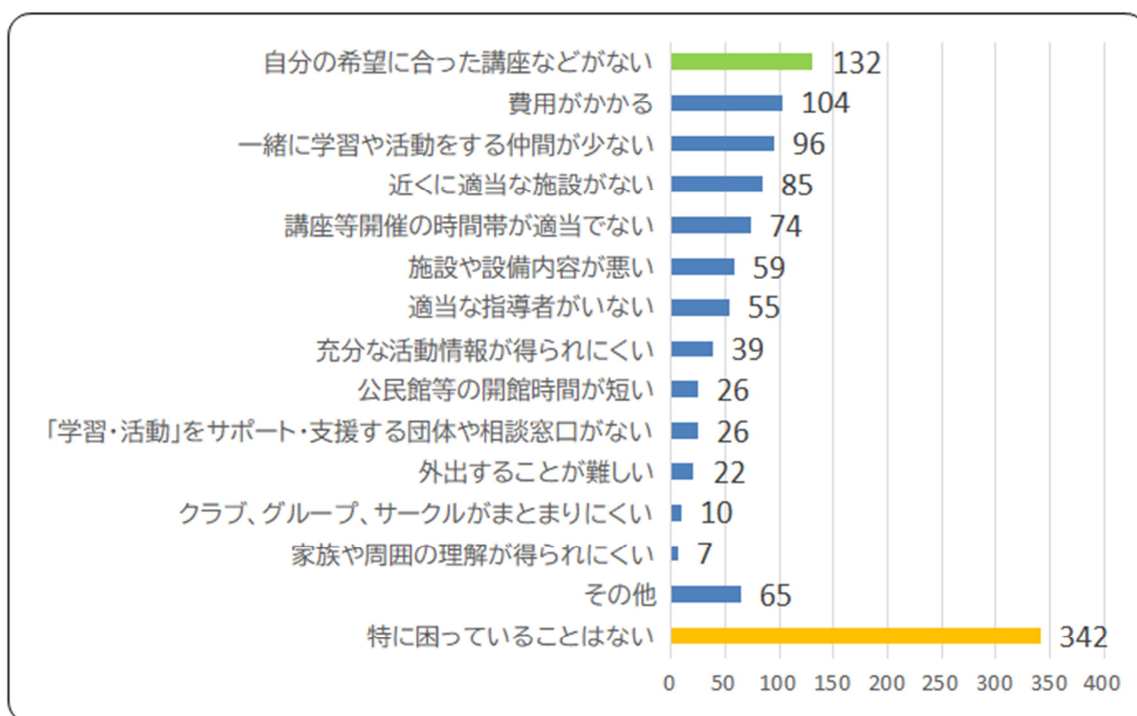
問8' 問8の年代別回答割合

選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
今後も引き続き利用していきたい	75.0%	88.2%	58.3%	72.2%	76.5%	84.9%	94.9%	94.5%
機会があれば利用するかもしれない	8.3%	5.9%	16.7%	15.3%	12.2%	10.6%	3.4%	4.1%
わからない	16.7%	5.9%	13.9%	8.3%	5.1%	3.4%	1.7%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	5.6%	4.2%	3.1%	0.6%	0.0%	1.4%
利用したくない・利用しない	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	3.1%	0.6%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・ほぼ全ての年代で「今後も引き続き利用していきたい」及び「機会があれば利用するかもしれない」が上位を占めているが、30 歳代以下は「わからない」という回答の割合も高くなっている。

問9 あなたは「学習・活動」をするうえで困っていることはありますか。(回答数 1,142)【複数回答可】
 [回答者一人あたりの平均回答数 1.20]

選択肢	回答数	割合
自分の希望に合った講座などがない	132	11.6%
費用がかかる	104	9.1%
一緒に学習や活動をする仲間が少ない	96	8.4%
近くに適切な施設がない	85	7.4%
講座等開催の時間帯が適当でない	74	6.5%
施設や設備内容が悪い	59	5.2%
適当な指導者がいない	55	4.8%
十分な活動情報が得られにくい	39	3.4%
公民館等の開館時間が短い	26	2.3%
「学習・活動」をサポート・支援する団体や相談窓口がない	26	2.3%
外出することが難しい	22	1.9%
クラブ、グループ、サークルがまとまりにくい	10	0.9%
家族や周囲の理解が得られにくい	7	0.6%
その他	65	5.7%
特に困っていることはない	342	29.9%



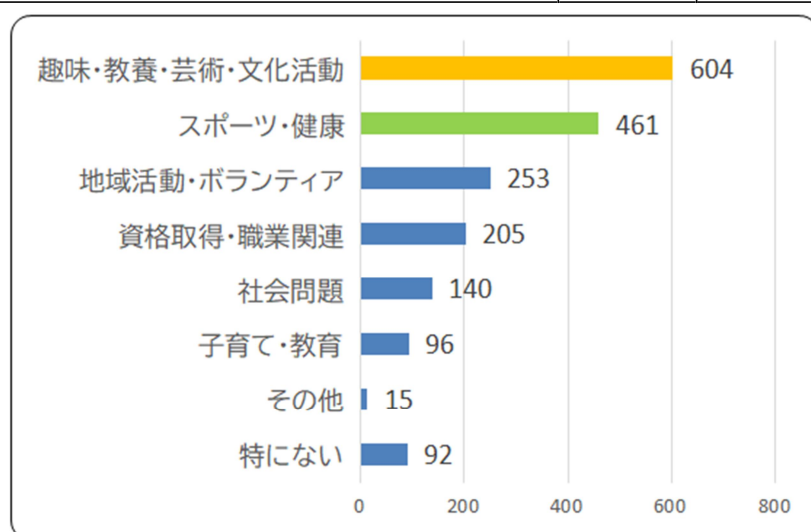
問9' 問9の年代別回答割合

選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
公民館等の開館時間が短い	4.0%	0.0%	0.0%	2.6%	3.1%	3.7%	1.2%	0.0%
講座等開催の時間帯が適当でない	1.3%	0.0%	10.8%	11.1%	9.2%	7.4%	4.9%	0.0%
近くに適当な施設がない	8.0%	25.9%	4.6%	6.8%	6.1%	5.1%	8.3%	9.9%
施設や設備内容が悪い	2.7%	0.0%	7.7%	4.3%	4.9%	7.4%	4.9%	1.4%
費用がかかる	10.7%	14.8%	15.4%	9.4%	12.3%	8.5%	5.9%	9.9%
一緒に学習や活動をする仲間が少ない	9.3%	14.8%	10.8%	6.8%	9.2%	7.4%	6.8%	14.1%
適当な指導者がいない	9.3%	7.4%	3.1%	4.3%	5.5%	4.4%	3.4%	5.6%
家族や周囲の理解が得られにくい	1.3%	0.0%	0.0%	4.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
自分の希望に合った講座などがない	1.3%	7.4%	10.8%	12.8%	9.8%	15.8%	13.0%	4.2%
十分な活動情報が得られにくい	1.3%	0.0%	6.2%	3.4%	3.7%	3.3%	3.7%	2.8%
クラブ、グループ、サークルがまとまりにくい	1.3%	0.0%	1.5%	0.9%	1.2%	1.1%	0.3%	0.0%
外出することが難しい	0.0%	3.7%	6.2%	2.6%	2.5%	2.2%	0.6%	1.4%
「学習・活動」をサポート・支援する団体や相談窓口がない	0.0%	7.4%	1.5%	0.9%	3.1%	1.5%	3.1%	4.2%
その他	1.3%	3.7%	6.2%	4.3%	8.6%	5.5%	6.8%	2.8%
特に困っていることはない	48.0%	14.8%	15.4%	25.6%	20.2%	26.8%	37.0%	43.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・全体では、「特に困っていることはない」という回答が約3割を占めているが、年代別に見ると、20歳代では、「近くに適当な施設がない」という回答が上位にあがっている。

問10 あなたは今後、引き続いて、あるいは新しく活動してみたいことがありますか。(回答数 1,866)
 【複数回答可】[回答者一人あたりの平均回答数 1.95]

選択肢	回答数	割合
趣味・教養・芸術・文化活動	604	32.4%
スポーツ・健康	461	24.7%
地域活動・ボランティア	253	13.6%
資格取得・職業関連	205	11.0%
社会問題	140	7.5%
子育て・教育	96	5.1%
その他	15	0.8%
特にない	92	4.9%



問10' 問10の年代別回答割合

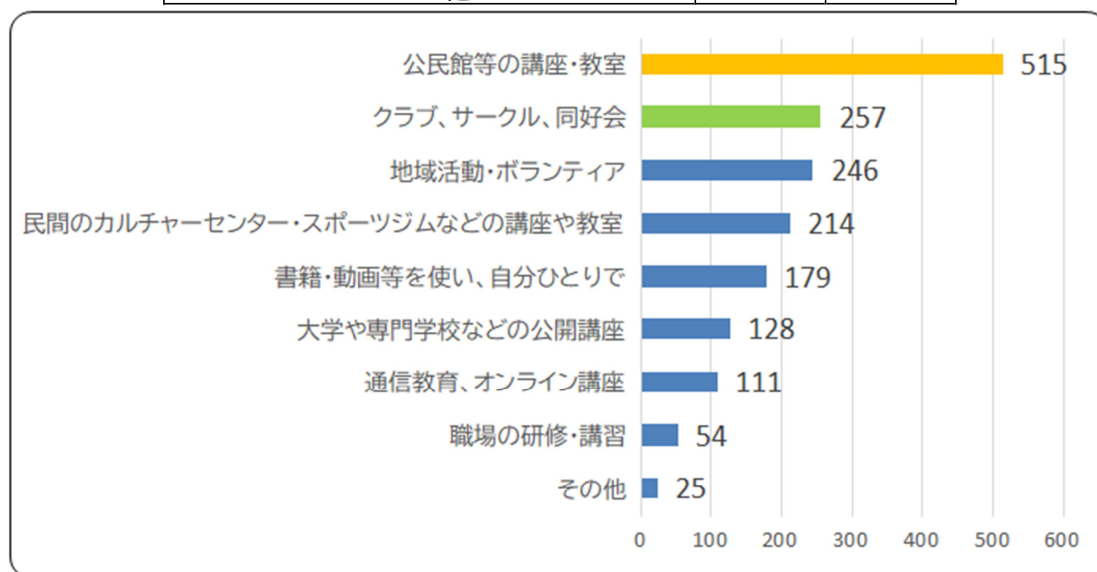
選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
趣味・教養・芸術・文化活動	35.0%	41.0%	27.0%	26.6%	27.7%	34.5%	34.7%	36.4%
スポーツ・健康	18.3%	25.6%	21.7%	20.1%	22.5%	26.7%	27.6%	27.1%
資格取得・職業関連	24.2%	20.5%	21.7%	20.6%	16.3%	8.5%	2.4%	1.7%
社会問題	6.7%	5.1%	2.6%	6.1%	9.3%	7.5%	8.5%	5.9%
地域活動・ボランティア	5.0%	5.1%	6.1%	12.1%	13.1%	13.8%	17.4%	17.8%
子育て・教育	1.7%	2.6%	14.8%	11.2%	6.9%	3.6%	3.0%	0.8%
その他	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.3%	1.2%	0.8%	3.4%
特にない	9.2%	0.0%	5.2%	3.3%	3.8%	4.1%	5.7%	6.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・全体で見ると、問1(この1年くらいの間に何かを学んだり、活動したことがあるか)と同様の傾向が見られる。一方、年代別に見ると、問1では「地域活動・ボランティア」が40歳代及び50歳代で上位を占めていたものの、本問では上位の回答ではなくなっている。

問11 その場合、今後、どういった方法で「学習・活動」をしたいと思いますか。(回答数 1,729)

【複数回答可】[回答者一人あたりの平均回答数 1.81]

選択肢	回答数	割合
公民館等の講座・教室	515	29.8%
クラブ、サークル、同好会	257	14.9%
地域活動・ボランティア	246	14.2%
民間のカルチャーセンター・スポーツジムなどの講座や教室	214	12.4%
書籍・動画等を使い、自分ひとりで	179	10.4%
大学や専門学校などの公開講座	128	7.4%
通信教育、オンライン講座	111	6.4%
職場の研修・講習	54	3.1%
その他	25	1.4%



問11' 問11の年代別回答割合

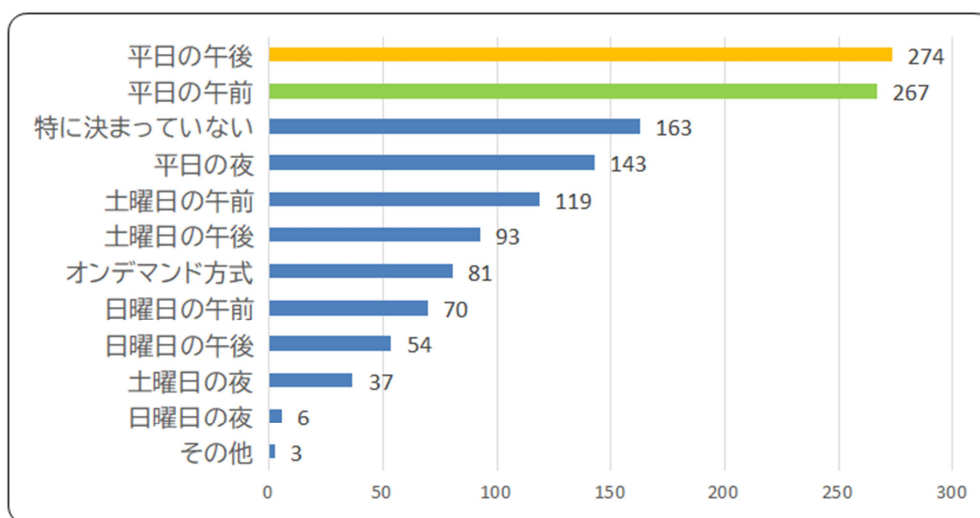
選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
公民館等の講座・教室	9.9%	23.7%	24.7%	22.7%	26.1%	31.2%	36.5%	42.0%
民間のカルチャーセンター・スポーツジムなどの講座や教室	5.4%	10.5%	12.9%	16.0%	14.3%	14.5%	10.0%	11.6%
クラブ、サークル、同好会	24.3%	5.3%	5.4%	8.2%	10.6%	16.0%	19.0%	16.1%
地域活動・ボランティア	2.7%	2.6%	12.9%	12.4%	11.4%	15.5%	18.3%	16.1%
大学や専門学校などの公開講座	11.7%	10.5%	7.5%	7.7%	8.2%	6.3%	6.7%	7.1%
職場の研修・講習	8.1%	5.3%	9.7%	6.7%	4.1%	1.9%	0.2%	0.0%
通信教育、オンライン講座	6.3%	13.2%	11.8%	10.3%	12.2%	5.6%	2.3%	0.9%
書籍・動画等を使い、自分ひとりで	28.8%	26.3%	15.1%	14.4%	11.4%	7.5%	5.8%	5.4%
その他	2.7%	2.6%	0.0%	1.5%	1.6%	1.5%	1.3%	0.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・全体を見ると、問4(どのような方法で学習・活動しているか)での現在の活動と上位については、ほぼ同様となっているが、年代別に見ると、問4では20～60歳代及び80歳代で上位を占めていた、「地域活動・ボランティア」が、本問では80歳代を除き、上位の回答ではなくなっている。また、20歳代は問4から「公民館等の講座・教室」の回答が大きく増加(5.6%→23.7%)しており、今は利用していないものの、今後は公民館等を利用したいという意向がうかがえる。

問12 「学習・活動」の時間帯としては、どの時間帯が適当ですか。(回答数 1,310)【複数回答可】

〔回答者一人あたりの平均回答数 1.37〕

選択肢	回答数	割合
平日の午後	274	20.9%
平日の午前	267	20.4%
特に決まっていない	163	12.4%
平日の夜	143	10.9%
土曜日の午前	119	9.1%
土曜日の午後	93	7.1%
オンデマンド方式	81	6.2%
日曜日の午前	70	5.3%
日曜日の午後	54	4.1%
土曜日の夜	37	2.8%
日曜日の夜	6	0.5%
その他	3	0.2%



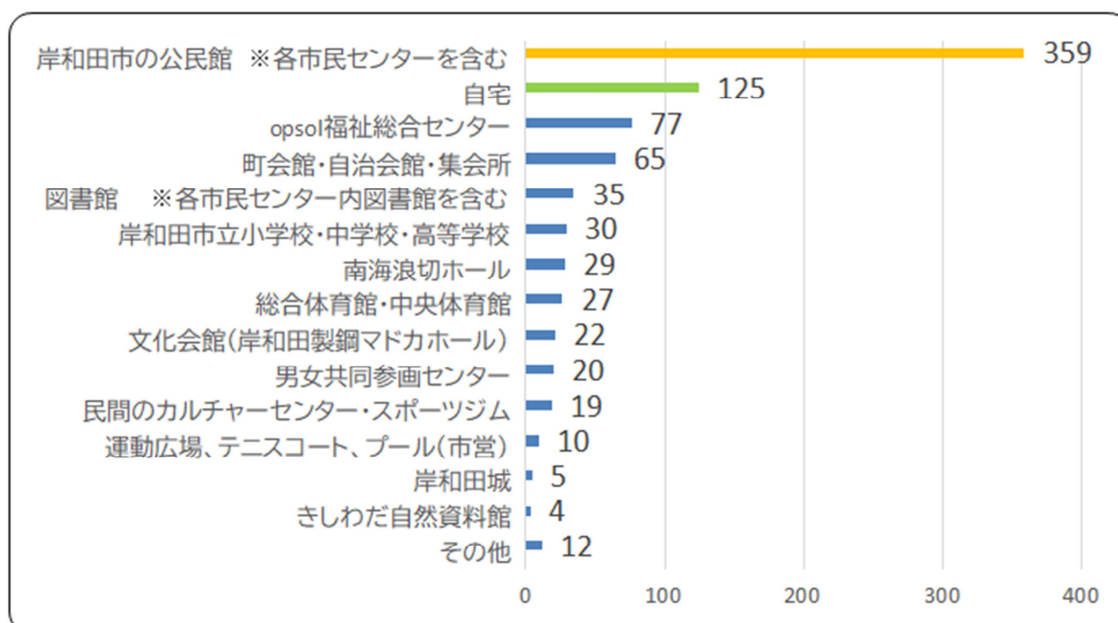
問12' 問12の年代別回答割合

選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
平日の午前	9.8%	10.0%	10.8%	13.7%	7.8%	20.8%	32.5%	32.6%
平日の午後	19.6%	3.3%	1.4%	5.2%	12.0%	23.8%	29.0%	47.2%
平日の夜	9.8%	16.7%	21.6%	17.0%	23.4%	8.9%	2.9%	2.2%
土曜日の午前	7.6%	16.7%	13.5%	13.1%	15.6%	6.6%	6.6%	2.2%
土曜日の午後	13.0%	0.0%	10.8%	5.2%	7.8%	8.3%	5.7%	4.5%
土曜日の夜	3.3%	3.3%	2.7%	6.5%	2.6%	3.6%	0.9%	1.1%
日曜日の午前	2.2%	16.7%	12.2%	9.8%	5.7%	5.9%	2.6%	1.1%
日曜日の午後	6.5%	6.7%	4.1%	3.9%	5.2%	4.3%	2.9%	3.4%
日曜日の夜	2.2%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
特に決まっていない	22.8%	16.7%	14.9%	12.4%	9.4%	12.2%	13.2%	3.4%
オンデマンド方式	3.3%	10.0%	8.1%	11.8%	10.4%	4.3%	3.7%	2.2%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・全体では、「特に決まっていない」を除き、平日の午後、午前、夜が上位を占めている。年代別では、60歳代以上で平日の日中、30～50歳代で「平日の夜」、10歳代で「特に決まっていない」が多くを占める。

問13 あなたが、「学習・活動」を行いやすい場所はどこですか。(回答数 839)

選択肢	回答数	割合
岸和田市の公民館 ※各市民センターを含む	359	42.8%
自宅	125	14.9%
opsol福祉総合センター	77	9.2%
町会館・自治会館・集会所	65	7.7%
図書館 ※各市民センター内図書館を含む	35	4.2%
岸和田市立小学校・中学校・高等学校	30	3.6%
南海浪切ホール	29	3.5%
総合体育館・中央体育館	27	3.2%
文化会館(岸和田製鋼マドカホール)	22	2.6%
男女共同参画センター	20	2.4%
民間のカルチャーセンター・スポーツジム	19	2.3%
運動広場、テニスコート、プール(市営)	10	1.2%
岸和田城	5	0.6%
きしわだ自然資料館	4	0.5%
その他	12	1.4%



問13' 問13の年代別回答割合

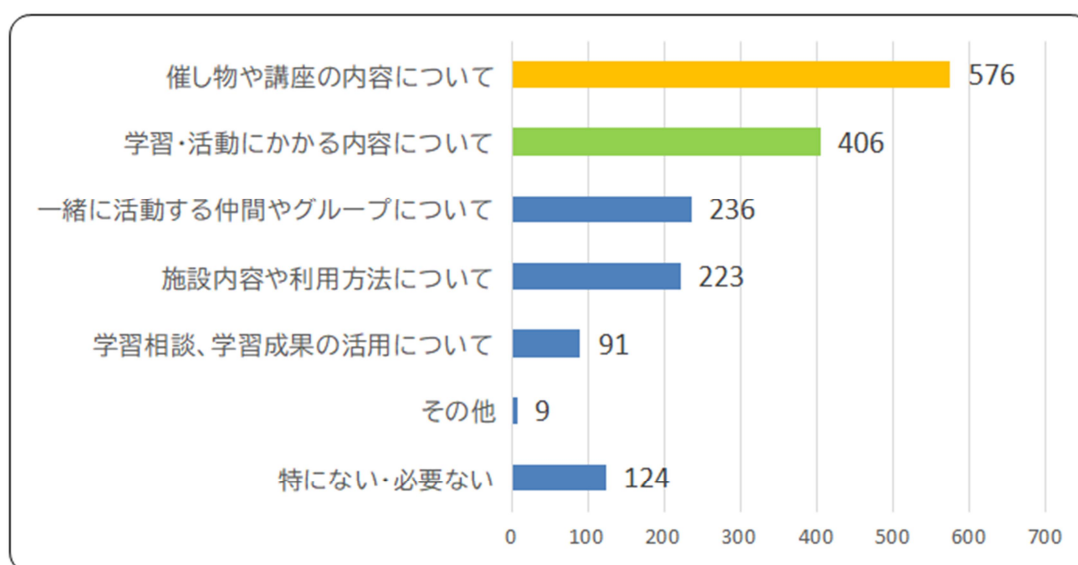
選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
岸和田市の公民館 ※各市民センターを含む	6.7%	25.0%	12.5%	35.9%	43.6%	46.4%	56.6%	51.6%
男女共同参画センター	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.9%	2.6%	2.2%	10.9%
opsol福祉総合センター	1.7%	10.0%	10.4%	7.6%	12.0%	6.8%	11.5%	10.9%
文化会館(岸和田製鋼マドカホール)	1.7%	0.0%	2.1%	3.3%	1.7%	4.7%	2.2%	1.6%
南海浪切ホール	1.7%	0.0%	4.2%	4.3%	4.3%	4.7%	3.1%	1.6%
図書館 ※各市民センター内図書館を含む	13.3%	10.0%	4.2%	3.3%	1.7%	4.2%	4.0%	1.6%
きしわだ自然資料館	0.0%	5.0%	2.1%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
岸和田城	0.0%	5.0%	2.1%	1.1%	0.9%	0.5%	0.0%	0.0%
総合体育館・中央体育館	1.7%	0.0%	4.2%	2.2%	2.6%	4.2%	3.5%	1.6%
運動広場、テニスコート、プール(市営)	0.0%	0.0%	2.1%	1.1%	2.6%	0.5%	1.8%	0.0%
岸和田市立小学校・中学校・高等学校	20.0%	0.0%	6.3%	3.3%	4.3%	3.1%	0.4%	0.0%
町会館・自治会館・集会所	0.0%	5.0%	8.3%	5.4%	5.1%	8.9%	9.3%	14.1%
民間のカルチャーセンター・スポーツジム	0.0%	0.0%	4.2%	5.4%	2.6%	1.6%	0.9%	4.7%
自宅	53.3%	40.0%	35.4%	23.9%	12.8%	11.5%	3.1%	1.6%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	4.3%	0.5%	1.3%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・全体を見た場合も、年代別に見た場合にも、問6(学習・活動を行っている場所はどこか)と同様の傾向となっている。

問14 あなたは「学習・活動」を始めたり、続けていくうえでどのような情報を得たいと思いますか。

(回答数 1,665)【複数回答可】[回答者一人あたりの平均回答数 1.74]

選択肢	回答数	割合
催し物や講座の内容について	576	34.6%
学習・活動にかかる内容について	406	24.4%
一緒に活動する仲間やグループについて	236	14.2%
施設内容や利用方法について	223	13.4%
学習相談、学習成果の活用について	91	5.5%
その他	9	0.5%
特にない・必要ない	124	7.4%



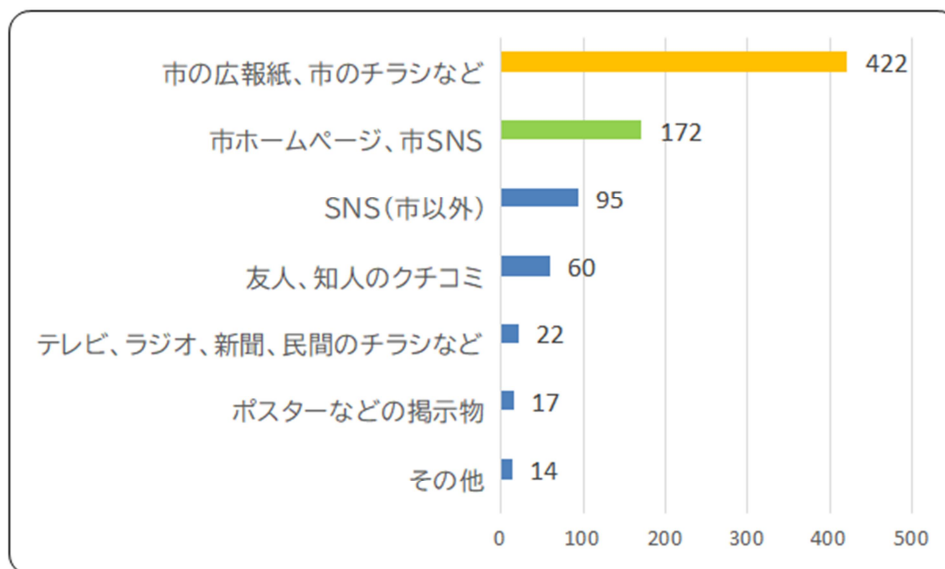
問14' 問14の年代別回答割合

選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
催し物や講座の内容について	13.3%	29.0%	29.6%	29.2%	32.3%	38.0%	40.2%	42.4%
施設内容や利用方法について	12.2%	6.5%	13.9%	13.3%	15.2%	13.8%	13.0%	10.1%
一緒に活動する仲間やグループについて	17.3%	12.9%	13.9%	12.8%	16.0%	13.3%	14.6%	12.1%
学習・活動にかかる内容について	25.5%	41.9%	25.0%	26.7%	24.5%	24.7%	22.1%	22.2%
学習相談、学習成果の活用について	10.2%	9.7%	10.2%	9.7%	6.2%	4.2%	2.6%	2.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.4%	0.5%	0.2%	2.0%
特にない・必要ない	21.4%	0.0%	7.4%	7.2%	5.4%	5.5%	7.3%	9.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・全体を見ると、「催し物や講座の内容について」と「学習・活動にかかる内容について」が上位を占めており、年代別に見ても、総じて同様の傾向であるが、10歳代では、「特に必要ない」の回答が多くなっている。

問15 「学習・活動」の情報はどこから得たいと思いますか。(回答数 802)

選択肢	回答数	割合
市の広報紙、市のチラシなど	422	52.6%
市ホームページ、市SNS	172	21.4%
SNS(市以外)	95	11.8%
友人、知人のクチコミ	60	7.5%
テレビ、ラジオ、新聞、民間のチラシなど	22	2.7%
ポスターなどの掲示物	17	2.1%
その他	14	1.7%



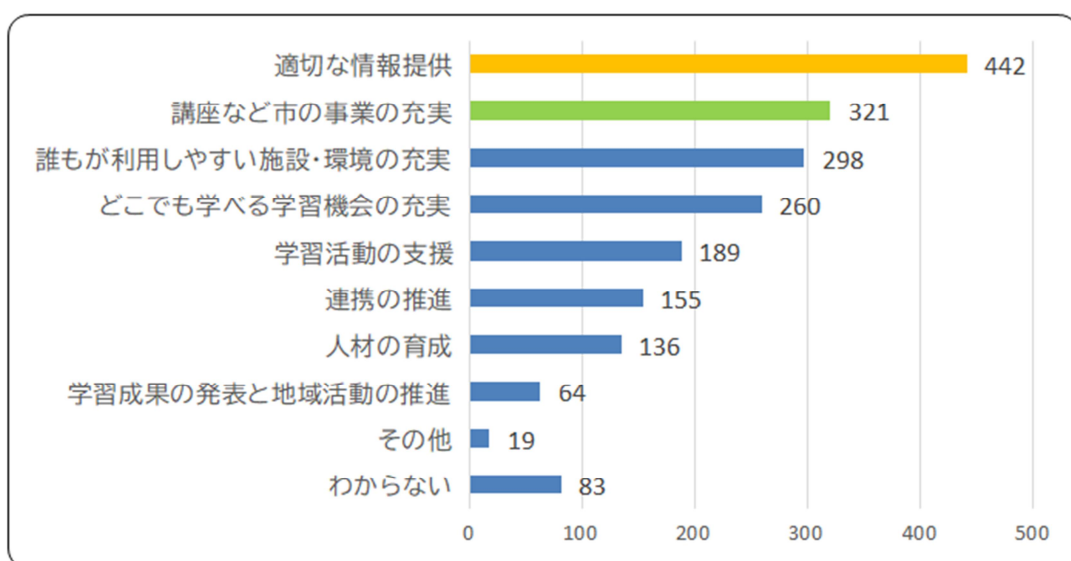
問15' 問15の年代別回答割合

選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
市の広報紙、市のチラシなど	8.2%	10.5%	26.1%	31.8%	47.0%	63.1%	68.9%	71.9%
市ホームページ、市SNS	10.2%	36.8%	34.8%	36.4%	28.7%	21.4%	14.0%	12.3%
SNS(市以外)	53.1%	36.8%	23.9%	25.0%	10.4%	6.4%	0.5%	0.0%
ポスターなどの掲示物	0.0%	10.5%	2.2%	1.1%	3.5%	0.5%	2.3%	3.5%
友人、知人のクチコミ	22.4%	5.3%	8.7%	3.4%	3.5%	3.7%	9.9%	10.5%
テレビ、ラジオ、新聞、民間のチラシなど	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	3.7%	2.3%	1.8%
その他	2.0%	0.0%	4.3%	2.3%	0.9%	1.1%	2.3%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・全体を見ると、「市の広報紙、市のチラシなど」、「市ホームページ、市 SNS」で全体の7割以上を占めている。年代別では、30歳代以上の全ての年代で市からの情報への期待が高く、問5(学習・活動を行うきっかけとなった情報はどこから得たか)では上位にあがっていた「友人、知人のクチコミ」は、10歳代でのみ多くなっている。

問16 生涯学習活動を一層活発にするために、市の施策として特にどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(回答数 1,967)【複数回答可】[回答者一人あたりの平均回答数 2.05]

選択肢	回答数	割合
適切な情報提供	442	22.5%
講座など市の事業の充実	321	16.3%
誰もが利用しやすい施設・環境の充実	298	15.1%
どこでも学べる学習機会の充実	260	13.2%
学習活動の支援	189	9.6%
連携の推進	155	7.9%
人材の育成	136	6.9%
学習成果の発表と地域活動の推進	64	3.3%
その他	19	1.0%
わからない	83	4.2%



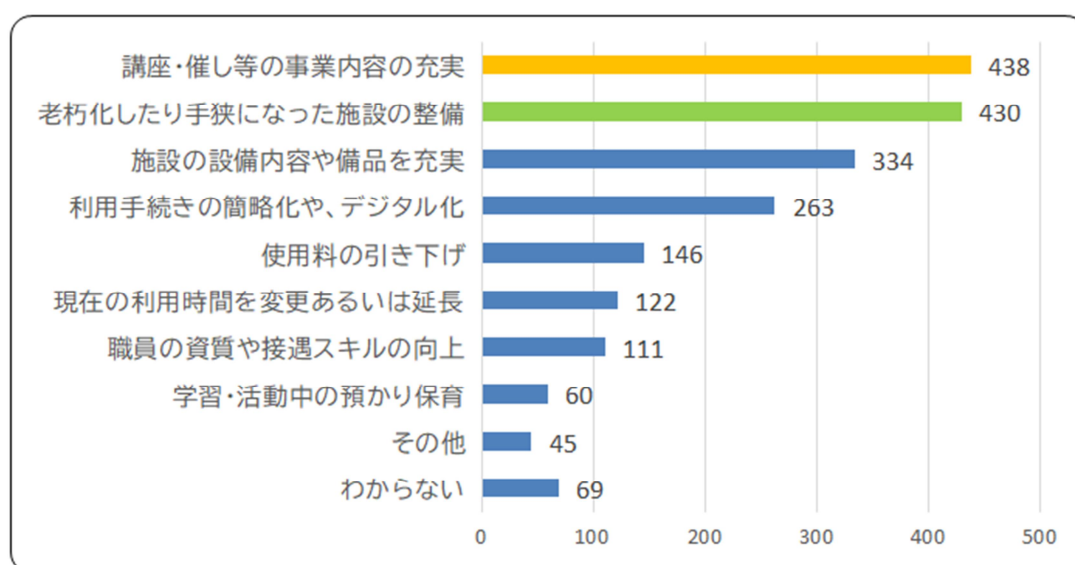
問16' 問16の年代別回答割合

選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
どこでも学べる学習機会の充実	16.9%	21.9%	18.2%	17.9%	16.7%	11.6%	8.6%	12.2%
適切な情報提供	14.5%	12.5%	18.2%	17.9%	20.9%	25.4%	25.7%	24.4%
誰もが利用しやすい施設・環境の充実	20.2%	15.6%	18.2%	10.3%	15.0%	15.0%	15.8%	16.3%
講座など市の事業の充実	2.4%	3.1%	10.0%	13.5%	15.3%	17.3%	21.1%	21.1%
人材の育成	13.7%	15.6%	4.5%	9.0%	5.6%	5.8%	6.3%	4.9%
学習活動の支援	7.3%	9.4%	5.5%	13.5%	11.1%	11.4%	8.5%	6.5%
学習成果の発表と地域活動の推進	3.2%	6.3%	6.4%	2.2%	2.4%	3.3%	3.3%	3.3%
連携の推進	7.3%	12.5%	11.8%	9.0%	9.8%	7.7%	6.3%	4.9%
その他	0.0%	0.0%	4.5%	1.8%	0.0%	0.8%	0.7%	0.0%
わからない	14.5%	3.1%	2.7%	4.9%	3.1%	1.7%	3.7%	6.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・多くの年代で「適切な情報提供」が上位を占めている。一方で、60歳代以上は「講座など市の事業の充実」が上位であるが、50歳代以下は「どこでも学べる学習機会の充実」が上位となっている。また、10歳代～30歳代は「誰もが利用しやすい施設・環境の充実」が上位を占めている。

問17 市の生涯学習施設・生涯スポーツ施設について、利用者を増やすためにはどのようなことが必要だと思いますか。(回答数 2,018)【複数回答可】[回答者一人あたりの平均回答数 2.11]

選択肢	回答数	割合
講座・催し等の事業内容の充実	438	21.7%
老朽化したり手狭になった施設の整備	430	21.3%
施設の設備内容や備品を充実	334	16.6%
利用手続きの簡略化や、デジタル化	263	13.0%
使用料の引き下げ	146	7.2%
現在の利用時間を変更あるいは延長	122	6.0%
職員の資質や接遇スキルの向上	111	5.5%
学習・活動中の預かり保育	60	3.0%
その他	45	2.2%
わからない	69	3.4%



問17' 問17の年代別回答割合

選択肢／年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
老朽化したり手狭になった施設の整備	22.4%	28.6%	21.9%	19.4%	22.4%	20.9%	20.6%	23.7%
施設の設備内容や備品を充実	16.3%	19.0%	12.5%	13.2%	14.1%	15.8%	19.8%	21.2%
現在の利用時間を変更あるいは延長	6.1%	2.4%	7.0%	9.1%	9.0%	6.4%	3.4%	1.7%
利用手続きの簡略化や、デジタル化	12.2%	11.9%	13.3%	18.2%	16.6%	12.6%	9.9%	11.0%
使用料の引き下げ	13.6%	11.9%	9.4%	6.6%	7.2%	6.4%	5.6%	6.8%
学習・活動中の預かり保育	3.4%	2.4%	15.6%	3.3%	2.4%	1.9%	1.7%	0.8%
講座・催し等の事業内容の充実	8.2%	16.7%	12.5%	20.7%	20.3%	25.4%	25.6%	24.6%
職員の資質や接遇スキルの向上	7.5%	7.1%	3.9%	5.0%	3.4%	5.8%	6.9%	2.5%
その他	0.0%	0.0%	3.1%	1.7%	1.7%	3.2%	2.4%	3.4%
わからない	10.2%	0.0%	0.8%	2.9%	2.8%	1.7%	4.1%	4.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・全体を見ると、「講座・催し等の事業内容の充実」「老朽化したり手狭になった施設の整備」が上位となっており、年代別では、40歳代以上で同様の傾向となっている。一方、30歳代では、「学習・活動中の預かり保育」、20歳代以下では、「施設の設備内容や備品を充実」が上位を占めている。

自由意見欄(203 件)

○講座の内容やその他ソフト面に関する「企画提案」等のご意見(69 件)

- ・「講座内容の充実」等、講座内容に関するご意見
- ・「土日の講座を増やしてほしい」等、利用時間に関するご意見
- ・「音楽イベントを開催してほしい」等、イベント開催に関するご意見等

○公民館等の施設の改修やその他ハード面の改善等の「環境整備」に関するご意見(38 件)

- ・「駐車場を増やしてほしい、トイレを洋式化してほしい」等、施設の環境改善に関するご意見
- ・「予約システムを使いやすくしてほしい」等、システムに関するご意見
- ・「公民館を無くさないでほしい、図書館を建て替えてほしい」等、施設全体に関するご意見等

○講座の広報やその他市の事業・イベント等の「情報発信」に関するご意見(21 件)

- ・「SNS を活用してほしい、広報紙を活用してほしい」等、発信媒体に関するご意見
- ・「広報きしわだでコラム連載してほしい、動画配信」等、発信手法に関するご意見

○利用時間や利用の手続き等「公民館の運用」に関するご意見(11 件)

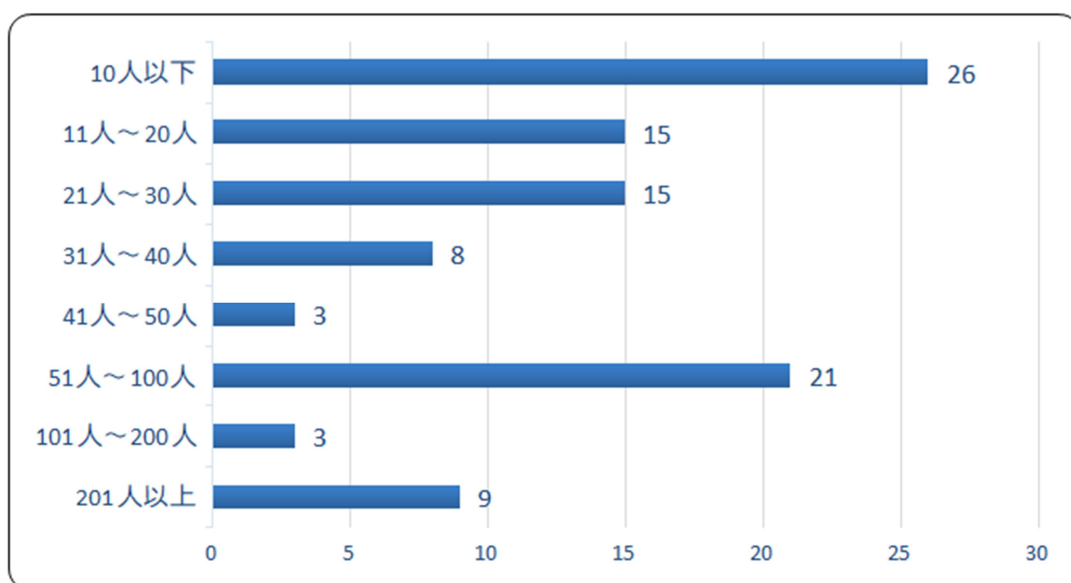
- ・「空きがあるなら鍵を早く受け取れるようにしてほしい」等、時間に関するご意見
- ・「登録等の手続きを簡素化してほしい」等、諸手続きに関するご意見

○その他施設利用や講座に関する「感想」等のご意見(64 件)

第4章 団体向けアンケート集計結果

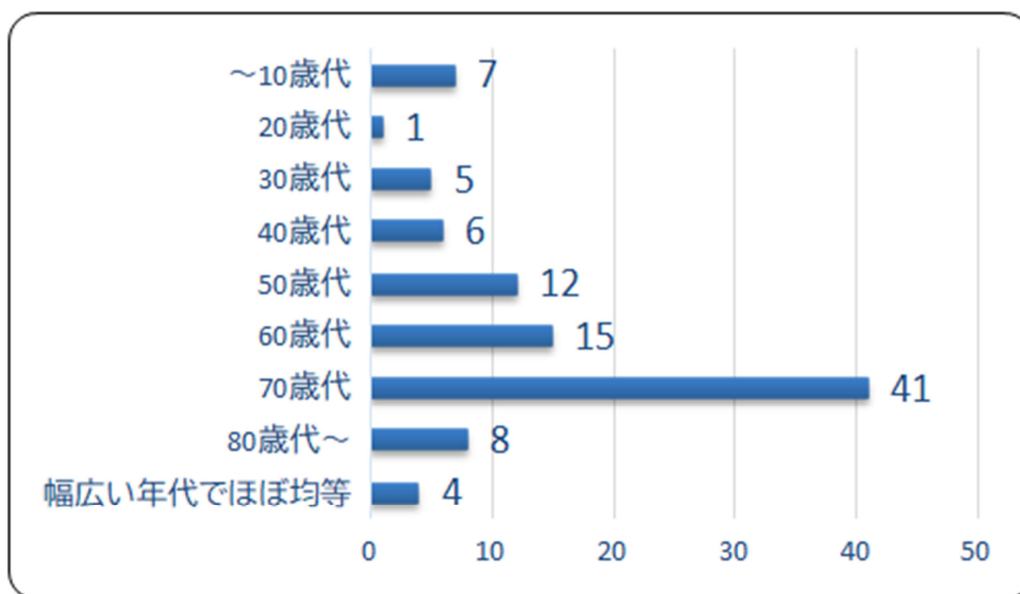
問2 あなたの団体の会員数について(回答数 100)

選択肢	回答数
10人以下	26
11人～20人	15
21人～30人	15
31人～40人	8
41人～50人	3
51人～100人	21
101人～200人	3
201人以上	9
総計	100



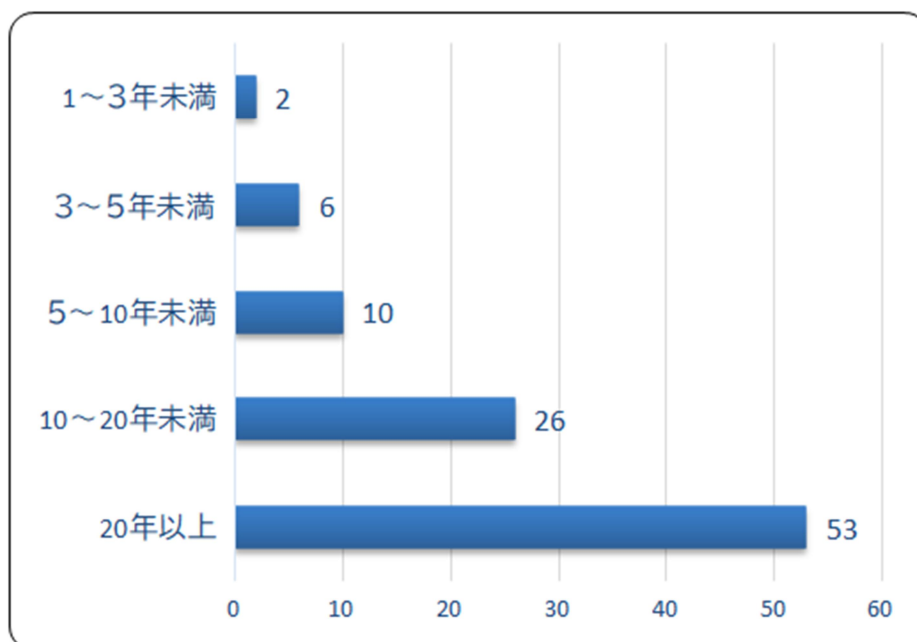
問3 会員の中でもっとも多い年代について(回答数 99)

選択肢	回答数
～10歳代	7
20歳代	1
30歳代	5
40歳代	6
50歳代	12
60歳代	15
70歳代	41
80歳代～	8
幅広い年代でほぼ均等	4
総計	99



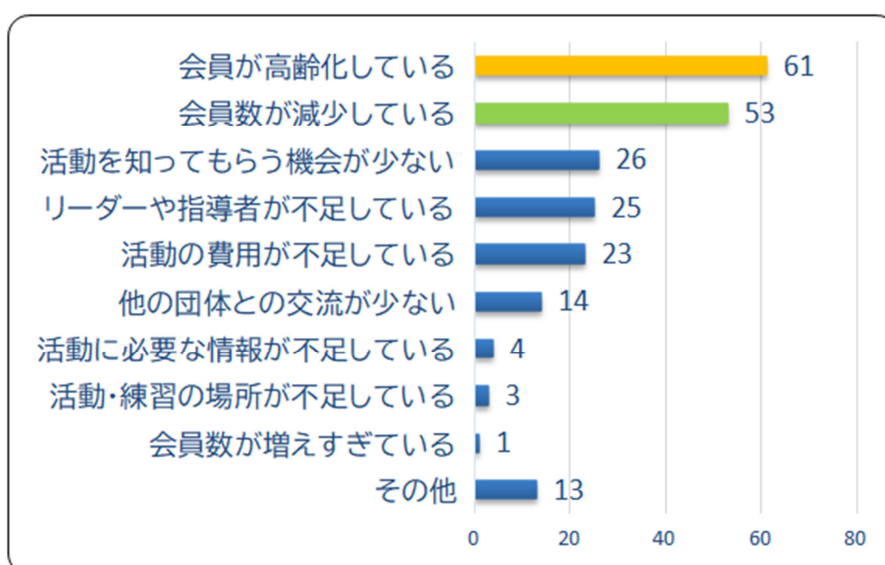
問4 あなたの団体の活動年数について(回答数 97)

選択肢	回答数
1～3年未満	2
3～5年未満	6
5～10年未満	10
10～20年未満	26
20年以上	53
総計	97



問5 あなたの団体が現在抱えている課題にはどのようなものがありますか。(回答数 223)【複数回答可】
 [一団体あたりの平均回答数 2.23]

選択肢	回答数	割合
会員が高齢化している	61	27.4%
会員数が減少している	53	23.8%
活動を知ってもらう機会が少ない	26	11.7%
リーダーや指導者が不足している	25	11.2%
活動の費用が不足している	23	10.3%
他の団体との交流が少ない	14	6.3%
活動に必要な情報が不足している	4	1.8%
活動・練習の場所が不足している	3	1.3%
会員数が増えすぎている	1	0.4%
その他	13	5.8%



問5' 団体人数別の課題割合

*団体数	26	15	15	8	3	21	3	9
選択肢/会員数	10人以下	11人~20人	21人~30人	31人~40人	41人~50人	51人~100人	101人~200人	201人以上
会員数が減少している	35.0%	28.6%	17.2%	17.6%	37.5%	16.3%	25.0%	12.5%
会員数が増えすぎている	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%
会員が高齢化している	26.7%	25.0%	24.1%	23.5%	25.0%	28.6%	37.5%	33.3%
活動の費用が不足している	1.7%	3.6%	10.3%	23.5%	0.0%	12.2%	25.0%	25.0%
活動・練習の場所が不足している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
活動に必要な情報が不足している	1.7%	0.0%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
他の団体との交流が少ない	5.0%	7.1%	13.8%	5.9%	0.0%	6.1%	0.0%	4.2%
活動を知ってもらう機会が少ない	18.3%	17.9%	6.9%	17.6%	0.0%	8.2%	12.5%	0.0%
リーダーや指導者が不足している	3.3%	10.7%	10.3%	5.9%	37.5%	20.4%	0.0%	12.5%
その他	8.3%	7.1%	6.9%	5.9%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問5'' 団体の主要年代別の課題割合

*団体数	7	1	5	6	12	15	41	8	4
選択肢／年代	～10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代～	幅広い年代 でほぼ均等
会員数が減少している	25.0%	0.0%	40.0%	23.1%	34.6%	9.1%	26.3%	22.7%	11.1%
会員数が増えすぎている	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
会員が高齢化している	8.3%	0.0%	10.0%	7.7%	15.4%	30.3%	35.8%	31.8%	33.3%
活動の費用が不足している	8.3%	33.3%	10.0%	15.4%	7.7%	15.2%	7.4%	9.1%	22.2%
活動・練習の場所が不足している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	1.1%	0.0%	0.0%
活動に必要な情報が不足している	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	3.8%	3.0%	1.1%	0.0%	0.0%
他の団体との交流が少ない	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	7.7%	6.1%	7.4%	4.5%	11.1%
活動を知ってもらう機会が少ない	16.7%	33.3%	30.0%	23.1%	7.7%	6.1%	10.5%	13.6%	0.0%
リーダーや指導者が不足している	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	18.2%	9.5%	18.2%	11.1%
その他	8.3%	33.3%	0.0%	23.1%	15.4%	6.1%	1.1%	0.0%	11.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

*20 歳代の選択肢「その他」の内容:「もっと遠方への活動をしたいと思っていますが、会員の年齢層が様々なので、スケジュールが合わせにくい」

*40 歳代の選択肢「その他」の主な内容:「会員が増えない」「若い世代が不足している」等

*50 歳代の選択肢「その他」の主な内容:「会員が増えない」「子どもが少ない」等

問5''' 団体の活動年数別の課題割合

*団体数	2	6	10	26	53
選択肢／活動年数	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上
会員数が減少している	0.0%	15.4%	16.7%	25.9%	26.2%
会員数が増えすぎている	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%
会員が高齢化している	25.0%	7.7%	20.8%	32.8%	27.9%
活動の費用が不足している	0.0%	7.7%	8.3%	10.3%	10.7%
活動・練習の場所が不足している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%
活動に必要な情報が不足している	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	2.5%
他の団体との交流が少ない	25.0%	15.4%	16.7%	0.0%	5.7%
活動を知ってもらう機会が少ない	25.0%	30.8%	12.5%	12.1%	9.0%
リーダーや指導者が不足している	0.0%	0.0%	12.5%	10.3%	13.1%
その他	25.0%	23.1%	12.5%	5.2%	2.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

*1～3年未満の選択肢「その他」の内容:記入なし

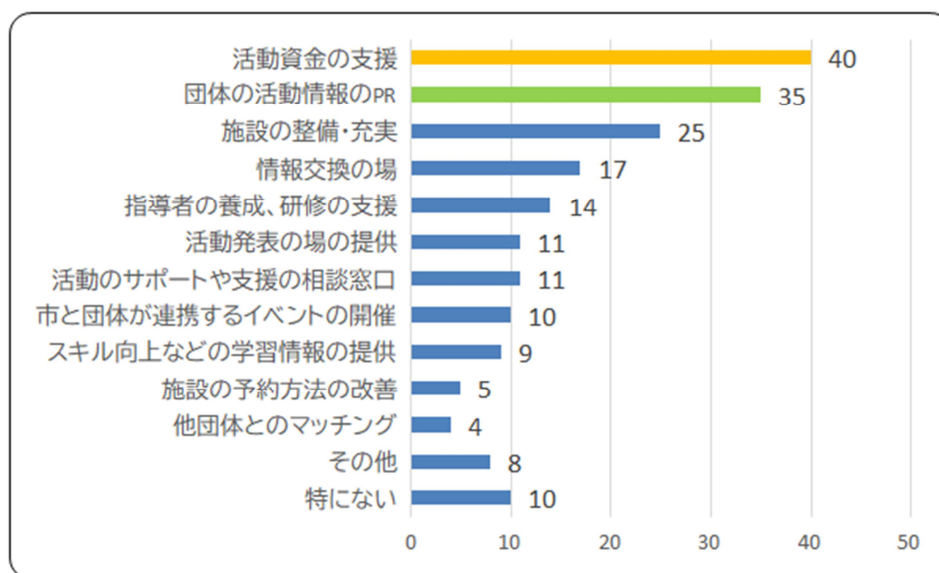
*3～5年未満の選択肢「その他」の内容:「会員が増えない」「体験者は多いが会員数が増えない」

・全体で見た時の、上位にあげられる回答は、団体の9割以上を占める5年以上の活動団体(5～10年未満、10年～20年未満、20年以上)の回答と概ね同様の傾向にある。

問6 あなたの団体が抱えている課題に対して、市に望む取組にはどのようなものがありますか。

(回答数 199)【複数回答可】[一団体あたりの平均回答数 1.99]

選択肢	回答数	割合
活動資金の支援	40	20.1%
団体の活動情報のPR	35	17.6%
施設の整備・充実	25	12.6%
情報交換の場	17	8.5%
指導者の養成、研修の支援	14	7.0%
活動発表の場の提供	11	5.5%
活動のサポートや支援の相談窓口	11	5.5%
市と団体が連携するイベントの開催	10	5.0%
スキル向上などの学習情報の提供	9	4.5%
施設の予約方法の改善	5	2.5%
他団体とのマッチング	4	2.0%
その他	8	4.0%
特にない	10	5.0%



問6' 団体人数別の市に望む取組の割合

*団体数	26	15	15	8	3	21	3	9
選択肢／会員数	10人以下	11人～20人	21人～30人	31人～40人	41人～50人	51人～100人	101人～200人	201人以上
団体の活動情報のPR	34.1%	13.3%	15.4%	11.8%	0.0%	19.6%	0.0%	4.3%
活動発表の場の提供	9.1%	3.3%	7.7%	5.9%	0.0%	2.2%	0.0%	8.7%
指導者の養成、研修の支援	2.3%	3.3%	3.8%	0.0%	16.7%	13.0%	28.6%	8.7%
市と団体が連携するイベントの開催	4.5%	6.7%	3.8%	11.8%	0.0%	4.3%	14.3%	0.0%
スキル向上などの学習情報の提供	2.3%	6.7%	0.0%	5.9%	16.7%	6.5%	0.0%	4.3%
活動のサポートや支援の相談窓口	4.5%	6.7%	7.7%	11.8%	16.7%	4.3%	0.0%	0.0%
施設の整備・充実	6.8%	13.3%	19.2%	11.8%	16.7%	8.7%	0.0%	26.1%
他団体とのマッチング	2.3%	6.7%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
情報交換の場	4.5%	16.7%	11.5%	0.0%	0.0%	10.9%	14.3%	4.3%
活動資金の支援	9.1%	16.7%	19.2%	29.4%	16.7%	23.9%	28.6%	30.4%
施設の予約方法の改善	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	14.3%	4.3%
その他	4.5%	3.3%	7.7%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	8.7%
特にない	11.4%	3.3%	3.8%	5.9%	16.7%	2.2%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問6'' 団体の主要年代別の市に望む取組の割合

*団体数	7	1	5	6	12	15	41	8	4
選択肢／年代	～10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代～	幅広い年代 でほぼ均等
団体の活動情報のPR	25.0%	0.0%	27.3%	23.1%	29.6%	10.0%	15.3%	18.2%	0.0%
活動発表の場の提供	0.0%	33.3%	9.1%	0.0%	3.7%	6.7%	5.6%	9.1%	0.0%
指導者の養成、研修の支援	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%	3.3%	5.6%	22.7%	11.1%
市と団体が連携するイベントの開催	8.3%	0.0%	27.3%	0.0%	7.4%	3.3%	4.2%	0.0%	0.0%
スキル向上などの学習情報の提供	8.3%	0.0%	0.0%	7.7%	3.7%	3.3%	6.9%	0.0%	0.0%
活動のサポートや支援の相談窓口	16.7%	33.3%	0.0%	7.7%	11.1%	6.7%	1.4%	4.5%	0.0%
施設の整備・充実	16.7%	0.0%	9.1%	7.7%	11.1%	20.0%	9.7%	9.1%	33.3%
他団体とのマッチング	8.3%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	3.3%	1.4%	0.0%	0.0%
情報交換の場	0.0%	0.0%	9.1%	15.4%	0.0%	10.0%	12.5%	9.1%	0.0%
活動資金の支援	8.3%	33.3%	9.1%	23.1%	14.8%	26.7%	20.8%	18.2%	33.3%
施設の予約方法の改善	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	2.8%	4.5%	11.1%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	7.4%	3.3%	2.8%	4.5%	11.1%
特にない	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	3.3%	11.1%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

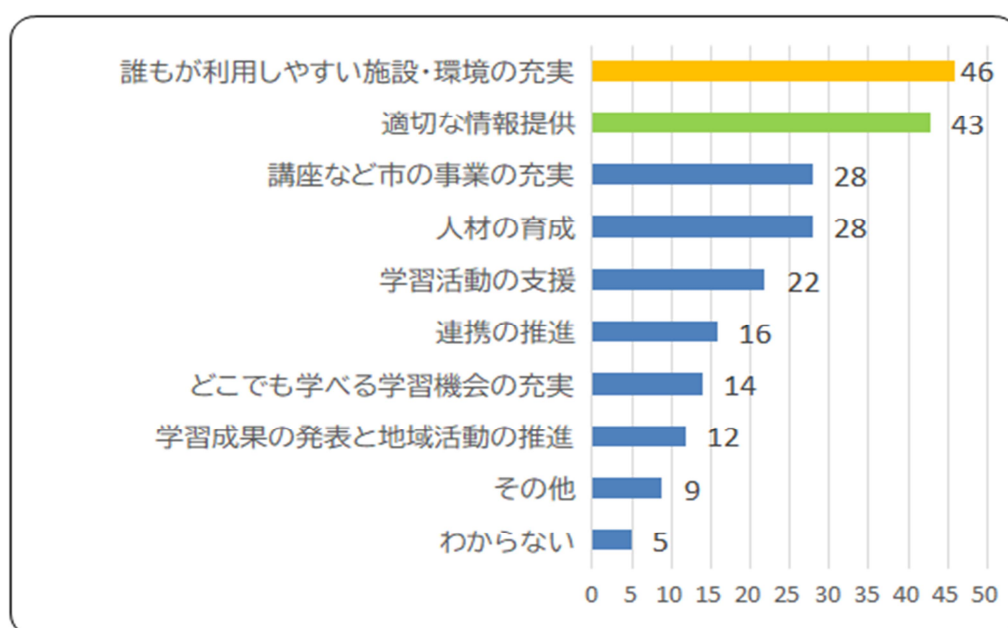
問6''' 団体の活動年数別の市に望む取組の割合

*団体数	2	6	10	26	53
選択肢／活動年数	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上
団体の活動情報のPR	50.0%	35.7%	14.3%	15.4%	16.7%
活動発表の場の提供	0.0%	0.0%	4.8%	5.8%	6.5%
指導者の養成、研修の支援	0.0%	7.1%	0.0%	3.8%	9.3%
市と団体が連携するイベントの開催	0.0%	7.1%	4.8%	3.8%	5.6%
スキル向上などの学習情報の提供	0.0%	7.1%	4.8%	3.8%	4.6%
活動のサポートや支援の相談窓口	0.0%	0.0%	0.0%	13.5%	3.7%
施設の整備・充実	50.0%	0.0%	14.3%	9.6%	14.8%
他団体とのマッチング	0.0%	7.1%	0.0%	3.8%	0.9%
情報交換の場	0.0%	21.4%	9.5%	5.8%	8.3%
活動資金の支援	0.0%	14.3%	28.6%	21.2%	18.5%
施設の予約方法の改善	0.0%	0.0%	4.8%	3.8%	1.9%
その他	0.0%	0.0%	9.5%	1.9%	4.6%
特にない	0.0%	0.0%	4.8%	7.7%	4.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・主要な課題と捉えられている、会員の高齢化や減少への対策として、市が行う団体の活動情報のPRが期待されている。一方で、問5(現在抱えている課題)の回答では活動費の不足が上位ではなかったものの、市からは資金面の支援が望まれている。

問7 今後、生涯学習・社会教育活動を推進していくために、市の施策としてどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(回答数 223)【複数回答可】[一団体あたりの平均回答数 2.23]

選択肢	回答数	割合
誰もが利用しやすい施設・環境の充実(デジタル化、バリアフリー化、備品の更新、預かり保育、外国語対応など)	46	20.6%
適切な情報提供(講座情報、講師、活動団体などの情報)	43	19.3%
講座など市の事業の充実(定期講座、短期講座、高齢者大学や各学級などの充実)	28	12.6%
人材の育成(市民・地域活動を支援する人材育成)	28	12.6%
学習活動の支援(学び直しや、ライフステージに合わせた学習テーマの提供など)	22	9.9%
連携の推進(市、大学、NPO、民間団体などとの相互連携)	16	7.2%
どこでも学べる学習機会の充実(オンライン、オンデマンド講座の実施)	14	6.3%
学習成果の発表と地域活動の推進(学びの成果を地域の課題解決に生かすこと)	12	5.4%
その他	9	4.0%
わからない	5	2.2%



問7' 団体人数別の市が力を入れるべき施策の割合

*団体数	26	15	15	8	3	21	3	9
選択肢/会員数	10人以下	11人~20人	21人~30人	31人~40人	41人~50人	51人~100人	101人~200人	201人以上
どこでも学べる学習機会の充実	10.2%	9.7%	3.3%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	4.3%
適切な情報提供	22.0%	25.8%	20.0%	19.0%	50.0%	16.7%	14.3%	4.3%
誰もが利用しやすい施設・環境の充実	16.9%	22.6%	26.7%	19.0%	25.0%	14.6%	14.3%	34.8%
講座など市の事業の充実	15.3%	9.7%	10.0%	4.8%	0.0%	18.8%	14.3%	8.7%
人材の育成	6.8%	9.7%	16.7%	9.5%	25.0%	12.5%	42.9%	17.4%
学習活動の支援	16.9%	6.5%	3.3%	9.5%	0.0%	12.5%	0.0%	4.3%
学習成果の発表と地域活動の推進	5.1%	3.2%	0.0%	14.3%	0.0%	4.2%	14.3%	8.7%
連携の推進	3.4%	3.2%	6.7%	19.0%	0.0%	12.5%	0.0%	4.3%
その他	1.7%	3.2%	6.7%	4.8%	0.0%	2.1%	0.0%	13.0%
わからない	1.7%	6.5%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問7'' 団体の主要年代別の市が力を入れるべき施策の割合

*団体数	7	1	5	6	12	15	41	8	4
選択肢／年代	～10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代～	幅広い年代 ではほぼ均等
どこでも学べる学習機会の充実	0.0%	0.0%	23.1%	15.4%	11.5%	2.8%	5.7%	0.0%	0.0%
適切な情報提供	15.4%	0.0%	7.7%	23.1%	23.1%	19.4%	21.6%	18.2%	11.1%
誰もが利用しやすい施設・環境の充実	15.4%	0.0%	7.7%	7.7%	15.4%	33.3%	21.6%	13.6%	44.4%
講座など市の事業の充実	7.7%	0.0%	15.4%	7.7%	3.8%	13.9%	14.8%	22.7%	0.0%
人材の育成	23.1%	0.0%	15.4%	7.7%	26.9%	8.3%	8.0%	13.6%	22.2%
学習活動の支援	0.0%	33.3%	15.4%	23.1%	15.4%	2.8%	9.1%	9.1%	11.1%
学習成果の発表と地域活動の推進	0.0%	33.3%	7.7%	0.0%	0.0%	8.3%	5.7%	9.1%	0.0%
連携の推進	15.4%	33.3%	7.7%	0.0%	0.0%	5.6%	9.1%	9.1%	0.0%
その他	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%	3.8%	2.8%	3.4%	4.5%	11.1%
わからない	15.4%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	2.8%	1.1%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問7''' 団体の活動年数別の市が力を入れるべき施策の割合

*団体数	2	6	10	26	53
選択肢／活動年数	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上
どこでも学べる学習機会の充実	0.0%	15.4%	9.1%	5.0%	5.9%
適切な情報提供	0.0%	23.1%	18.2%	15.0%	22.7%
誰もが利用しやすい施設・環境の充実	40.0%	15.4%	22.7%	21.7%	20.2%
講座など市の事業の充実	20.0%	15.4%	4.5%	16.7%	10.9%
人材の育成	0.0%	0.0%	13.6%	8.3%	15.1%
学習活動の支援	0.0%	23.1%	13.6%	15.0%	5.0%
学習成果の発表と地域活動の推進	0.0%	0.0%	9.1%	5.0%	5.9%
連携の推進	20.0%	0.0%	0.0%	10.0%	7.6%
その他	0.0%	0.0%	9.1%	1.7%	5.0%
わからない	20.0%	7.7%	0.0%	1.7%	1.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・市民向けアンケートの問16では上位を占めていた、「適切な情報提供」、「講座など市の事業の充実」を抑えて、「誰もが利用しやすい施設・環境の充実」が最も多くなっている。

自由意見欄(25 件)

○ソフト面に関する「企画提案」等のご意見(7 件)

- ・「他団体の活動を見学したい」「障がい者児に対する学び及び一般の人の障がい者児に対する知識を深める学びの機会を作って欲しい」等

○団体の活動やその他「情報発信」に関するご意見(4 件)

- ・「『ボランティアだより』みたいな活動内容を PR できる紙面があればいい」「活動を知ってもらう機会が増えれば嬉しい」「講座情報、講師の情報をいただきたい」「子ども達に、どんな活動をしてもらうのか、学習、情報収集が必要」

○ハード面の改善等の「環境整備」に関するご意見(3 件)

- ・「地域の多くの方が利用しやすい場所の施設が必要」「スポーツ施設の充実」「バリアフリーの図書館本館を建設する」

○活動資金、補助金等「費用」に関するご意見(3 件)

- ・「補助金(助成金)を少し増やして欲しい」「現状社会に於て社会教育予算を増額して下さい」「この数年の諸物価の高騰は活動を縮小せざるを得ません」

○その他の「感想」等のご意見(8 件)

- ・団体の人数確保に関するお悩み等

生涯学習施策に関する【市民】アンケート 自由意見欄

	自由意見欄（※主旨を損なわない範囲で最小限の誤字修正等を行い、掲載しています。）	意見カテゴリ
1	「岸和田は子育て世代もお年寄りも生きやすい街やで～」と言われるようになったらいいと思います。最近、町会から抜かれる方も増え（私の近所では）地域のつながりも薄れていっているように思います。それぞれの世代の方が自宅の近くにある公民館等で興味のある活動などに参加され、新しい仲間とのつながりが広がったりするといいな。公営の屋内プールがあると水中ウォーキングなど全身運動になっていいのに、岸和田にはないな～と思っていましたが、市のサイトでR7年度岸和田市スポーツ推進審議会の資料に「屋内プールの整備について」の記載があったので、嬉しくなりました。	感想
2	「生涯学習」と言う言葉は普段の私達の生活の中や、友人達との会話でも出てくる事は全くと言っていいほどありません。ごく一部の人達のモノという感覚です。 今更ですが、まずは生涯学習と言う言葉を普及させる、あるいは親しみやすい身近な表現で周知させて興味を持ってもらうことから始めないといけないのではないのでしょうか。	情報発信
3	【わだい浪切サロン】は以前に何度かお世話になりました。テーマやタイミングが合えばまた参加したいと思っています。（アーカイブ配信などがあるとなお利用しやすいかと思います。）	感想
4	・春木の体育館のかわりがほしい。 ・中央体育館の耐震問題がどうなっているのかを知りたい。そして建てかえるのか教えてほしい。 ・体育館が少ないので活動場所がない。（今までは春木体育館でクラブや教室をやっていた。） ・お城の心技館も使用できるようにしてほしい。 ・スポーツのまち岸和田とのキャッチフレーズが泣いている。 ・日曜、祝日の利用時間が短いので（体育館）とても使用しづらい。（現状9時～17時）希望（8時30分から21時00分まで）	環境整備
5	※とにかくどここの施設でもトイレの洋式化をするべきである（今だに和式トイレが残っている） ※地域での学習が理想である。その為には、各町内において、生涯学習としてまず大事なことを話し合い、必要とされる学習を皆さんで考えて出し合う事、それで毎月でも良いから勉強会をするべきである。	環境整備
6	1)岸和田市として住民の人口を増やすには、住んでよかった、また、住みたい環境を作る必要がある。 2)高齢化社会に於いて、住民がいきいきとしている市を作るにはどうあるべきか、あるべき姿は何かを真剣に考えなければならぬ。（アンケートでは答えが出ないと考えます） 3)案としては岸和田市の設備をもっと有効活用して、例えば ①市民病院—健康講座 ②体育館—スポーツ教室 ③各センター—出前学習、学習講座 （現状より幅を広く、参加しやすい様にして下さい。） 等々を週1回のペースで実施してはどうでしょうか ・費用 ￥500/回程度 4)・和歌山大学と提携している講座は硬すぎるのと回数が少ないため参加できない。 5)岸和田市は何でもアンケート（→アンケートの作成を外注業者にまかせているのでは？）を取りますが、アンケートでは行政はできません。近隣の市町村のやり方を勉強してはどうでしょうか。 ・例：和泉市は進んでいますヨ！以上	環境整備
7	10年以上前に中央公民館に生涯学習課？がありました。何故、中断したかは不明ですが参加していました。要望を聞くより市の方で生涯学習の考え方を示す方が良いと思います。	企画提案
8	①専門技術を持った人をもっとボランティアなどで活用出来るのでは？	企画提案
9	8年前に引越してから公民館のクラブに参加していますが、私自身も60代、指導される方も参加者も70代で終わっていくクラブがあり、継続が難しいと感じています。クラブは個人主催なので、市で継続した講座（スポーツ・健康）があれば、外に出る機会も増え嬉しいです。 中央体育館の体操教室は、3種類ほど講座がありますが、講師の方が同じで内容はあまり変わらないと思いました。色々な年代の方が楽しく参加できる選べる講座ができれば参加したいです。思い込みかもしれませんが、また他所から来た者には地元の町会活動には行きづらい。アンケートを取るということは改善される予定があるのでしょうか。期待しています。	感想
10	ABCクッキングスタジオとコナミと連携して割安な市民講座をひらいてほしい。	企画提案
11	opsol福祉総合センター、男女共同参画センターの講座が新鮮。 公民館の講座は内容に偏りを感じる（講師・内容） 例えば、子育てに関係する場合、子育て支援課や保健センターと連携してできたら市の取り組みなども知れるのではないかな？と思う。 健康、介護関係の講座の場合は、介護保険や社会福祉協議会の方の話も含めるなど。 （講師の講座の後に岸和田市の取り組みを伝える。）	企画提案
12	SNSを利用した広報活動の充実。この1年間で振り返れば大阪万博はとんでもなく素晴らしい生涯学習の場でした。	情報発信
13	いつもありがとうございます。図書館（中央）は私はずっと引っ越して（22年前）以来、行かせて利用させてもらってます。親切で行きやすいです。スポーツは何もできないので、100歳体操を毎月曜日、ふれあいに行ってます。何が希望かと言いますと一ヶ月一度でいいから近隣にハイキングにつれてほしいです。一人で歩いていても老人ですので徘徊してるかと間違われますので、みな様と歩きたいです。	企画提案

14	いつも公民館を利用させて頂き有難うございます。最近、館に対する提出書類がどんどん増えていっているように思います。利用者が高齢化している現在、もう少し簡略化して頂けないものかと思います。よろしく願い致します。	館の運用
15	いつも広報や回覧板を通して講座など確認させてもらっています。子育て世代は日中仕事を持っている家庭が多く、なかなか自分の時間が取れないと思います。息抜きになる大人も参加しやすい習い事や体操教室など、平日19時以降開始にしてもらえると参加したいと思う方も多いのではないのでしょうか？講師の方のご都合もあるかと思いますが、できる範囲でご検討いただきたいです。よろしく願いします。	企画提案
16	お年寄り向けの講座や子供を持つ親の学習ばかりで、就職やスキルアップなどの知見を広める内容のものが少ない。介護福祉系ばかりで選択肢がない。かかる講座費用と講座内容が釣り合っているかを広報紙やホームページからでは把握しづらい。	情報発信
17	きっかけが欲しい。何をいつ何処で行なっているか知りたい	情報発信
18	クラブ活動の紹介(クラブ紹介)を市広報でさらに回数を増やしてほしい。その場合、SNSでその内容を知らせると年寄りには半数見なくなるため活字で一覧表で掲載してほしい。数年か前に、SNS方式に変更になってから、参加者が激変、激少した。多数の情報を載せる効果はあるが、本来の目的である参加者を増やすことができていない。ぜひお願いしたいです。	情報発信
19	このアンケート、一つえらべや2つえらべや3つえらべが混在で全く親切でない	感想
20	この度は、土井善晴先生の講演会を実施いただきありがとうございました。義母と一緒に参加させていただいたので、施設見学はできませんでしたが、キッチンカウンターを設置したお部屋もあるとのこと、「食」に関することを学んだ身としては、大変嬉しく思いました。「食」を通じて地域の方々の交流が深まるような講座やイベントの開催は、需要があると思います。また、先日、図書館で借りた「まちを耕す トークフォークダンスで語ろう」のようなイベントの開催は地域の活性と生涯学習にもつながりそうだと思いましたので、そのようなイベントがあれば、ぜひお手伝いしたいと思います。「岸和田市」がよりよくなっていくことを願っています。ありがとうございました。	感想
21	これからも楽しい役にたつ講座、講習をよろしくお願いします	感想
22	コロナ前は高齢者向きのイベント等が有りましたが、最近は”子育て”中心のイベントが多い様に感じます	感想
23	スポーツの充実した 図書館の充実	感想
24	スポーツ関係は充実していると思います。それ以外の文化活動(コーラス・合唱)で使用できる施設が公民館しかない。公民館は、月曜日が休館日なので、月曜日に休まない公民館があってほしいです。よろしくお願いします。	環境整備
25	そもそも、今どんな進め方をしているのがわからないですね。ただ、これからの時代は箱を用意したり、対面に拘る必要はないでしょう。オンライン講座も一定期間、いつでも見られて学習できる形のほうが各々のライフスタイルに合わせられると思います。現状はどうしても平日昼間などになりがちで仕事をしている人は参加しづらいです。また、オンライン講座に関しては岸和田市が用意しなくても、国が用意しているものも多数存在し、それをしっかり広報していく、市内で学び合う仲間つくりをサポートしたり、学んだことを一緒に活かしたりするほうに力を入れれば、少ない予算で市民の満足度は高まり、市の社会課題の解決にもつながるのではないのでしょうか。社会課題に関する講座を受けても、結局学びっぱなしで活かせないことも多いですから。	企画提案
26	それぞれに合ったやり方で、自由に勉強すべき やりたいことを見つけてやればいい	感想
27	たくさん公民館があるのだから、各館の講座数を増やしてほしい。偏りがある。	企画提案
28	ただ飯を食い、ただ息をして生きているだけよりも、生き活きと毎日、誰かのために生きるこんな素晴らしい人が増えればよいが	感想
29	だんじり祭にちからを入れずに、もっと、交通ルールを特に教えてください。学習も必要ですが、安全な町にしてください。	感想
30	テニスコートを時々利用させてもらっているが、施設予約システムがもっと使いやすかったら良いのと感じる。スマホページもあるが、見にくくて使いづらい。 スポーツ施設の駐車場は、中央公園＆総合体育館などのように有料化して、それを設備の保全費などに活用すれば良いと思う。(受益者負担) 中央体育館の老朽化が進んでおり、建て替えを検討してもらいたい。 老朽化し使用していない市民プールは集約するなどし、跡地を活用すべきだと思う。	環境整備
31	どこでどの様な学習ができるのか知らないの、興味のある内容なら是非参加したい	情報発信
32	どのクラブも会費が高いので考えてしまう	感想

33	とんぼ公園が市内の運動公園でグランドゴルフ場を作ってほしい。	環境整備
34	ひとつの講座を終えて完結ではなく紐づいていくなればより深く知ることができると思います。	感想
35	音楽イベントたくさんやってほしい 特に吹奏楽 ジュニアオーケストラで、バイオリンだけでなく管楽器も習えるようにしてほしい 学校や楽団から使っていない楽器をかき集めて、楽団から指導者を募って教えてあげる機会があると良い	企画提案
36	音楽をはじめ文化関係の講座を充実してください。	感想
37	何か整理されていない感じがする。情報が多過ぎ、目的箇所に早く到達出来る様にデジタル工夫等必要。	情報発信
38	介護福祉系の資格や福祉関係の講座、高齢者向けのものしか推進されていないように感じる。実用できる資格や実務的に知見が広がるような企画があればいいと思う。	企画提案
39	概ね満足している。	感想
40	各公民館で講座やクラブがあるので有難い。自転車でも行くことができる距離なので良いと思っている。年齢と共に社会参加も減ってくるので、比較的近い場所で生涯学習が学べることに感謝しているし、これからもそうあって欲しい。これらを通じて岸和田市内で知り合いが出来るのも良いことだと思っています。	感想
41	各市民センターや公民館等への予算の増額と職員の資質の向上が重要であると思います。各施設での職員が明るく、地域住民と一緒に問題解決に取り組むことが地域・住民からの信頼と集いやすい施設として利用されることにつながると思います。そのことが生涯学習の広がりや地域の活性化になると思う。	企画提案
42	学びたい市民に対して伴走型の中間支援が必要。まず市内の各部・各課との情報共有と連携を。	企画提案
43	学びに対するアドバイザーが公民館にいて相談できたら良い。高齢化社会は、近くに通える場所が必要(ひきこもり、認知予防)	企画提案
44	学習場所の充実、講師のスキル向上、費用の負担を抑える、市職員の教育(柔軟な対応ができない、お役所的)ある程度の判断権限を与えてほしい	企画提案
45	楽しく学べるものがいいい	感想
46	岸和田に住み始めて子育てしながらの中、家庭教育学級や市の公民館の様々な講座が充実していることに本当に助けられたり、深い学びが得られたり、知り合いができたり…とお世話になっております。最近では、毎月の広報でどんな講座やイベントがあるのかチェックするのが楽しみとなっております。これからも様々な学びや体験の機会を期待してます。そのために未就学児だけでなく小学校低学年くらいまで保育が充実してくれると嬉しく思います。よろしくお願いいたします。	企画提案
47	岸和田の良いところである地域コミュニティを活かした何かがあれば良いと思います。 他市を参考にするのも良い方法かと思ひます。	企画提案
48	岸和田市からの動画配信。SNSなどで、計画や、行事予定日程。市役所や市内コンビニ等での行事予定の紙バタイでの掲示等、よろしくお願いします。	情報発信
49	岸和田市は高齢者、子育て世代向けのものは最近増えている様に思ひますが、その間の世代がやってみたいなあと思うものが全くありません。 80年代90年代カラオケ、編み物、水彩画…	企画提案
50	岸和田市は主要施設の全てが岸和田駅周辺から浜地区に集約され、他はなおざりな施設ばかりです。私の住む山滝地区は岸和田駅に向かうより和泉中央駅へ行く方が近く、便利です。岸和田市全体を包括的に、文化の拠点施策を考える必要があるのではないですか？ 岸和田祭から脱却した岸和田が必要と思ひます。	企画提案
51	岸和田市は人工芝等整備された運動場が無い 貝塚以南は少なくとも1つ以上ある。(貝塚1、泉佐野2、泉南1～2) 子どもたちのスポーツへの興味・関心を始め、競技者のレベルを高めるためには、地元での練習場設備の充実是最優先課題である。 他地域からの大会誘致を実現し、ホームグラウンドで試合ができる経験と、競技者が集まることによる経済的な利点を踏まえても、個人の生涯学習における環境改善以上の効果があると考えます。 なので、浜工業公園・まなび中央公園のグラウンドを人工芝に変え、設備の充実を図っていただければ有難いです。(岸和田市在住 サッカー経験者)	環境整備
52	希望の講座に抽選もれする事が多いと周囲からも残念な声を聞く4月。もっと人数を増やすか、教室を増やすか、抽選もれの多かった講座は来年度検討していただきたい。具体的にどんな講座があればいいのか市民アンケートをSNSで定期的にとり反映していただきたい。いつも同じような講座で応募の興味が薄れます。なので新しい講座があると殺到するのでしょね。	企画提案
53	既存施設利用者が多く回答し、その人たちの意向が強く出るようなアンケート内容、実施方法であり、意味のないアンケートだと思う。市の職員が作っているのかわからないが、このアンケートの結果をもってこれが市民ニーズです、みたいな処理は政策のミスリードに繋がるのでやめていただきたい。	企画提案

54	休館日をすくなくして欲しい	企画提案
55	求めれば与えられる	感想
56	牛滝山行きのバスをもう少し増やしてほしい。	感想
57	去年開催していたアドラー心理学の講座をまた、開催してほしいです	感想
58	教室の中には、高齢になり 代表の役に当たると登録申請書などの提出物が多く、館祭りに実行委員にあたるのが困ると、辞める方がいます。 まだ続けたいねんけどと、言いながら。教室の人数は減らしたくないし、何か対策無いですか？	感想
59	興味のある講座が少ない	感想
60	興味のある講座を見つけやすくしてほしい。向上心を高めたい。	情報発信
61	近くでの開催が全くない 交通手段がない	感想
62	近隣自治体と比較すれば全体的に見劣りすると思われる。	感想
63	月1回の利用で今の所充分です ありがたい事です	感想
64	健康教室的なものを講座や運動も含めて開催して欲しい。 1日限りのものでも良いので、市民が気軽に参加できるようにして欲しい。 既存の教室はグループや常連がいて初心者には入りづらいので、単発のものや、新しい講座を毎年企画して欲しい。	企画提案
65	健老大学で学んでいます。施設の老朽化と傾斜が強い階段が問題です。NPOだから仕方ないですが福祉センターが通常で使用出来るようにして欲しい。高齢者の心と身体を健康を市にもっと積極的に考えてもらいたい。市とNPOの連携強化を強く希望します。	環境整備
66	元気な老人を増やす取組み(介護保険料の支出が減る＝高い保険料を減らす)、老人の力の活用(職業経験を地域で活かす取組みを教育・保育や地域活動に活かす) 建物も複合的目的をしっかりと考えてほしい。 設備も後手に回らず、先を見越して新しい施設の設備を考えて欲しい。 福祉センターでWi-Fi設備が一部しか入っていないのは建てる時に時代の流れを見ることが不十分だったあらわれと思っている。市民の健康・安全な暮らしを1番に考えて、職員も市役所の中だけでなく外へ出て情報収集して仕事をして欲しいです (忙しくて大変な方がいることも分かった上できついことを書いています)	環境整備
67	現在の利用者は年配者であったり、いつも決まった特定の人たちが主なユーザーのようなので参加する気にならない。 新たに参加したいという人たちが、若い世代に人たちが気軽に使いやすいような環境にすべき。 10年ほどで使わなくなる年寄りが要望することを実現させようとする中で、若い世代に将来的に負担を負わせることがないようにすべきと思う。	環境整備
68	午前一番9時～の利用に関して、利用時間にならないと鍵を受け取れないので、5分前に鍵を借りれるようにお願いしたいです。	館の運用
69	語学等の講座があれば嬉しいです。	企画提案
70	公共施設を今より後退させずに、さまざまなニーズに応える講座など学ぶ場を増やして欲しい。	企画提案
71	公民館すら遠く思う人は大勢います。 体育館や文化会館などが近いといいですが、そうでない山沿いの自転車すら難しい地区のことを考え、町会館をもっと活用していただけたらと切に思います。	感想
72	公民館で行っているクラブ、サークル活動について、インターネットだけでなく広報紙にも載せてほしい	情報発信
73	公民館によつて、職員の態度が良かったり、そうでなかったりする。 (冬の寒い朝でも時間が来ないと外で待たされる)	館の運用
74	公民館のクラブ活動の講師へのお礼が、公民館スタッフから講師を前に提案された。他のクラブや以前の講師との差があつて、疑問を感じた。講師を前に高いとは言えなかった。講師料の謝礼について、ある程度決めてもらいたい。また講師が休み、回数が減った時も講師料が減らせると思うが、通常の講師料を払っているクラブもあり、クラブに関しては公民館は関与しないのだろうか？ なぜ講師を前に以前より高い講師料を提案するスタッフがいるのか。自主運営なら、講師を前に金額の提案はすべきでないと思います。	館の運用

75	公民館のクラブ登録の際の書類を簡単にして参加しやすいようにして欲しい。代表になった時大変なので。	館の運用
76	公民館利用規則の紙の枚数が多くて面倒くさい。クラブの代表者会議は年2回になって良かった。公民館を利用する時、館担当者が説明してくれましたが、覚えきれなかった。利用者向けにわかりやすいマニュアルをクラブ員に配布して、年度ごとに変更がある事なども周知徹底したり、これから利用しようとする人にもわかるようにしてほしい。 毎年規則が厳しくなっていて、きついと思われている。 銀行みたいにわかりやすく提示してあれば、なるほどと納得されると思います。 また、備品や消耗品、クラブロッカーなどは小さく、不十分です。毎年クラブ員にアンケートをとり、改善したら良いと思います。以上	館の運用
77	広報だけの見出しでは、内容がわかりづらいものがあるので、QRコードをつけてどんな活動なものなのか見れたりしたら もっと参加しやすいかなあと思います。	情報発信
78	行政が直接前に出て運営をするのではなく(行政が行うとコスト高で不効率)。NPOや民間企業の活動支援に徹すべき。費用が安いに越したことはないが、安ければ良いというものではない。現状見ていると福祉ということで市民センター等の利用料金が安すぎる。 一部特定の人たちの利用であり、市民の財産を利用するのであるから、受益者負担の原則を貫き、もっと高くすべきである。	企画提案
79	講座に通っている人は生活に余裕のある人なので、なくなっても民間のスポーツジムや講座に通うと思います。 充実させる方向ではなく縮小していく方向性で進めてほしいです。 そこで浮いた税を他の子育ての予算に充ててほしいです。	企画提案
80	講座の種類を増やして欲しい。 駐車場の完備。 近くの公民館に参加したい講座がなく偏りない講座の種類があればよい。	企画提案
81	講座内容の充実	企画提案
82	講座内容の充実を期待	企画提案
83	高齢者から後期高齢者までの人が働ける軽作業の求人。	企画提案
84	高齢者にとって階段はつらい。1階で学習できるスペースを希望します。地域の公民館等で老人会LDHの使い方等を教えてほしい	環境整備
85	高齢者の人達が体力維持の為 運動等に力を入れて欲しい	企画提案
86	高齢者むけの茶道や、着付け、花道等の講座を増やして欲しいと思います	企画提案
87	高齢者対象の、特に家に引き込もっている人対象での生涯学習を考えてはどうですか。	企画提案
88	高齢者大学の費用負担少なくしてほしい	企画提案
89	高齢者大学や女性学級の学習内容について疑問を感じます。入りたいと思う魅力がないです。	感想
90	今、70代前半。10年以上ボランティア関連の活動をしています。その活動のきっかけは、市民センターに置いてあるチラシからです。それがきっかけで「何か、いい催しは無いかな？」とラックを見るようになりました。QRコードからの情報も必要かもしれませんが、紙ベースも残して欲しい。岸和田市の生涯学習の取り組みは概ね満足しています。	情報発信
91	今、ボランティア活動をしています。70歳を過ぎて活動できるのは子育ての時期、家庭学級・自主学習グループで学ぶ機会が持てたおかげです。小学校区ごとに公民館があり、職員さんによろしくしていただきいろんなことを教えていただきました。自分が高齢になり感じることは高齢者が生きがいを持てると、そのために健康に気をつけ認知症にもなりにくく、介護保険や医療費を使うことが少なく市の財政にもいいと思います。 公民館などの活動拠点を減らすのと五体不満足な高齢者を増やすのとどっちがいいか、よく考えてほしいと願っております。	感想
92	今のままで大丈夫です。	感想
93	今は時間の余裕があるので、やりたいことに手を出せるが、子育て中や仕事をしている時は時間が合わず諦めたことが多かった。夜や土日に参加できる講座がもう少し充実するといいのではないかな。	企画提案
94	今まで生きてきたことの実感を私を表現することでそこに集まってくれた人々と時間、空間、声、動きを通じて、お互いに何を感じることができるひと時を持てば、小さな一歩でも本当の豊かさにつながっているのではないかと考え行動しています。そんな場の提供ができたり提供ができたりすることのできる場所作りが人生を豊かにその人自身の持っている本来の力や輝きが出せる学習であったり、集いの場があったりすることを望みます。そのような学習が生涯教室だと私は思っています。そのような場所をもっと開放していただきたいと願います。	感想

95	最近公民館のロビーが、子ども達の自習場所として提供されていますが、その成果は如何なのか？ 反面、ロビー等で市民の私達がちょっと打ち合わせをする時間や場所が制限されたような気がいたします。→となれば、クラブ時間の延長もしくは、部屋借り上げ料金を下げるなど見直していただきたいところです。	館の運用
96	最近参加していないのでわからない	感想
97	最近市の施設が次々取り壊されていくのが悲しいです。古くて使えなくなるのは仕方ありませんが変わりの新しい物を作ってください。比較的新しい大きな建物だけでなく身近で親しみの湧く施設が欲しいです。	環境整備
98	堺町の公民館は駐車場が少なく、市役所駐車場を毎回利用します。講座受講の際は駐車券を発行してほしいです。	環境整備
99	参加したい講座は、たくさんあるが、開講時間が平日のお昼に集中しており、また、インターネットを使って離れた場所でも参加しにくい対人スタイルがほとんどで現実には参加しにくい状況にある。 先だってその改善提案をしているが、なかなか改善されないままが現実である。	企画提案
100	参加できそうなものはなかったのですが、東岸和田市民センターで何か教室はないか、と何度か検索したことはあります。「教室」は「講師の有無」にも関係してくると思います。ですのになにかを学ぶ教室以外に、そこにある図書館で座って勉強できる環境になるといいなと思いました。(以前図書館へ行った際、本を読む以外の書きものはできない感じだったので…)	環境整備
101	山直高齢者大学3年目 講座毎月楽しいです。自分のご褒美です。ありがとうございます。	感想
102	子どもたちが学べる場が欲しい。図書館も他市に比べて老朽化していて、子供と利用しにくい。駐車場も少ない。各公民館や市民センターに自習できる環境を整備して欲しい。古い公民館などはいらないので、新しいところを充実させて欲しい。利用していない屋外プールは、早く有効活用してほしい。公園も今時の遊具を設置して欲しい。ボール遊びできる公園もあれば嬉しい	環境整備
103	子供がいながらも楽しめる講座があれば嬉しいです！スポーツなど体を動かすもの。	企画提案
104	子供会が無くなっている町があるので、市からバスツアー等に行けるようにしてあげて欲しい。年三回、バス乗り場が山手、中央、浜手で車所有していないシングル家族が近くの乗り場を選べられるよう配慮して欲しい。	企画提案
105	市は文化的、福祉、ボランティア活動にも予算を投入すべき	企画提案
106	市内で行われているスクールなどに岸和田市民が入会する場合に市民割のようなものがあれば嬉しい。	企画提案
107	市民が文武両道を実現できることを願う	感想
108	市民センター、公民館の施設を一般開放してほしい。利用においてはインターネットでの予約を導入してほしい。浪切ホールについても、当日の利用申し込みを可能にしてほしい。音楽の練習に不自由しており、練習場所が多ければ助かります。	環境整備
109	市民センターにて鳴子を習ってます 地域のボランティアや岸和田市主催の音楽祭・農業祭にも参加して地域の活性化に少しでもとの思いです 主の所属団体は泉佐野に有り泉佐野のイベントにも参加する事も多いのですが明らかにイベント開催の多さと市民学習活動の違いを感じます。 市民センターで習って習字・そろばんの級が取れる事に伸びたりまた常に展示もしているのですね。 (私が見ていないかも知れませんが) 地域活性化につながるイベント計画に期待しています	感想
110	市民センターの充実です。生涯学習は医療、介護予防になり寝たきりを防いでいます。市民センターで市民健診、歯科健診、デサービスなど市民であれば自由に気軽にいけるようにして欲しい。	企画提案
111	市民センターの設備の充実(例:春木市民センターの実習室の設備の故障を直す、市民センターが公共機関から遠い、駐車場が狭いなど)、広告が少なすぎて何をどこでやっているかわからない。(市民センター内での掲示だけだとそこに来た人しか見れない。もっとSNSや広報紙を通じて大々的に広報しないと仲間が増えず広がりが無い。 施設の予約システムをもっと簡略化して欲しいです。	環境整備
112	私は現在中央地区公民館でクラブ活動していますが、岸和田駅の近く(隣接とまではいかなくても徒歩3分以内)に生涯学習の場(建物)があれば良いのにと長年感じています。社会援助組織(ロータリ、ライオンズ、ソロプチ等々)のクラブ数、会員数が激減しています。南海本線の他の駅には駅前にショッピングセンター、研修センター、ホール等があってとても便利で他市からも参加しやすいのに、岸和田駅(南海)周りにはありません。駅のそばなら仕事帰りの若い人や中年の人も利用しやすいのではないかと思います。学習センターというかコミュニケーションセンターとカルチャー教室などが一緒になっている建物は阪神・阪急沿線の駅に多いです。アーケードの中の元福板屋さんあたりにその様な施設があれば人が集まってくるのではないかと思います。(ミニホール・展示会・会議・研修・練習室など多目的に利用)	環境整備
113	私は高度聴覚障がい者でかつ高齢者ですが、市あるいは関連団体の催しには参加の意思があります。それで、どんな催しにも手話通訳者が要約筆記者の配置を希望します。せめて、催し関係者の手持ちのスマホ(タブレット)に「こえとら」か何かの音声→文字変換アプリを入れておき、簡単な情報だけでもわかるようにしてほしいと希望します。	環境整備

114	自宅から東岸和田市民センターは近いですが、子どもたちが魅力的に感じる講座はほぼありません。どちらかといえば中央公民館がありよく利用しています。市内全体で分散して講座を開講していただけたらありがたいです。よろしくお願いします。	企画提案
115	自分たちでクラブ等を立ちあげる時の方法、場所、指導者等についての相談窓口がわからない。今あるクラブには閉鎖的な感じでなかなか新たに入りにくい。	感想
116	自分のライフスタイルや志向に合うクラブや講座を見つけて参加し活動しているので充実しているやってみようという意欲を掻き立てるような内容の広報がいいように思います	情報発信
117	社会として、あるべき姿を明確にすること。スクラムを組んで自然農法に取り組めるように後押しするだけではなく、前面に立って進めて欲しい。岸和田市を自然農法の先進地域にしましょう。どこの都市もまだ宣言していない『自然農法宣言都市』をトップで宣言しましょう。	感想
118	若い人にできる限りついて行きたい ウィンウィンで若い人と付き合っていきたい	感想
119	若い世代にも興味をもてるような内容の講座や、zoomを用いた受講や、受講後に参加者がどう感じたか、またそれを活かして実践したことはあるかなどの、後追い報告、など。	企画提案
120	手続き、予約、支払いの簡素化。特にネット予約及び支払い等での2度手間(中央公民館)早急に改善を！！	館の運用
121	趣味嗜好の多様化多形態化、人間関係のストレス性、金銭的年齢的公共性。	感想
122	終わったあとの結果報告よりも、事前に募集をわかりやすく、積極的にPRして欲しい	情報発信
123	春木川や蜻蛉池など岸和田市内の身近な自然と触れ合える機会を定期的に設けてほしい(市の土木課、緑地課、植物や動物の専門家を招いての四季折々の具体的な話を聞いてみたい)	企画提案
124	少子高齢化な社会を考えた進め方	感想
125	常連の利用者が多いのなら、最初から利用者の少ない講座を減らして、大きな企画で大勢の人を集めた方が効率的な気がします。	企画提案
126	職員さんに社会教育の理念を学んで欲しい。	感想
127	色々な講座を用意していただいているのはありがとうございます。 ただ、興味を惹かれるものがあまりありません。たまに参加しても内容が期待したものでは無く残念に思うことがあります。	感想
128	新入会優先の案内に満を持して申し込んだ講座にも、抽選の結果落選の通知が来るとモチベーションも下がり「厳正なる抽選」?の信憑性が低いと感じている。	感想
129	人の生き方を学んで人生を楽しく生きる為他人の人生感を聞きたい	感想
130	人間関係が煩わしく、生涯学習に興味の無い私のような層は無視して、施策を進めていってもらえれば良いと思います。 今や学習についてはネット等で出来るので私は不要です。 運動についてはやりたい時にそういう場があると良いのかもしれませんが、まちの講座だと距離が近そうなので民間のスクールに行くと思います。	感想
131	図書館の充実、もっと利用しやすい場所に建て、もっと行きたくなる図書館にしてほしい。	環境整備
132	図書館本館が老朽化し、また、エレベーターが無い事で足の不自由な方が利用し難い状態です。早急に立て直しを実現してほしいです。	環境整備
133	図書館本館にエレベーターをつけてほしい車イスの方に職員がそれらしき本を何冊か持って降りてきているのを見たが利用者は色々な本を見て選びたいし、たなを見ていううちに思わぬ本に出会う楽しみがある。 この本館にしかこれない人に配慮してほしい 公民館の利用時間にゆうづうをつけてほしい、空いている時は15分ぐらい前から入室させてほしい、講演会など参加者に学ぶ時間を保障したい 一時の参加者や利用者数で判断するのではなく長い目で見て、学びの場をたくさん提供することが市民の意識向上になると思う	環境整備
134	図書館本館をよく利用していますが他の市の図書館に比べると古さが目立ちます。子連れや学生が利用しやすいよう新しくしてほしいなと思います。	環境整備
135	数ヶ月で完了する講座や続けていける講座など、後腐れの無いものがあれば良いと思います。	企画提案

136	生まれて以来岸和田を離れたことがない。岸和田といえばだんごりしか出てこないのが現状かと感じる。文化面の一層の充実には、予算と人材が必要である。現在、理化学研究所の共想法に参加しているが、このようなプロジェクトがもっと増えていくべきだと思う。習い事、運動、子育てサポートと、何でも積極的に取り組んでいきたい。今日、久しぶりに岸和田図書館に行ったが、照明が暗く、蔵書も全て煤けたように見えた。毎年、予算を立てて、新しい書籍を購入されているだろうに、昔のままのたたずまいで、カビ臭さしか感じられなかった。抜本的に改造しなくては、全く魅力がない図書館である。	環境整備
137	生涯学習(社会教育)で学ぶことによって 積極的な市民が育つように 職員に仕掛けをしていただきたいです	感想
138	生涯学習サークルの横でのコミュニケーションの促進、	企画提案
139	生涯学習という点で高齢者主体になりがちになりやすい点は理解しているが、30代40代の単身者に向けて繋がりを促す何かがあっても良いと感じている。	企画提案
140	生涯学習といっても、年代によっても学びたい内容はかわってくると思うので、各年代に応じた内容にしてほしい。あれもこれもとたくさんはいらないので、難しいですが今、興味があるタイムリーなものがいいですね。	企画提案
141	生涯学習について、どのような活動がなされているのか、一般の人への情報が不十分 知人等の口コミでは知り得る市民に限られてしまう 活動への参加人数を増やしていく為には、広報紙等一般市民にも情報が届くような方法が望まれる	情報発信
142	生涯学習についてあまり知る機会がなかったため、今後の情報を広報しわだのコラム等で連載したりするのはいかがでしょうか？ 自分には関係がないと思うと、必要な記事以外は素通りしてしまうため、まずは目を引く形をとって情報を広めていただけると嬉しいです。	情報発信
143	生涯学習の進め方とは違うかもですが 設備の面では トイレを改装して頂き綺麗に成りましたが 利用して 驚き!! 全て洋式で良いのですが 冬時期の洋式便座に座れ無い 温便座では無く エア便座にして 使用しないといけない かなり 使い辛いです	環境整備
144	生涯学習の成果として、子ども世代の学習などの子育て支援に活かせることにより、暮らしやすい町となると思います	感想
145	生涯学習の認知検討をありがとうございます。結婚の折り・ライフステージの変化後30数年間岸和田市民として過ごし、子育て期そして次の自身の人生を積み上げる現在～公民館講座によって様々な学び経験を出来たと自認してます。アンケート方式の為に書ききれなかった消防署で心肺蘇生法の学び直しや自主学習グループやサークル主催の環境問題、ゴミの正しい処理。災害時の対策、今出来る防災家庭での準備等～健康維持、地域活動その他、多くを改めたり！デジタル機器AI利用まで知見を広げたり生活密着の事まで、市内で充実させて貰っている現在です。今後も市民の経済力に関わらず、必要と思えばバリアフリーに(免許も10年前後?)返納要する予測)学び機会を多くお願いします。オンライン学習出来るタイプの内容は それも限られた予算を有効に使う手段⇔使える方法をも普及率上げる指導受ける機会 継続してください。本当にお世話になってます。ありがとうございます!! いずれ年金生活となり経済緊縮化が目に見えるけれど、経済力に弱さがあっても、人として人とつながる生き方を維持させて欲しいです。どうぞ長期的に超少子高齢化社会化進んでも人権を大切に中期長期プランを設計設定願います。	感想
146	生涯学習は、イキイキと生きる力を育むことができて老若男女必要なことで活発な市町村は人が集まっていると思う。特にお年寄りは、退職して行き場を失い病院通いや寝たきりになるリスク軽減となり、医療費削減につながる。共働きの若い人向けの土日の講座、まだまだ元気なお年寄りの平日のサークル活動の支援の充実。文化クラブや老人会も役員をしないとイケないなど気軽にやるハードルが高い。まだまだ元気で知識や技術のあるお年寄りの活躍の場を作る、運営の補助をしてあげて楽しく人生を歩んでもらえたらいいと思う。	企画提案
147	生涯学習は人それぞれで目的も内容も方法も違い、今の時代色々選べるから、そんなに市が躍起になって進めなくても良いと思う。民間に任せて民間では出来ない部分を市がやれば良い。市が率先する必要は無い。	企画提案
148	青少年の育成が岸和田の特に必要とされる生涯学習の課題だと思う。その為には、青少年の育成のための拠点としての青少年センターを創ってほしい。	環境整備
149	先日、土井善晴さんの講演会に行きました。 とても良かったのですが、無料で渡された記念のマスキングテープ、好みではないので帰ってすぐに捨てました。あとで講演会の費用が100万円と聞き無駄高いでは！？と疑問。講座自体は良かったのにと残念です。 最近色々な講座に行くようになったのですが、お料理系は人気なのでもっと増やして欲しいです！ 大人の書き方などもあれば嬉しいです 新しい企画楽しみにしています	感想
150	泉佐野市と比べ講座の種類が少ないのが残念。もっと豊富にしてほしい。	企画提案
151	泉州地域は基本的に投資・教育・文化に興味が無く、推進が大変と思いますが頑張ってください。	感想
152	総合体育館でのズンバ、エアロ教室に参加しています。先生方、参加者の方々も皆さんいい方ばかりで楽しく通っています。ただ、ロッカールームやシャワー室が古すぎて夏場シャワーを浴びて帰ろうかなとは思えません。入口の防犯も心配ですし、駐車場とトレーニング機械が新しくなりましたね。ぜひ、ロッカー室もリフォームして頂きたいです。その為には、多少月謝が値上がりしても仕方ないかなと思っています。 以上、どうぞよろしくお願いします。	環境整備

153	総合体育館を利用させて頂いていますが、駐車料金が必要になると聞いています。年金暮らしは大変です。今までのように毎月利用する人は無料にして欲しいと思います。 公民館はとても大切な施設だと思います。古くなったからと言ってなくさないで下さい。遠くなると利用しにくいです。	環境整備
154	他市から数ヶ月前に引っ越ししてきました。LINEなどで発信されており、市としてとても生涯学習推進に取り組んでおられるところが伝わってきました。これからも大変だと思いますが、がんばってください。	感想
155	他市では土日に子育て支援センターが開いているのに、岸和田市では保健センターや男女共同参画課やその他施設あるかも不明だが、使いたいときに開いていない。自由に使える居場所づくりを増やしてほしいと強く思う。	環境整備
156	多くの市民が興味を持つ、持てる発信を今後もよろしくお願いします。 人気講座があるのは素晴らしい事とおもいます。	情報発信
157	多くの人が参加できる講座を増やして欲しいです	企画提案
158	大学生の頃に、岸和田市立産業高校で簿記を教えていただきました。 とても分かりやすく資格をとることができ、就職にも、働いてからも大変役立ちました。 こういう講座が今も続いているといいなと思います。 平日夕方に子ども向けの英語教室があるといいなと思います。 あと、スポーツチームがあまりない気がします。 本気のスポーツチームだけでなく、緩く競技を楽しむものもあれば良いかと思います。	企画提案
159	大阪市内の広報をよく見るが、生涯学習やボランティアなどの誰でも参加しやすい内容のものが数多くあった 岸和田市内は会場が点在しているため、車がないと行けない所もあり、残念に思う事が多々あった	環境整備
160	大芝公民館でお世話になってます 館長さん職員さんいつも親切に応待してくれますので楽しく学習の日を待ってます シニア体操のクラブありました13年活動しましたが入院と手術の為に自分から退部しました。気功クラブに10年活動しましたが人数が足りなく令和6年12月廃部となりました。もう一度気功クラブ寿先生と講座がクラブでも活動したいと思います。 令和7年ピラティス部で1年活動しました 先生も若いし仲間も若かったので楽しかったです 現在高齢者大学16年程、今年4月から年令を気にしながら女性学級に入会しました 老人クラブでは週1回カラオケ練習 火曜～土曜 雨の日病院に行く日、用事のある時真夏の暑い時は休みますがグランドゴルフ15年、健康で生きられるのも、食事すい眠学習と運動だと思います でもたまにゆっくりしたい時近場の温泉、牛滝、泉佐野犬鳴にも行きます 大芝公民館を無くさないで これからも学習したいです。	感想
161	誰でも、いつでも、気軽に始められるように、料金や場所、必要な物などでできる限り負担にならないようにすることが大切だと思います。	企画提案
162	誰もがいつまでも健康に暮らせるための真の健康情報を発信する講師の講座があれば嬉しいです。 高齢者だけでなく、働き盛りの方たちも地域で学べる環境を整えてほしいです。(もちろん、今もそのように留意して施策をされていることと思いますが。) 若年者が多く利用しているSNSの活用が活かされたら良いです(もっと関心を寄せてほしい)	情報発信
163	誰もが安価に利用できる場を数多く作って下さい。	環境整備
164	単発的な講座を何種類か用意してほしい。そこから新たな入り口ができるかもしれないし、発見できる楽しみがあると思います。	企画提案
165	男女共同参画Cや桜台公民館をよく学習会や催しで利用しています。町会(会館)に比し利用料が低額なのでとても助かっています。 ただし時間単位なので会議の準備の為に1時間余分に取らなくてはいけないのがなぜか？と思っています その会場が予約がなかったとえ15分前でも部屋があいておれば使用させてもらうことは契約上無理なことなのでしょう。きっちりされるのは悪いことではないのですが本当に1分でもその時間がこないと使えないのが実際つかう側としては杓子定規だナァーと思っています。 気軽に安く会場が確保される、近くに施設があることが他市でそんな公共施設がなく困っている方の話をきくと岸和田の良い点と思っています。	館の運用
166	地区ごとの公民館を減らさないで下さい。高齢になっても歩いて行ける集えて学べる場所は大切です。	環境整備
167	中央公民館では 様々な講座が開催されているが、交通機関が少ないため参加しにくい 徒歩や自転車など行くことができる 市民センターなどでもライフスタイルを中心とした講座を開催してほしいと思う	環境整備
168	忠岡町のように民間施設を格安で利用する、DX化を進め、必要な人には情報のプッシュ通知を行うのが良い	情報発信
169	駐車場の確保(入庫台数が少ない)	環境整備
170	定期講座を4月から受講予定ですが 希望の講座で楽しみにしてます。けれど落選された方も多いのが 現状です。人気の講座の一回のみの講座などあれば嬉しいです。 男性の講座も嬉しい事に増えましたが ひと公民館に興味系と体育系など充実されれば 定年後の男性が外の世界に出れるきっかけになればと思います。	企画提案

171	定年退職後公民館の講座等を利用させてもらっています。高齢者が大勢いて驚いています。年1度申請書等を提出し、公民館の利用料が免除され大変助かっています。 ただ、後期高齢者の方々は、書類作成も難儀なようでデジタル化にも対応出来ず、次年度役に当たると分かると辞めていく方々を2つの講座でみました。 活動日は仕方がないにしても昨年度の訂正箇所部分だけ記入するとか簡単に出来ないかと思います。紙の節約にもなるのではないかと感じます。 税金を使わせてもらっているのです少しでも節約になれば、そして辞めていく超後期高齢者の健康確保の為にとも考えます。	館の運用
172	兔に角バス便、ローズバスを増やすか、タクシー補助など意欲があっても、気軽に掛けにくい。免許返納だけ呼びかけても、つぎのてがない。	環境整備
173	登録クラブとして公民館まつりに参画しているが、各クラブの公民館まつりへの関り方に差がありすぎる。登録クラブの貸室は「無料」でしかも1年間の日程を「先押え」してもらっているという”ありがたい”条件なので積極的に参画するのが本筋と思う。 しかし、クラブ員の高齢やクラブ人数の少なさなど自分勝手な言い訳を用い、公民館まつりに対して、他人まかせで消極的なクラブが増えている。公民館への貢献に関わらず「無料」・「日程の先押え」という外形的な特権を同じように享受できるのであれば、積極的に貢献することに馬鹿馬鹿しさを感じる。 高齢化は個々のクラブ特有の事象ではなく、社会全体が高齢化しているゆえに当たり前の現象であり、そもそも高齢に負けずに生き活きと活動するために、生涯学習活動を行うものである。 生涯学習活動を助言支援していく生涯学習課はどのようにお考えなのでしょう。	館の運用
174	土日に開講される、ピラティスやヨガの講座を増やして欲しい	企画提案
175	土日開催の幼児、小中学生向けの講座を増やしてほしい。	企画提案
176	東岸和田市民センターは、駅に隣接しているので、会社員が通勤時に利用し易い。ストレス発散の為の音楽関係の講座を充実させて欲しい。ウクレレやギター。	企画提案
177	同じ事を漫然と繰り返すのではなく、市職員自身が何をすべきかをしっかりと考える必要がある。3月に中央体育館で開催している子ども大会(ドッジボール大会)は、ただか4、5校区しか参加しない状態が何年も続いているにも関わらず、毎年漫然と継続している。市民のニーズに合った施策をできないのであれば、やめた方がマシ。無理矢理続けるのは税金の無駄。	感想
178	道路狭いねん大きくするか国に言うてくれ	感想
179	特に高度情報化社会に市民みんながついて行けるように尽力して頂きたいです。	感想
180	特に不自由はしていませんが 周りを見ると「生涯学習」の存在を知らない方々が案外多いです。 そのため色々な施設の使い方もわからない そんな方々がまだまだ大勢いるようなので 周知お願いいたします。	情報発信
181	読書会してますか、自主活動の充実を求めています	感想
182	認知症、脳トレ、健康診断、魅力ある興味深い市民力レジャの充実、栄養を考えた食事、献立について取り組んでいただきたい	企画提案
183	認知症で、介護をしてる上での色々なトラブルを教えてくださいの講座が、必要になってきていると思う！子育てもいいが、老人介護でがんじがらめの人も多い。対策してほしい。	企画提案
184	年とってるので、出来るだけ自分でできる様に体力つけて頑張っていきたいです。	感想
185	年代や立場によって学びたいことは異なりますが、高齢者としては、健康や医療が一番関心があると思います。また、講師派遣については、土日のイベントにも対応するのが市民サービスだと思います。	企画提案
186	年度始めに講座を探しますが、空きがなく、多分前年度の方が継続で参加されるからかと思われます。広報に載る前には空きが無い。口コミでしか。参加できない。残念に思いながら年齢を重ねています	感想
187	費用が安く、きれいな施設の中で仲間とできる事が楽しく、充実した時間を作ってくれているのがうれしいです。ますます参加されやすいものを期待します。	感想
188	費用対効果を考慮する	感想
189	夫婦共働き世帯にも参加しやすく 興味を持てるテーマを保育付きで開催してください 若い世代が緩やかに地域で繋がる形をサポートして下さい	企画提案
190	福祉について学びたいとは思いますが子育て(障がいのある子を)してるためなかなか難しい。やろうとすれば可能だろうがまわりみんなが同じではないので…。 同じ環境である方同士、学習する場があればいいのになあと思います。	企画提案

191	福祉総合センターの講座は申込人数が多くてなかなか抽選に当たりにくい。同じ講座を増やして欲しい。	企画提案
192	物凄く広い、掴みづらいものであると思います。考えてみた事もない、考えてみてもどうしようもないこととも思います。設問には有りましたが何をもちて生涯学習と言うのか僅かながら舞台が違っているような気がしました。生涯学習とはこういうのを指します、と始めから特定した方が回答しやすいと思います。	感想
193	文化・芸術についての定期講座をしてほしい (費用がかかっても・・・文学について、美術について、歴史についてなど)	企画提案
194	平日の日中は仕事があり介護もあります。 土日の午前中に機会があれば参加してみたいです。 仲間づくりは大切ですが、メンバーが固定するのは苦手です。	企画提案
195	偏った情報だけではなく、多方面からの情報を与え、一人一人が考え判断できる様な教育・学習の場面を提供して欲しい。	情報発信
196	放課後に小中学生がチビッコ以外に過ごせる場所がありません。公民館にこどもを行かせてみましたが、誰も使っていないのに部屋に入れませんでした。ほとんど使われていないか、暇を持て余したゆとりのある高齢者ばかりが使っているような公民館は時代遅れです。受付の人も暇そうで税金の無駄です。大人はネットやジム、公園などでいくだけでも学べるし体も動かせるし、友達と話をしたければカフェにいけばいいです。でもこどもはそれができません。だから、投資はこどもにしてほしいです。せめて、学校のグラウンドや校舎を子どもが放課後もゆっくり過ごせるように公民館をなくして、学校にそんな設備を入れてほしいです。チビッコを利用しない高学年の子を持つ共働き家庭の親の願いです。	環境整備
197	放課後の時間を利用してほしい	感想
198	毎日ラジオ体操、いきいき体操は、欠かしたことは、ありません。 スケッチ水彩等楽しんでおります。	感想
199	毎年公民館主催の定期講座に申し込みさせていただいています。講座数が少なくなっているように感じます。子ども(低学年)、子ども(高学年)、大人向け(大人、高齢者向け)(平日、休日)とバランスよく各館で講座を開いて欲しいです。旭地区、常盤地区は特に少ないように感じます。 定期講座は素晴らしい企画だと思うので、今後とも続けていって欲しいです。よろしくお願いします。	企画提案
200	冷暖房の温度が決まってるらしくて各部屋では調整は出さず、夏は暑すぎ、冬は寒すぎて授業が頭に入らなかつたりします。もう少し厳しさをゆるめて欲しいと思います。	環境整備
201	浪切ホールの備品など古すぎると思う。綺麗にしてほしいです！雨もりも修理してほしいです！	環境整備
202	老人大学は同じような内容の講義が多い、もっといろんな講義をしてほしい。	感想
203	5月にシニアクラブのダンス講師を務めさせていただき、皆さまにとっても楽しんでいただけたことを嬉しく思っております。 岸和田市にお住まいの先輩方の健康づくりを、ダンスを通して応援できることは私にとっても大変光栄で素敵な機会だと感じました。 ぜひ今後もこのような機会を増やしていただき、多くの方にダンスの楽しさと健康づくりの大切さをお届けできれば幸いです。よろしくお願いいたします！！	感想

生涯学習施策に関する【団体】アンケート 自由意見欄

	自由意見欄（※主旨を損なわない範囲で最小限の誤字修正等を行い、掲載しています。）	意見カテゴリ
1	『本当の支援』とは、学校の人手不足を埋めることでなく、地域と学校が対等な立場で子どもたちの育ちを支える『協働の仕組みをつくること』だと思う。 確かに花植替えなど、一定程度効果はあるものの、地域の力を資源として活かすところまで叶っていない。 学校の課題を地域の課題として共有しても、解決策が不明のままである。 善意のボランティアに依存すると、長期間になると必ず細くなるので、仕組みや連携を制度化することが必要。 見守りも不定期で月2回ほど、警察官に巡回して貰う 大学生等部活支援や学習支援の充実 (有償ボランティア)を、制度化して欲しい。 各団体へのお手伝いはお願い出来るが出来るほど余裕がないので、補助金(助成金)を少し増やして欲しい。	費用
2	・学級のPRに関して、新しい方法(テトル配信など)を提案したりするのですがなかなか受け入れてもらえない。 ・例えば「ボランティアだより」みたいな活動内容をPRできる紙面があればいいのに。 ・メンバーはできるだけことは精一杯しています。	情報発信
3	1.バリアフリーの図書館本館を建設する。 2.図書館友の会と各市民協議会との連携に依る公開講演会の実施と交流の場として各市民センターを活用する。 3.各図書館分館(市民センター)の駐車スペースの拡張による、生涯学習の地域毎の拠点施設として各市民センターを明確にする。	環境整備
4	65才～75才の方の加入をどうすれば良いか。土生町は人数が多い為、かえって加入勧誘が難しい。	その他
5	スポーツ振興で言えば、スポーツ施設が少なく活動する場が少ない。春木の体育館が台風で壊れてから、代替えの施設も無く、一方、心技館の廃止に伴い、スポーツや武道の活動の場が減少し、迷惑を被っている市民や団体がいる。 それに伴い、遠くの施設を利用しなければならなくなったりして、不便となったと聞いている。 なお、社会教育施設については、公民館や市民センターなど、地域に展開していると感じます。 スポーツ施設の充実を要望したいと思います。	環境整備
6	各種団体と担当課での密接なやりとり	その他
7	学習テーマは毎年度同じようですが、新しく講師、講演を取り入れられる方法と公民館々長にたずねると、予算の金額が決つてると事、現状社会に於て社会教育予算を増額して下さい。(現状金額年間6万円)10万円に増額お願い致します。	費用
8	学習を続け委員長を受けるには、講師を探すのは大変なので、館長に協力して頂けるのは有難いし必要だと思います。	その他
9	活動を知ってもらう機会が増えれば嬉しいです。	情報発信
10	現在、学校教育の方で担当してるが本来、生涯学習が担当すべきと思うが…(放課後子ども教室)	その他
11	講座情報、講師の情報をいただきたいです。 施設の清潔さと備品の更新などをお願いしたいとおもいます。	情報発信
12	今ある、各団体の活動内容の問題点などそれぞれがゆっくり話し合える場が少ないように思います 子ども会と青少年指導員の合同研修会(自転車の交通ルール)など 子ども会と老人会のカルタ大会など異年齢交流が少ないので、だんだんと分かりあえなくなってきたように思います	企画提案
13	子ども支援・お年寄り支援はよく聞かすが、母親支援、働く世代の支援が少ない(見つけられない)と思う。趣味や生きがいの見つけ方…若い年代で余暇活動の方法を見つけないと、老後、閉じこもり引きこもりにつながるのでは？と思います。	企画提案
14	施設が限定されていてやる事が限られる。 もっと色々な方のアイデアを取り入れたい	その他
15	私たちのクラブでは、毎年の公民館まつりが1年間の活動実践が作品として発表できるので、その公民館まつりでの展示が1年の大きな目標でもあり、活動が続ける動機づけにもなっていると思います。メンバーが増えないのが一番の難題です。	その他
16	私たちの団体は、子供の居場所として活動していますが卒業後も続けられるようなシステムがあればいいと思います	企画提案
17	私達の放課後子ども教室のボランティアは生涯学習のつもりはないので、このアンケートに当てはまるのかどうか分かりませんが、しかし、指導員が内容について何をすれば良いのか模索し続けなければならないのは確かです。子ども達に、どんな活動をしてもらうのか、学習、情報収集が必要なのは確かです。	情報発信
18	社会教育・生涯学習において、専門性のある職員を望みます。	企画提案

19	昭和時代と違って、家族や地域・学校のあり方も変化してきている。 全体的に団体の活動の見直しは、必要だと思う。 例えば、連合子ども会もソフトボール大会と卓球大会で良いのか？ 文化的なものやネットを使ったものの開催など、多様性も必要だと思う。 他団体とのマッチングなど、分かりやすく出来るようにして欲しい	企画提案
20	障がい者児に対する学び及び一般の人の障がい者児に対する知識を深める学びの機会を作って欲しい	企画提案
21	新舞踊和クラブの歴史は公民館を利用して頂いて20年近くなると思う。私が入部して8年(現在85才)先生(師匠)も数人お変わりになり現在に至っています。その都度先生のお考えでクラブ名も代えて来た様に思います。 公民館を利用するには構成員が5名以上で常時半数以上の会員が出席し、活動することの要件が必要であります。 私が入部した時は10数名いましたが高齢化、体調の悪化、私事の都合などで令和7年度は5名の部員で最低の条件で和幸会・公民館まつり・秋の文化祭参加の岸舞会を目標におけいこを通して先生、部員の懇親を図り頑張ってきました。4月26日の和幸会発表に3名が参加。5月から本人の体調、家事都合など退部希望申出があり、先生を中心に対策を考えましたが残念ながら廃部せざるを得ず、館長に申し出ました。	その他
22	他団体の活動を見学したい	企画提案
23	本地区の活動の場は旧小学校分校跡地に建設された葛城上地区公民館で小学校を中心とした集落より離れており生涯学習の場としては足が遠のく。地域の多くの方が利用しやすい場所の施設が必要。 又、人生100才時代に入り、70才を越えても働く人々が多く学習しようという余裕のある方が少ない。 例えば、民生委員が町会館で行っている「ふれあいサロン」は2回/月であるが、多くの高令者が集まり、遊びや物づくりを楽しんでいる。これらをヒントに気軽に行ける生涯学習の場づくりを考えてもらいたい。	環境整備
24	問7、9番 これは私の気持ちなので、又、みんなと話し合った どの辺まで力になれるか、どうか、わかりません。	その他
25	老人会の会長を11年目をむかえ毎期総会で毎月の行事を決定してこれまで11年間やってきました。一番の悩みは活動に対する支金難です。これまで実施してきた行事がこの数年取りやめとなり、お金を使わなくても楽しめる行事を見つけない大変苦労しております。市からの援助他全て10年前と同じです。又、その他も変わりありません。この数年の諸物価の高騰は活動を縮小せざるを得ません。高齢者大学講座に対して学者情報の提供と支援をお願いしたい。	費用

項目	令和8年度												令和9年度											
	R8.5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R9.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R10.1月	2月	3月	
審議会			●			●				←○未定→					●			○未定			●			
アンケート 集 計 分 析	↔	↔	必要に応じて↔																					
団体意見聴取 (必要な団体)	↔	↔																						
学識経験者 意見聴取					●					●														
計画骨子(案) 作成	↔	↔	↔	↔	↔	↔																		
計画内容(案) 作成			↔																					
計画案 意見聴取							● 骨子案					素案は 時期未 定												
事業シート 作成 (体系決定後)							↔																	
生涯学習推進 委員会(施策体 系に関わる関 係課)				●			● 実務担 当者会										● 実務担 当者会							
諮問、答申															●諮問						●答申			
パブコメ																	●広報 依頼	↔						

岸和田市生涯学習審議会委員名簿

別紙 1

[令和 8 年度]

※順不同・敬称略

番号	選出区分・選出団体	氏 名	フリガナ	備考
1	学校教育関係者 岸和田市中学校校長会	新田 昭二	ニッタ ショウジ	(新)
2	社会教育関係者 岸和田市こども会育成連絡協議会	藤原 弘康	フジワラ ヒロノリ	
3	社会教育関係者 岸和田市青少年指導員協議会	メ野 洋司	シメノ ヨウジ	
4	社会教育関係者 岸和田市PTA協議会	山本 洸平	ヤマモト コウヘイ	(新)
5	社会教育関係者 岸和田市文化協会	池内 美智子	イケウチ ミチコ	(新)
6	社会教育関係者 岸和田市スポーツ協会	松端 孝元	マツノハナ タカハル	(新)
7	学識経験者【和歌山大学 教養教育部門講師】	佐藤 祐介	サトウ ユウスケ	
8	学識経験者【大阪常磐会大学 こども教育学部 准教授】	中村 哲也	ナカムラ テツヤ	
9	市民団体の代表 岸和田市町会連合会	西村 忠	ニシムラ タダシ	(新)
10	市民団体の代表 岸和田市老人クラブ連合会	吉田 美喜子	ヨシダ ミキコ	
11	市民団体の代表 岸和田商工会議所	実森 伸一	ジツモリ シンイチ	(新)
12	市民団体の代表 岸和田女性会議	池田 啓子	イケダ ケイコ	
13	市民団体の代表 図書館友の会	杉原 富人	スギハラ フミヒト	
14	市民団体の代表 きしわだ自然友の会	楠本 勝	クスモト マサル	
15	市民団体の代表 岸和田障害者(児)関係団体連絡協議会	上月 正洋	コウツギ マサヒロ	
16	公募市民	里見 勉	サトミ ツトム	(新)
17	公募市民	兵埜 秀雄	ヒョウノ ヒデオ	(新)

○岸和田市附属機関条例

平成15年 3 月14日 条例第 1 号

改正

令和 8 年 3 月24日 条例第 3 号

岸和田市附属機関条例

(趣旨)

第 1 条 この条例は、法律若しくはこれに基づく政令又は他の条例に定めのあるものを除くほか、地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の 4 第 3 項の規定に基づき市の執行機関が設置する附属機関に関し、必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 本市の執行機関に、別表に掲げる附属機関を設置する。

2 市長その他の執行機関は、附属機関における調停、審査、審議又は調査のために必要があると認めるときは、当該附属機関に分科会、部会その他これらに類する組織を設け、又は専門委員若しくは臨時委員を置くことができる。

(報酬及び費用弁償)

第 3 条 附属機関の委員の報酬及び費用弁償は、別に条例で定める。

(その他)

第 4 条 附属機関の組織及び運営に関し必要な事項は、当該附属機関の属する執行機関が定める。

別表 (第 2 条関係)

1 市長の附属機関

名称	担当事務	委員の定数又は 上限の数
岸和田市生涯学習審議会	市長又は教育委員会の諮問する生涯学習に関する 事項についての調査審議に関する事務	18人以内

備考 委員の定数又は上限の数には、専門委員及び臨時委員を含まない。

改正

令和2年6月15日教委規則第4号

岸和田市生涯学習審議会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、岸和田市附属機関条例（平成15年条例第1号）第4条の規定に基づき、岸和田市生涯学習審議会（以下「審議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 学識経験者
- (4) 市民団体の代表
- (5) 公募した市民

(任期)

第3条 委員の任期は、委嘱の日から当該日の属する年度の翌年度の末日までとし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 審議会に会長及び副会長を置き、それぞれ委員の互選により定める。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 審議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

(その他)

第6条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（令和2年6月15日教委規則第4号）

この規則は、令和2年7月1日から施行する。

社会教育法（抜粋）

（社会教育の定義）

第二条 この法律において「社会教育」とは、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）又は就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成十八年法律第七十七号）に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう。

第三章 社会教育関係団体

（社会教育関係団体の定義）

第十条 この法律で「社会教育関係団体」とは、法人であると否とを問わず、公の支配に属しない団体で社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とするものをいう。

（文部科学大臣及び教育委員会との関係）

第十一条 文部科学大臣及び教育委員会は、社会教育関係団体の求めに応じ、これに対し、専門的技術的指導又は助言を与えることができる。

2 文部科学大臣及び教育委員会は、社会教育関係団体の求めに応じ、これに対し、社会教育に関する事業に必要な物資の確保につき援助を行う。

（国及び地方公共団体との関係）

第十二条 国及び地方公共団体は、社会教育関係団体に対し、いかなる方法によつても、不当に統制的支配を及ぼし、又はその事業に干渉を加えてはならない。

（審議会等への諮問）

第十三条 国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあつては文部科学大臣が審議会等（国家行政組織法（昭和二十三年法律第百二十号）第八条に規定する機関をいう。第五十一条第三項において同じ。）で政令で定めるものの、地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議（社会教育委員が置かれていない場合には、条例で定めるところにより社会教育に係る補助金の交付に関する事項を調査審議する審議会その他の合議制の機関）の意見を聴いて行わなければならない。

（報告）

第十四条 文部科学大臣及び教育委員会は、社会教育関係団体に対し、指導資料の作製及び調査研究のために必要な報告を求めることができる。

第68回全国社会教育研究大会 大阪大会

令和8年度近畿地区社会教育研究大会[大阪大会]

令和8年度大阪府社会教育研究会議

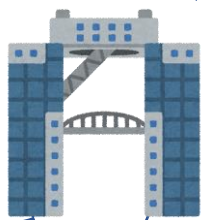
大会スローガン

学ぶってオモロイやん つながるってええやん 地域のことはまかしとき

「研究主題」多様な人材・資源をつなげる社会教育へ学びを社会の活力に



©2014 大阪府もずやん



開催日

令和8年10月28日(水)>>30日(金)

※10月28日(水)は理事会及び担当者会になります。

会場

(29日)国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)

参加費

(30日)新梅田研修センター及び大阪府立中之島図書館
5,000円

詳細はこちら！



主催：一般社団法人全国社会教育委員連合、近畿地区社会教育委員連絡協議会、大阪府教育委員会、大阪府社会教育委員連絡協議会、第68回全国社会教育研究大会大阪大会実行委員会

I 大会日程

1 日目 10/28 (水)						全国社会教育 委員連合 理事会 14:00～15:30		都道府県・政令指 定都市 社会教育委員連絡 協議会等 事務局担当者会議 16:00～17:30			
2 日目 10/29 (木)		全国社会 教育委員 連合総会 10:00～ 11:30		受付 12:00～ 13:00	アトラク ション 13:00～ 13:30	開催行事 表彰式 13:30～ 14:20	記念 講演 14:30～ 15:40	シンポ ジウム 15:50～ 17:10	閉会 行事 17:30 終了		情報交換会 19:00～ 21:00
3 日目 10/30 (金)	受付 分科会 打合せ 9:00～	分科会 9:30～12:00									

2 全体会【10月29日(木)】

12:00～13:00 受付

13:00～13:30 アトラクション 「火縄銃演武」 堺火縄銃保存会

13:30～14:20 開会行事・表彰式

14:30～15:40 記念講演 「夢と冒険 ～モンベル7つのミッション～」

株式会社モンベル代表取締役会長 辰野 勇 氏

15:50～17:10 シンポジウム「多様な人材・資源で創る地域の未来

～もっと社会教育をオモロくするために～」

コメンテーター：吉本興業所属・住みます芸人 span!

17:10～17:30 閉会行事

3 情報交換会【10月29日(木)】

18:30～19:00 受付

19:00～21:00 情報交換会

会 場：グレースバリなんば道頓堀店

(大阪府中央区道頓堀1-4-27 道頓堀ベニスビル1 6階)

参加費：5,000円 ※大会参加費とは別途徴収

4 分科会【10月30日(金)】

第1～5分科会 会場：新梅田研修センター 第6分科会 会場：大阪府立中之島図書館

第1分科会	社会教育委員の役割【兵庫県】
第2分科会	人が育つ環境づくり【滋賀県】
第3分科会	地域と学校の連携・協働【京都府】
第4分科会	社会教育人材の育成【奈良県】
第5分科会	学びの場づくり【和歌山県】
第6分科会	図書館とまちづくり【大阪府】